

会 告 目 次

平成 5 年度論文賞の表彰	2
平成 5 年度 Best Author 賞の表彰	5
平成 5 年度坂井記念特別賞の表彰	7
研究発表会開催通知	8
第 99 回ソフトウェア工学研究会	9
第 66 回マルチメディア通信と分散処理研究会	10
第 2 回音声言語情報処理研究会	11
第 17 回情報メディア研究会	11
第 69 回グラフィクスと CAD 研究会	12
第 55 回ヒューマンインタフェース研究会	}
第 7 回グループウェア研究会	
第 50 回情報システム研究会	13
第 99 回データベースシステム研究会	13
第 102 回自然言語処理研究会	15
第 65 回システムソフトウェアとオペレーティング・システム研究会	16
第 18 回プログラミング—言語・基礎・実践—研究会	17
第 99 回計算機アーキテクチャ研究会	18
第 95 回人工知能研究会	19
第 52 回ハイパフォーマンスコンピューティング研究会	20
第 40 回アルゴリズム研究会	21
第 33 回コンピュータと教育研究会	22
平成 7 年度研究会等の新設提案について	23
平成 6 年度各種行事の予定について	24
情報処理学会「行事」・「書籍」申込書	25
第 49 回全国大会予約案内	26
ビジネス・プロセス・リエンジニアリングのための最新情報テクノロジーの理論と実践	27
「DA シンポジウム' 94」開催について	28
2010 年マルチメディア通信と高速・知能・分散・協調コンピューティングシンポジウム開催について	31
平成 6 年電気・情報関連学会連合大会の開催案内	32
新しい時代の情報処理教育カリキュラムシンポジウム論文募集	36
「グループウェア' 94」シンポジウムのお知らせ及び論文募集	37
プログラミング・シンポジウムについて	38
第 26 回情報科学若手の会シンポジウム開催のご案内	38
「アドバンスト・データベースシステム・シンポジウム' 94」論文募集	39
第 24 回安全工学シンポジウム	40
ヒューマン・フロンティア・サイエンス・プログラム (H F S P) 1994 年度募集開始のお知らせ	41
カラーフォーラム JAPAN' 94 論文募集	42
「学協会は今後いかにあるべきか」	43
第 13 回世界コンピュータ会議出席のおすすめ	44
正会員新入会の特別キャンペーンの実施について	45
平成 6 年度会費・購読費の納入について (お願い)	45
「ソフトウェア開発における仕様記述法とその適用」特集号への論文投稿のご案内	46
情報処理学会論文誌「グループウェア」特集号への論文投稿のご案内	46
学会事務局 (本部) の移転について	47
支部だより	48
本会協賛等の行事案内	49
改 官 募 集	50
准 報	53
会 議 案 内	54
情報処理学会の郵便振替口座番号変更のお知らせ	55
有料会告について	56

平成5年度論文賞の表彰

平成5年度情報処理学会論文賞は、同選定委員会（相磯委員長ほか45名）において、「情報処理学会論文誌」第33巻第10号～第34巻第9号ならびに欧文誌「Journal of INFORMATION PROCESSING」Vol.15, No.3, No.4に発表された252編につき慎重に審議が行われました。その結果下記4編が最終候補論文として推薦され、第385回理事会（平成6年3月）の承認をえて決定されました。

なお、本会表彰規程により、5月20日に開催された第36回通常総会において、著者に表彰状、賞牌、賞金が授与されました。

○「9段数7次陽的 Runge-Kutta 法の最適化について」

〔論文誌 Vol.33, No.12, pp.1512～1526(1992)〕



田中 正次君（正会員）

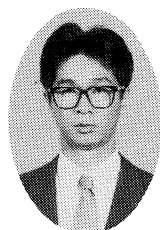
昭和2年生。昭和32年東北大学理学部数学科卒業。昭和36年同大学大学院理学研究科修士課程修了。同年富士電機（株）研究部に入社。昭和37年同社を退職し、山梨大学講師となる。ついで同大学計算機科学科教授、電子情報工学科教授を経て、現在は日本大学工学部情報工学科教授。

専門は数値解析、主として常微分方程式の数値解法とその応用に関する研究に携わる。日本数学会、日本応用数理学会各会員。



山下 茂君

昭和18年生。昭和37年山梨工業高等学校デザイン科卒業。現在は文部技官として山梨大学工学部電子情報工学科に勤務。日本体育学会会員。



村松 茂君（正会員）

昭和39年生。昭和62年山梨大学工学部計算機科学科卒業。平成元年同大学院修士課程修了後、富士ゼロックス（株）入社。総合図面管理システムの開発に従事、現在に至る。

〔論文概要〕

この研究においてわれわれは、著者たちが導いた4自由度をもつ9段数7次陽的 Runge-Kutta 法の次数条件式群の解を使用する。また、公式の打ち切り精度や安定性、丸め誤差などに関する特性を評価するための基準を導入する。ついで、これらの基準に照らして公式が打ち切り誤差、安定性、丸め誤差などについて好ましい特性をもつように、次数条件式群の解の自由パラメータを特殊化して公式を得た。その結果、これまでに知られていた公式よりも特性が著しく優れている公式が得られたので報告する。

〔推薦理由〕

多段数高次の Runge-Kutta 公式は、いくつかの自由パラメータを含むため、その値によって打ち切り誤差や安定性などが変わる。本論文では、4自由度をもつ9段数7次陽的公式に対し、これら特性を評価するための新たな尺度を提案し、それに基づく最適化法を具体的に示している。導出された公式は、絶対安定領域が大きく、かつ打ち切り誤差が小さい点で、既知公式を凌駕する優れた特徴をもっている。

本論文は、著者等による Runge-Kutta 法に関する一連の研究成果を集大成したものであり、しかもここで提示された考え方は、他の次数条件式の解法の最適化を行う際の雛形を示すものと期待できる。この分野の一層の発展に寄与するものと評価し、論文賞に推薦する。

○「ソフトウェア再利用の管理的側面」

〔論文誌 Vol.34, No.5, PP.1117 ~ 1124(1993)〕

磯田 定宏君 (正会員)

1946年生。1969年東京大学理学部物理学科卒業。1971年同大学理系大学院物理学専攻修士課程修了。1971年日本電信電話公社(現NTT)に入社。管理システム研究室長、ソフトウェア基礎技術研究部長などを経て、現在、NTTソフトウェア研究所主席研究員。1978~79年米国イリノイ大学計算機科学科客員研究員。理学博士。ソフトウェア工

学全般、特にCASE、設計法、再利用、メトリックス、プロジェクト管理、ヒューマンファクタ等に興味を持っている。1993年より情報処理学会ソフトウェア工学研究会主査。COMPSAC'91、ICSE'93、ICCI'93、ICRE'94等のプログラム委員。電子情報通信学会、ソフトウェア科学会各会員、IEEE シニアメンバー。

〔論文概要〕

多くのソフトウェア再利用の成功例が報告されている一方、期待されたほどには効果をあげていないという否定的な意見が少なくない。これは再利用の本質と、それからくる適用条件および期待される効果についてまだ共通認識がないことと起因している。本稿では、まずソフトウェア再利用運動の実践例を紹介する。ついで、そこでの経験に基づき、ソフトウェア再利用では技術的課題よりも管理的課題が占める比重の方が大きいことを示す。さらに、再利用を成功させるためには、上級管理者のコミットメント、良いドメインの選択、およびドメイン分析に基づく体系的な部品作成が必要であることを示す。

〔推薦理由〕

「ソフトウェアの再利用はどの程度可能か、有効か?」という多くの人達から発せられる問に対して、具体的な事例について詳細な分析・評価の上、明確な答を示している。ソフトウェアの再利用プロジェクトを4年間実施した上で、ソフトウェアの再利用には管理面が技術面よりも重要であることを明らかにし、かつその成功には何が必要かをあげている。また、部品ライブラリの検索機能はほとんど不要であることを見出している。この分野において軽視されがちな課題の重要性と今後の方向を示す重要な研究である。

○「レジスタウィンドウ方式を用いた擬似ベクトルプロセッサの評価」

〔論文誌 Vol.34, No.4, PP.669 ~ 680(1993)〕

中村 宏君 (正会員)

昭和38年生。昭和60年東京大学工学部電子工学科卒業。平成2年同大学院工学系研究科電気工学専攻修士課程修了。工学博士。同年筑波大学電子・情報工学系助手、平成3年同講師。計算機アーキテクチャ、並列処理、計算機の上位レベル設計支援に関する研究に従事。電子情報通

中澤喜三郎君 (正会員)

昭和30年東京大学工学部応用物理学卒業。昭和35年同大学院数物系博士課程応用物理学修了。同年(株)日立製作所入社。TAC, HITAC5020, E/F, 8800/8700, M-200H/280H, 680H, S-810等、超大型コンピュータ・スーパーコンピュータの開発に従事。平成元年より筑波大学電子・情報工学系教授。計算物理学センター向きの超並列処理システムの研究開発に従事。工学博士。電子情報通信学会, IEEE, ACM, 各会員。

位守 弘充君 (正会員)

1969年生。1991年筑波大学情報学類卒業。1993年同大学院工学研究科修士課程修了。同年(株)日立製作所入社。計算機アーキテクチャ、並列処理の研究に従事。情報処理学会第44回全国大会奨励賞受賞。

〔論文概要〕

大規模科学技術計算ではデータキャッシュが有効に働かず、スカラプロセッサの実効性能は主記憶アクセスペナルティより低下する。本論文で提案する擬似ベクトルプロセッサは、主記憶アクセスをパイプライン化し、データキャッシュの代わりにレジスタウィンドウ方式の浮動小数点レジスタを採用することでこの問題を解決する。レジスタウィンドウ方式

を採用することにより、既存のスカラアーキテクチャとの上位互換性を維持しながら多数のレジスタを利用できる。評価結果より、提案するプロセッサは主記憶アクセスペナルティを隠蔽し、高速に大規模科学技術計算を処理できることがわかった。

【推薦理由】

本論文は、浮動小数点レジスタを複数のセット（レジスタウィンドウ）に分割し、それらレジスタへのプリロード機能を実現する数種類の命令を追加することにより、ベクトル命令やベクトルレジスタを用いずにベクトル計算を高速に処理する方式を提案し、評価を行っている。この方式は、従来のプロセッサで大規模科学技術計算を行う際に問題となるキャッシュミス時の主記憶アクセスペナルティによる実効性能の低下を防ぐ効果がある。また、並列計算機の構成に関して新たな視点と多くの示唆を与えるとともに、ベクトル計算の適応可能性を拡大するものと期待される。論文では、方式の提案、処理の例、アーキテクチャ上の評価と秩序だて論じられており、説得力があり結果に対する信頼性も高い。

○「印象語による絵画データベースの検索」

〔論文誌 Vol.33, No.11, PP.1373 ~ 1383(1992)〕

栗田多喜夫君（正会員）

昭和56年名古屋工業大学電子工学科卒業。同年通産省電子技術総合研究所入所。現在、同所情報科学部情報数理研究室主任研究官。平成2年カナダNRC招聘研究員。多変量解析の理論と応用の研究に従事。工学博士。本学会平成4年度 Best Author 賞受賞。IEEE, 電子情報通信学会, 日本行動計量学会各会員。



福田 郁美君（正会員）

平成4年図書館情報大学図書館情報学部図書館情報学科卒業。平成6年同大学院修士課程修了。同年、大日本印刷（株）入社。在学中に、マルチメディアデータベースの研究を行う。



加藤 俊一君（正会員）

昭和55年京都大学工学部情報工学科卒業。昭和60年同大学院博士課程修了。同年同大学研究生。

昭和61年より通産省電子技術総合研究所勤務。現在、同知能システム部対話システム研究室主任研究官。平成4年3月より英国 University College London 客員研究員。平成6



佐竹あゆみ君（旧姓坂倉）

平成元年図書館情報大学図書館情報学部卒業。同年富士通（株）入社。在学中に、画像処理の研究を行う。



年3月より、通産省工業技術院産業科学技術研究開発室に併任。画像理解、並列処理、マルチメディアデータベース、ヒューマンインタフェース等の研究に従事。工学博士。本学会平成4年度 Best Author 賞受賞。電子情報通信学会, 人工知能学会各会員。

【論文概要】

「ロマンチックで暖かい」というような視覚的印象は、利用者の好み、文化的背景などの違いにより個人ごとに異なっていると考えられる。そうした視覚的印象からの検索を可能にするためには、システムはその利用者にとって「ロマンチックで暖かい」とはどういうことなのか評価できなければならない。しかし、データベースに蓄えられるすべての絵画に対して、利用者ごとの主観的属性をあらかじめ登録することは困難である。本論文では、各利用者に学習用の絵画に対して印象語を付けてもらい、その結果から正準相関分析により印象語と画像特徴との相関関係を学習し、それを検索に利用する方法を提案する。各利用者の主観的な印象語と画像特徴との対応関係を学習しておくこと、印象からの検索はもちろん、類似画の検索や未知画像に対して印象語を推定することなども可能となる。印象派の絵画を対象とした画像データベースに対して、提案手法による検索実験を行い良好な結果が得られた。

【推薦理由】

絵画データベースの印象語による検索を目的に、画像の色彩特徴と鑑賞者の印象との相関関係を、5人の被検者と200枚の絵画について正準相関分析法で分析し、その結果、印象語による検索、類似画検索などが可能なことを示し、具体的システムを提案した。本論文の対象はいまいで扱いにくいものであるが、マルチメディアデータベースを一般ユーザが検索する場合に必要なものである。このような問題に対する統計的手法の有用性を示したものとして高く評価される。

平成5年度 Best Author 賞の表彰

本学会では平成3年度から「Best Author 賞」を設け、学会誌「情報処理」に掲載された記事の中から、特に多数の会員の研修ならびに学術・技術の啓蒙、普及に貢献した記事を選び、その著者を表彰することにいたしております。

本賞の選考は、表彰規程および Best Author 賞候補者選定手続にもとづき、学会誌編集委員会（委員長 箱崎勝也）が選定委員会となり、学会誌「情報処理」第34巻第1号～第12号に掲載された対象記事129編につき慎重に審議を行った結果、下記の6編が受賞候補記事として選定され、第385回理事会（平成6年3月）の承認をえて決定されました。なお、本学会表彰規程により、5月20日に開催された第36回通常総会において、著者に表彰状および賞金が授与されました。

講座「計算機の記憶システム」(Vol.34, No.1, 2)

Ⅳ マルチプロセッサの記憶システム (1), (2)

寺澤 卓也君 (正会員)

1967年生。1989年慶應義塾大学工学部電気工学科卒業。1991年同大学院理工学研究科計算機科学専攻修士課程修了。1994年同博士課程単位取得退学。同年4月より東京工科大学情報通信工学科講師。並列計算機アーキテクチャ、特にキャッシュ制御、同期機構に興味をもつ。

天野 英晴君 (正会員)

1958年生。1986年慶應義塾大学大学院理工学研究科電気工学専攻博士課程修了。工学博士。現在、慶應義塾大学電気工学科助教授。並列計算機の研究に従事。

工藤 知宏君 (正会員)

1963年生。1986年慶應義塾大学工学部電気工学科卒業。1988年同大学院理工学研究科電気工学専攻修士課程修了。1991年同博士課程単位取得退学。同年4月より東京工科大学情報工学科講師。工学博士。並列計算機、並列アルゴリズムに興味をもつ。

特集「グループウェアの実現に向けて」(Vol.34, No.8)

1. グループウェア実現のために

松下 温君 (正会員)

1939年生。1963年慶應義塾大学工学部電気工学科卒業。同年、沖電気工業㈱入社。1968年イリノイ大学大学院コンピュータサイエンス専攻修了。1989年より慶應義塾大学工学部計測工学科教授。工学博士。マルチメディア通信および処理に関するコンピュータネットワーク、分散処理、グループウェア、ヒューマンインタフェースなどの研究に従事。著書「コンピュータネットワーク」(培風館)、「コンピュータ・ネットワーク入門」(オーム社)、「インテリジェントLAN入門」(オーム社)、「図解グループウェア入門」(オーム社)、「人工知能の実際」(近代科学社)、「電子計算機」(コロナ社)、「通信プロトコル入門」(オーム社)、「図解コンピュータネットワーク」(オーム社)など著書多数。電子情報通信学会、人工知能学会、ファジィ学会、IEEE、ACM各会員。本会グループウェア研究会主査。

特集「並列処理のためのシステムソフトウェア」(Vol.34, No.9)

2. 並列オペレーティング・システム

福田 晃君 (正会員)

1954年生。1977年九州大学工学部情報工学科卒業。1979年同大学院修士課程修了。同年NTT研究所入所。1983年九州大学大学院総合理工学研究科助手。1989年同大学助教授。1994年より奈良先端科学技術大学院大学情報科学研究科教授。OS、並列化コンパイラ、計算機アーキテクチャ、並列/分散処理などに興味をもつ。本会平成2年度研究賞受賞。本会OS研究会幹事。

解説「脳とコンピュータ」(Vol.34, No.10)

松本 元君 (正会員)

昭和39年東京大学理学部物理学科卒業。昭和44年同大学院理学系研究科物理学専攻修了。理学博士。同年日本学術振興会奨励研究員。同年、東京大学理学部物理教室助手。昭和46年通産省工業技術院電子技術総合研究所主任研究官。昭和59年同研究室長。平成元年同研究部長。現在に至る。昭和51年米国NIMH (National Institute of Mental Health)客員研究員。昭和62年筑波大学電子情報工学系教授(併任)。現在に至る。科学技術庁長官賞、通商産業大臣賞、市村学術賞受賞、日本神経回路学会会長。

特別論説「情報処理最前線：大型汎用計算機は生き残れるか？」(Vol.34, No.10)

ライトサイジングへの道

中島 丈夫君 (正会員)

1944年生。1967年神戸大学工学部電気工学科卒業。1969年同大学院電気工学専攻修了。同年日本アイ・ビー・エム(株)入社。製造工業担当フィールドSEを経て開発部門で大型計算機のシステム評価を担当。その後、本社SE技術を担当。システム・ストラテジー・プログラム・コンサルタント等を経て現在SE研究所所長。電子情報通信学会会員。

ダウンサイジングとオープンシステム、何がそうさせるのか？

村井 修造君

1955年青森市生。法政大学文学部史学科卒業。専攻は思想史で卒論は「ロシア・アバンギャルド」。卒業後3年間音楽関係のフリー・ライターを経験後、1982年よりコンピュータ・ソフトウェアの開発会社に勤務。当初は音声認識、計測制御等のシステムを担当。その後、主として有限要素法流体解析ソフトウェアの販売ならびに導入業務を担当するようになり、当時のほとんどの大型汎用機、スーパーコンピュータ等の使用を経験。1988年には日本アポロ・コンピュータ(株)に入社。主として金融分野のテクニカル・マーケティング・エンジニアとして活動。1989年には米国ヒューレットパッカード社によるアポロ・コンピュータ社の吸収合併により、11月から横河・ヒューレット・パッカード(株)に入社。金融分野のマーケティングを経て1990年より同社プロフェッショナル・サービス部門のコンサルタントとしてビジネス分野全般のシステム構築を担当。現在、同社プロフェッショナルサービス本部P S 5部コンサルティング4グループ テクニカル・コンサルタント。

平成5年度坂井記念特別賞の表彰

本学会では情報処理の研究・開発に携わる優秀な若手研究者を表彰の対象として、平成4年度から元会長坂井利之先生（京都大学名誉教授 龍谷大学理工学部長）から、寄贈された資金により坂井記念特別賞を設けました。

本賞は、情報処理に関する基礎・理論、ハードウェア、ソフトウェア、アプリケーションなどの各分野の研究・開発に携わっている研究・開発者で、学術・技術の進歩に顕著な貢献が認められ、今後の進歩、発展が期待される39歳までの研究・開発者を対象としています。

本年度の受賞者は「坂井記念特別賞候補者推薦書」により推薦された候補者11名から表彰規程および坂井記念特別賞候補者選定手続にもとづき、平栗副会長を委員長とする選定委員会において厳正な審査を行い、下記の4君が第385回理事会（平成6年3月）の承認をえて決定されました。

なお、本学会表彰規程により、5月20日に開催された第36回通常総会において、受賞者に表彰状および賞金が授与されました。

●基礎・理論分野

「並列計算の複雑さの研究・開発」

宮野 悟君（正会員）

1954年12月生、1977年九大理学部数学科卒、1979年同大学院修士課程終了、1979年同大理学部基礎情報学研究施設助手、1987年同研究施設助教授、1993年同研究施設教授。

〔業績推薦理由〕

効率良い並列計算アルゴリズムを実現できる問題のクラスを明確化するために、greedy アルゴリズムのP完全性を解析し、並列計算の理論に大きく貢献した。

●ソフトウェア分野

「次世代データベースの研究・開発」

石川 博君（正会員）

1956年3月生、1979年東大理学部情報科学科卒、1979年（株）富士通研究所入社、以来、データベースシステムとその応用に関する研究・開発に従事。

〔業績推薦理由〕

オブジェクト指向データベースにおいて、関数概念と集合論に基づくモデル化方式等の最適化方式を提案・実現し、大規模データに対する有効性を実証し、オブジェクト指向データベースの発展に大きく貢献した。

●アプリケーション分野

「論理合成・検証システムの研究・開発」

藤田 昌宏君（正会員）

1956年10月生、1980年東大工学部電気工学科卒、1985年同大学院博士課程終了、1985年（株）富士通研究所入社、以来、CADシステムの研究・開発に従事。

〔業績推薦理由〕

時相論理を用いた順序回路の自動合成・検証、二分決定グラフ（BDD）を用いた論理合成手法の提案を通して、自動論理合成・検証技術の進歩に大きく貢献した。

「VLSI自動配置配線アルゴリズムの理論と実際に関する研究・開発」

枝廣 正人君（正会員）

1960年8月生、1983年東大工学部計数工学科卒、1985年同大学院修士課程終了、1985年日本電気（株）入社、以来、VLSI自動配置配線システム等の研究・開発に従事。

〔業績推薦理由〕

VLSI配置配線問題をグラフ・ネットワーク理論の問題として解析し、理論的にも優れ、実際の設計にも利用できるアルゴリズムを提案することにより、大規模LSIの性能向上、設計期間短縮に大きく貢献した。

研究発表会開催通知

(平成6年6月15日～7月31日)

研究会名	日時		会場	詳細
ハイパフォーマンスコンピューティング	6月17日(金)	13:00～17:30	慶大(理工)	前号 7頁
人工知能	6月20日(月)	14:00～16:30	工学院大	8頁
オーディオビジュアル複合情報処理	6月24日(金)	9:30～12:00	早大(理工)	8頁
設計自動化	6月24日(金)	10:00～17:30	工学院大	8頁
ソフトウェア工学	7月7日(木)	9:30～18:00	奈良先端大	本号 9頁
	7月8日(金)	9:00～17:20		
マルチメディア通信と分散処理	7月7日(木)	9:30～17:30	静岡大	10頁
	7月8日(金)	9:00～17:00		
音声言語情報処理	7月7日(木)	13:30～17:30	四万グランドホテル (群馬)	11頁
	7月8日(金)	9:00～14:40		
情報メディア	7月8日(金)	9:00～16:00	東大(生研)	11頁
グラフィクスとCAD	7月8日(金)	9:30～18:00	東大(山上会館)	12頁
ヒューマンインタフェース グループウェア]合同	7月14日(木)	10:30～17:00	慶大(理工)	12頁
	7月15日(金)	10:00～17:20		
情報システム	7月19日(火)	13:00～17:00	情報処理学会(田町)	13頁
データベースシステム	7月20日(水)	9:00～20:00	金森ホール(函館)	13頁
	7月21日(木)	9:00～17:00		
	7月22日(金)	9:00～15:50		
自然言語処理	7月21日(木)	13:00～16:40	福井大	15頁
	7月22日(金)	9:40～16:00		
*システムソフトウェアとオペレーティング・システム	7月21日(木)	8:45～17:45	ホテル西武オリオン (那覇)	16頁
	7月22日(金)	8:45～12:30		
*プログラミング-言語・基礎・実践-	7月21日(木)	8:45～17:45	同上	17頁
	7月22日(金)	8:45～12:30		
*計算機アーキテクチャ	7月21日(木)	8:45～17:45	同上	18頁
	7月22日(金)	8:45～12:30		
	7月23日(土)	8:45～12:30		
*人工知能	7月21日(木)	10:30～17:45	同上	19頁
*ハイパフォーマンスコンピューティング	7月22日(金)	13:30～17:45	同上	20頁
	7月23日(土)	8:45～17:15		
アルゴリズム	7月22日(金)	9:00～18:45	龍谷大	21頁
コンピュータと教育	7月22日(金)	13:30～17:30	慶大(環境情報)	22頁

*研究会連続・同時開催(SWoPP '94)

◆第99回 ソフトウェア工学研究会

(発表件数:19件)

(主査:磯田定宏, 幹事:青山幹雄, 深澤良彰, 松村一夫)

日 時 平成6年7月7日(木) 9:30~18:00

8日(金) 9:00~17:20

会 場 奈良先端科学技術大学院大学 高山サイエンスプラザ

[生駒市高山町8916-5, JR:京都下車, 近鉄京都線:高の原下車, タクシー(約15分), または大阪難波方面より近鉄奈良線:学園前下車, タクシー(約15分). Tel.(07437)2-5230 (荒木)]

議 題

7月7日(木)

●形式的仕様 - 9:30~12:00 -

(1) An Algebraic Definition of a LOTOS-Like Language and Its Application

石原靖哲, 関 浩之, 嵩 忠雄(奈良先端大)

(2) Zにおける仕様記述変換手法

張 漢明, 荒木啓二郎(奈良先端大)

(3) 形式化に基づく並列性抽出 - 既存逐次プログラムを並列実行するためのパラダイム -

笹倉万里子, 中西恒夫, 城 和貴, 荒木啓二郎(奈良先端大)

(4) 継続時間の扱いを考慮した並列性の形式化について

高田司郎, 城 和貴, 荒木啓二郎(奈良先端大)

●要求仕様分析 - 13:00~16:40 -

(5) 仕様決定における形式的仕様の有効性

古木良子, 荒木啓二郎(奈良先端大)

(6) ファイル処理に関する要求分析の自動化システムGRACE

大坪稔房(日立), 原田 実(青学大)

(7) 協調的仕様化作業を支援するツール - 作業分担者の支援 -

佐伯元司, 松村欣司, 郭 文音(東工大)

(8) Inquiry Cycle モデルに基づく要求の変更管理法

太田賢治, 高橋健司(NTT)

(9) JCKBSE'94 会議報告

大森康正(電機大), 山本修一郎(NTT), 古宮誠一(IPA)

永田守男(慶大), 上野晴樹(電機大)

- 16:40~18:00 -

●奈良先端科学技術大学院大学の紹介と見学(荒木啓二郎(奈良先端大))

7月8日(金)

●一 般 - 9:00~12:00 -

(10) マルチバージョンソフトウェアのモジュール交換による高信頼化手法の提案

島 和之, 松本健一, 鳥居宏次(奈良先端大)

(11) Spiral-up プロセスにおけるクラス・ライブラリ設計の簡潔化

江谷典子, 山沢由美(富士ゼロックス情報システム)

(12) データフローによる部品検索機能を持つ仕様エディタの試作

臼井義美(日本電子計算)

(13) 適応型ユーザナビゲーション機構とその評価

白 貞元, 平原厚志, 深澤良彰(早大)

●オブジェクト指向(1) - 13:00~15:00 -

(14) オブジェクト指向分析支援システムCAMEO - 日本語文章記述からの設計要素の自動抽出 -

大野雅志(北電情報システムサービス), 原田 実(青学大)

(15) Realな動作の実現に必要なRoleの役割

片山佳則(富士通研)

(16) オブジェクト指向設計における制御アーキテクチャの定義

岸 知二, 前川佳春, 池田健次郎, 野田夏子(NEC)

●オブジェクト指向(2) - 15:20~17:20 -

(17) オブジェクト指向プログラムの理解のための視覚化技法

三ッ井欽一, 中村宏明(日本IBM)

(18) オブジェクト指向プロトタイピングのための視覚的支援環境

阿部倫之, 吉田正弘(金沢工大), 中川秀敏(金沢高専)

(19) ビル用空調機器・システムのオブジェクト指向開発プロセスの構築

藤崎克己, 井上雅裕, 伊藤善朗, 増井弘毅, 阪中理展(三菱電機)

中筋義人, 高田一郎(三菱電機メカトロニクスソフトウェア)

懇親会:7日の見学終了後に予定していますので多数ご参加ください。

◆第66回 マルチメディア通信と分散処理研究会

(発表件数:27件)

(主査:白鳥則郎, 幹事:鈴木健二, 滝沢 誠, 寺中勝美)

日 時 平成6年7月7日(木) 9:30~17:30
8日(金) 9:00~17:00

会 場 静岡大学 工学部 視聴覚教室

[浜松市城北3-5-1, JR:浜松(北口)下車, バス(15, 16乗場):工学部前下車(約20分). Tel.(053)471-1171]

議 題

7月7日(木)

●ネットワーク設計(1) - 9:30~12:00 -

- (1) マルチキャストサーバにおける動的QOS 制御 尾上裕子(NTT)
- (2) 分散環境における部分データベースの複製配置法 高品智一, 宮西洋太郎, 渡辺 尚, 水野忠則(静岡大)
- (3) 双方向ピギーバックを用いたジョブ配送法について 染葉佳代子, 渡辺 尚, 太田 剛, 水野忠則(静岡大)
- (4) オブジェクト指向分散環境OZ++のオブジェクト管理系の設計
西岡利博(三菱総研), 大西雅夫(東洋情報システム), 吉田泰光(日本ユニシス)
籠 浩昭(三菱総研), 鈴木敬行(SBC), 濱崎陽一, 塚本享治(電総研)
- (5) 分散ソフトウェア構築のためのDQL/C+ クラスライブラリ
鈴木寿郎(沖テクノシステムズラボラトリ), 中澤 修(沖電気)

●招待講演

- 13:00~14:00 -

- (6) Bridging Humans via Agent Networks 石田 亨(京大)

●ネットワーク設計(2) - 14:00~16:00 -

- (7) 多地点共同作業支援環境GTWSの機器制御方式 木下成顕, 石崎健史, 宮本宣則(日立)
- (8) TCCA仕様記述対応LOTOSの時間拡張案と, その実行環境について
中野宣政, 渡辺 尚, 太田 賢, 水野忠則(静岡大)
- (9) LOTOS 風言語で書かれた同期式順序回路の要求仕様記述と回路自動合成
黄 莉, 安本慶一, 北道淳司, 東野輝夫, 谷口健一(阪大)
- (10) Automatic Test Case Generation for Communication Protocols in an EFSM Model
李 湘東, 福田真二, 樋口昌宏, 東野輝夫, 谷口健一(阪大)

●プロトコル

- 16:00~17:30 -

- (11) Analysis of Fairness on Self-Token Protocol for High-Speed Ring LANs
Said MIRAZA, Kuninobu TANNO, Akio KOYAMA (山形大)
- (12) 移動分散環境下でのネットワークポロジ把握のためのプロトコル
中村 眞, 藤井章博, 根元義章(東北大)
- (13) 適応型移動体通信におけるプロトコル選択方式 田中理恵子, 塚本昌彦(シャープ)

7月8日(金)

●分散協調 - 9:00~12:00 -

- (14) 分散協調作業のための情報ネットワークシステム
鈴木昌則, 小泉寿男(三菱電機), 三好一賢(広島電機大), 白鳥則郎(東北大)
- (15) グループ通信における情報流制御 三田浩也, 滝沢 誠(東京電機大)
- (16) 推論機構を用いたメール分配システム
岩室元典(阪大), 田中理恵子, 塚本昌彦(シャープ), 西尾章治郎(阪大)
- (17) 自律協調分散システム開発環境Noahの通信機構 佐藤文明, 小塚 宏, 宮崎一哉, 福岡久雄(三菱電機)
- (18) RSC: グループウェアのためのオブジェクト共有機構 岡野裕之(日本IBM)
- (19) テレコミュニケーションサービス高度化の分析と分散協調モデルDIANAの提案
寺島美昭, 清水桂一, 伊藤修治(三菱電機), 水野忠則(静岡大)

●マルチメディアシステム

- 13:00~15:00 -

- (20) 品質を考慮したマルチメディアプレゼンテーションのためのモデルの設計
島村 栄, 椿野慎治, 藤川和利, 下條真司, 宮原秀夫(阪大)
- (21) 会話型操作を伴う分散マルチメディアシステムにおける同期機構 大野隆一, 相田 仁, 齊藤忠夫(東大)
- (22) マルチメディア遠隔提示システムの同期条件の検討 大野隆一, 相田 仁, 齊藤忠夫(東大)
- (23) 圧縮方法を考慮したパケットオーディオ・ビデオシステムのレート制御
渡辺光輝, 赤間孝司, 柴田義孝(東洋大)

●ネットワーク設計 (3) - 15:00-17:00 -

- (24) Implementation and Evaluation of Synchronization Mechanism for Ring-Connected type Replicated Shared Memory 小口正人, 相田 仁, 齊藤忠夫 (東大)
- (25) ASN.1 における圧縮符号化規則 (PER) の改善提案と評価 堀内浩規, 小花貞夫, 鈴木健二 (KDD)
- (26) 分散型メッセージ通信システムにおける高信頼化機能の実現 藤長昌彦, 加藤聰彦, 鈴木健二 (KDD)
- (27) 通信網管理情報のデータ統合機構 木原民雄, 中川純一, 山中康史, 寺中勝美 (NTT)

*電子情報通信学会(人工知能と知識処理研究会)が同時並行開催されます。

◆第2回 音声言語情報処理研究会

(発表件数:13件)

(主査:中川聖一, 幹事:岡田美智男, 小林 豊, 新田恒雄)

日 時 平成6年7月7日(木)13:30~17:30

8日(金)9:00~14:40

会 場 四万温泉 四万グランドホテル

[群馬県吾妻郡中之条四万温泉, 上野駅からJR(吾妻線):中之条下車, 吾妻観光バス:四万温泉行で終点下車(約40分).(*JR上野駅からは特急草津3号:10:09発などが便利です.) Tel.(0279)64-2211]

議 題 特集:音声対話システムとその要素技術

7月7日(木)

●チュートリアル (1) - 13:30-15:00 -

- (1) 対話調整の分散処理モデル 片桐恭弘 (NTT)
- (2) 1994 ARPA Human Language Technology Workshop参加報告 古井貞熙 (NTT)

●ビデオセッション (1) - 15:10-17:30 -

- (3) リアルタイム思考視覚化システム 木山次郎, 伊藤慶明, 岡 隆一 (RWCP)
- (4) The application of a lightweight parser in speech understanding Nigel WARD (東大)
- (5) 巡視者支援対話型システムの検討 鈴木敏克, 小杉康宏 (東京電力), 妹尾 徹, 広瀬啓吉 (東大)
- (6) 音声対話システム構築のための実対話データ収録実験 伊藤克巨, 長谷川修, 速水 悟, 田中和世 (電総研), 秋葉友良 (東工大)

7月8日(金)

●チュートリアル (2) - 9:00-9:50 -

- (7) 言語理解過程への心理実験手法からのアプローチ 馬塚れい子 (Duke Univ.)

●一般講演 - 10:00-11:45 -

- (8) 対話理解における抑揚情報の役割 市川 熹, 佐藤伸二 (千葉大)
- (9) 自由発話音声言語対話データベースの構築とその分析に基づく談話構造モデルの提案 知野哲朗, 坪井宏之 (東芝)
- (10) 蓄積型音声対話システムにおける発話促進手法 西 宏之, 北井幹雄 (NTT)

●ビデオセッション (2) - 12:50-14:40 -

- (11) マンマシンインタラクションにおける協応構造 栗原 聡, 岡田美智男, 中津良平 (NTT)
- (12) 自然発話の認識・理解のための解析・照合手法の比較 甲斐充彦, 間宮康之, 中川聖一 (豊橋技科大)
- (13) 自然発話の意味理解と対話システム 山本幹雄, 肥田野勝, 伊藤敏彦, 甲斐充彦, 中川聖一 (豊橋技科大)

*第2回研究会は, 集中的な討議と情報交換を行う目的で, 宿泊形式で行います。

研究会に参加を希望される方は, 6月17日(金)までに, 下記までご連絡ください。宿泊費(1泊3食, 懇親会費込み)として, 13,000円を予定しております。

連絡先 岡田美智男 (NTT・基礎研) e-mail:okada@atom.NTT.jp Tel.(0462)40-3626 Fax.(0462)40-4705

◆第17回 情報メディア研究会

(発表件数:6件)

(主査:田中 譲, 幹事:平山智史, 牧村信之, 森本秀之)

日 時 平成6年7月8日(金)9:00~16:00

会 場 東京大学 生産技術研究所

[東京都港区六本木7-22-1, 地下鉄(日比谷線):六本木, または(千代田線):乃木坂下車. Tel.(03)3402-6231]

議 題 小特集:メディアと人工知能, バーチャルリアリティ

- 9:00-12:00 -

- (1) 顔, 目, 耳, 口をもつ擬人化エージェントによるヒューマンインタフェース 石塚 満, 土肥 浩 (東大)

- (2) ServiceIsland : 日常生活を支援する仮想空間の提案 金 寿美, 加藤淳也, 岡田謙一, 松下 温 (慶大)
- (3) デジタル映像メディアのリアリティとインテリジェンス 田村秀行 (キャノン)
- 13:00-16:00 -
- (4) 3次元メディアオブジェクトの合成とスクリプト定義 高橋知宏, 岡田義広, 田中 譲 (北大)
- (5) オープンメンテーションメディアの行方 野々垣旦 (富士通アプリコ)
- (6) 知識コミュニティにおける知識メディア 西田豊明 (奈良先端大)

◆第69回 グラフィクスとCAD研究会

(発表件数:10件)

(主査:大野義夫, 幹事:斎藤 剛, 福井一夫, 間瀬健二)

日 時 平成6年7月8日(金) 9:30~18:00
会 場 東京大学 山上会館 2階 大会議室

[東京都文京区本郷7-3-1, 地下鉄(丸の内線):本郷三丁目下車, 徒歩約10分. Tel. (03)3812-2111]

議 題 特集:バーチャルリアリティ

- VRのための可視化技術 - 9:30-11:30 -
 - (1) 入れるテレビの開発に関する研究 廣瀬通孝, 中垣好之, 谷口雅昭, 小森信也, 遠藤隆明 (東大)
 - (2) スペクトル配置による仮想テクスチャの合成 池井 寧, 毛利之重, 中川大輔, 福田収一 (都立科技大)
 - (3) お腹の赤ちゃんを見たい! -VEを用いた医療画像の実時間・実空間の可視化をめざして-
大淵竜太郎 (日本IBM), Andrei State, David Chen, Andrew Brandt
Chris Tector, Henry Fuchs (Univ. of North Carolina at Chapel Hill)

● VRにおける力覚・聴覚等の利用

- 13:00-15:40 -

- (4) 仮想空間のための前庭感覚表現手法 広田光一, 杉田雄一郎, 廣瀬通孝 (東大)
- (5) 力帰還型仮想環境における協同作業 矢野博明, 岩田洋夫 (筑波大)
- (6) VR応用訓練シミュレーター -プロトタイプ- 加藤伸子, 阪田直子, 土井美和子 (東芝)
- (7) VR環境における3Dサウンドナビゲーションシステムについて
南雲俊喜, 甘利治雄, 三井博隆, 岡田幹夫 (東京電力), 廣瀬通孝 (東大), 石井威望 (慶大)

●リアルアニメーションシステム

- 16:00-18:00 -

- (8) Realistic Modeling and Animation of Muscle and Skin Layer for Human Figures Using Implicit Function Techniques
Karansher Singh, 大谷 淳, 岸野文郎 (ATR)
- (9) 次世代アニメーションシステムに関する研究(第1報) -3次元CG画像の2次元化アルゴリズム-
金子 満, 中嶋正之 (東工大)
- (10) 特別講演:ハリウッドでは今. 超バーチャルリアル映像あれこれ 中嶋正之 (東工大)

*テレビジョン学会(画像処理コンピュータビジョン研究会)と共催.

◆第55回 ヒューマンインタフェース研究会 } 合同
◆第7回 グループウェア研究会 }

(発表件数:14件)

HI (主査:安西祐一郎, 幹事:井関 治, 小川克彦, 来住伸子)

GW (主査:松下 温, 幹事:岡田謙一, 守屋康正, 山上俊彦)

日 時 平成6年7月14日(木) 10:30~17:00
15日(金) 10:00~17:20

会 場 慶應義塾大学 理工学部 厚生棟 大会議室

[横浜市港北区日吉3-14-1, 東急東横線:日吉下車, 徒歩10分. Tel. (045)563-1141]

議 題

7月14日(木) - 10:30-11:50 -

●インタフェース技術

- (1) 記憶ペンによる部分像系列から全体像を再現する方法
鍋島伸司 (名大), 中村裕紀 (八洲電機), 山本晋一郎, 阿草清滋 (名大)
- (2) リーチ&ストロークモデルによる入力方式別スピード比較
大島章嘉 (日本能率協会), 富樫聖代子 (ワード研)

- 13:10-15:50 -

- (3) マグネティック・スプリング・モデルによるグラフ描画法について 三末和男, 杉山公造 (富士通研)
- (4) イメージ事例を用いた概念空間形成型設計 長田聡宏, 大川剛直, 薦田憲久 (阪大)

- (5) 分散データベース環境におけるマルチメディアブラウザ 関由美子(日立)
- (6) 電子読み合わせ作業を支援する環境:CollaBookの提案 安倍紀之, 岡田謙一, 松下 温(慶大)
- 16:00~17:00 -
- (7) 見学:慶應義塾大学 理工学部 松下研究室
7月16日(金) - 10:00~12:00 -
- 協調コミュニケーション
- (8) 分散TCCA実現のためのグループ管理機能 中野宣政, 太田 賢, 渡辺 尚, 水野忠則(静岡大)
- (9) インフォーマルコミュニケーション評価をめぐる考察
仲谷美江(三菱電機), 原島 博(東大), 西田正吾(三菱電機)
- (10) コミュニケーションにおける情報距離と通信距離 村瀬一郎(三菱総研)
- 13:00~14:30 -
- パネル討論:グループウェアはマルチメディアサービスの本命となるか
- 作業支援環境 - 14:40~17:20 -
- (11) エージェントメールシステムのワークフロー制御への適用 松尾 朗, 服部真穂, 橋本圭介, 貫井春美(東芝)
- (12) シート駆動型オフィス業務フロー支援 大垣武史, 岩瀬章則, 武田美子, 貫井春美(東芝)
- (13) 時間的に離れた協同作業環境を支援するための動作ビュー機構 藤田健治, 上林彌彦(京大)
- (14) 分散協調環境における部分データベースの複製方法 宮西洋太郎, 高品智一, 渡辺 尚, 水野忠則(静岡大)
- *電子情報通信学会(ヒューマンコミュニケーション研究会)と共催。

◆第50回 情報システム研究会

(発表件数:8件)

(主査:山本毅雄, 幹事:神田 茂, 中嶋聞多, 初瀬川茂)

日 時 平成6年7月19日(火) 13:00~17:00

会 場 情報処理学会 会議室(田町)

[東京都港区芝浦3-16-20 芝浦前川ビル7階, JR:田町下車, 徒歩5分, または地下鉄:三田下車, 徒歩7分.]

Tel. (03)5484-3535]

議 題 特集: IS にたずさわる人材の発掘, 育成

- (1) 高度情報化人材とその育成策 能登 靖(通産省)
- (2) 産構審答申と企業内教育 村上洋一(日立)
- (3) 花王におけるシステム・アドミニストレータ(SAD) 橋山真人(花王)
- (4) 新人SE教育体系の確率について -オープン化・ダウンサイジング潮流の中で-
芳賀正憲(新日鉄情報通信システム)
- (5) 情報技術者の育成とコンピュータ科学 大岩 元(慶大)
- (6) プログラミング教育環境支援システム開発に関する研究 塚本邦昭(芦屋大)
- (7) 「IS教育」システム概念モデル -ソフトシステム方法論によるアプローチ-
内木哲也(東洋大), 神沼靖子(帝京技科大), 栗原宏文(東燃システム研)
佐藤 敬(東京工科大), 小幡孝一郎, 中嶋聞多(文教大)
- (8) 教育の社会的文脈とコンピュータ -システムエンジニアとしての教師- 澤田芳郎(愛知教育大)

◆第99回 データベースシステム研究会

(発表件数:38件)

(主査:増永良文, 幹事:石川 博, 井上 潮, 吉川正俊)

100万ドルDBワークショップ

- DBか, 100万ドルの夜景か, 函館で語ろう新しいデータベース-

日 時 平成6年7月20日(水) 9:00~20:00

21日(木) 9:00~17:00

22日(金) 9:00~15:50

会 場 金森ホール(函館ヒストリープラザ内)

[函館市末広町14-12, 函館空港からリムジンバス:JR函館駅下車(30分), 市電(函館ドック, 谷地頭行):十字街下車(約10分), 徒歩5分. Tel. (0138)23-0338]

議 題

7月20日(水)

●オブジェクト指向データベース - 9:00-10:30 -

- (1) 高速性と言語透過性を重視したオブジェクト指向データベース
川村敏和, 田中立二, 脇園竜次, 土居武彦(東芝)
- (2) オブジェクト指向データベース操作言語の構成管理機能について
木村 裕, 鶴岡邦敏(NEC)
- (3) ビュー機能を用いたRDB とOODBの操作
掛下哲郎, 村田美友紀(佐賀大)

●オブジェクト指向データベース応用 - 10:45-12:05 -

- (4) 拡張オブジェクト指向による電力流通設備マッピングデータベース構成法の検討 (short paper)
窪野哲光(東京電力), 春木良且(東大)
- (5) オブジェクト指向データベースを用いた電力設備統合データベースの構築
小笠原史久(中部電力), 若林 光(富士通), 原嶋秀次(東芝)
- (6) 画像診断学習情報データベースにおける教材オブジェクトの管理と利用
山北隆典, 細川泰史, 下井文彦, 佐々木淳司, 伊藤佐智子, 小銭正尚(SRL)

●データベース事例 - 13:00-15:20 -

- (7) 高度個別型CAI におけるデータモデルの開発
谷川 健, 富士 隆, 星原健二郎, 藤井 誠, 小銭正尚, 三枝武男(SRL)
- (8) タンパク質データベースの試作: 検索機能について
吉田正宏, 中西通雄, 橋本昭洋(阪大)
- (9) 統計量を用いた電話帳データベース検索方式
永吉 剛, 岩瀬成人(NTT)
- (10) OSI 管理情報ベース(MIB)用データベースASSIST/Mにおける自律動作機能の実現 (short paper)
西山 智, 堀内浩規, 小花貞夫, 鈴木健二(KDD)
- (11) 分散処理による汎用画像オブジェクトの構成
脇山俊一郎(仙台電波高専), 川島 亮, 金森吉成(群馬大), 増永良文(情報大)

●ユーザインタフェース - 15:30-17:00 -

- (12) ペンジェスチャーと3次元GUI を用いたデータベース操作言語について
山中航史, 山本 淳, 田中克己(神戸大)
- (13) データ辞書からのユーザインタフェース生成
白田由香利, 飯沢篤志(リコー)
- (14) 版管理機能をもつデータベースシステムにおける視覚的問い合わせ言語の開発
井伊克益, 北川博之(筑波大)

●グループ討論 - 17:30-20:00 -

(ホットな研究テーマ, 今後何を研究しないといけないか, 日本のデータベース研究を世界に通用させるには何をしないといけないのかなど本研究会参加者のご意見を参考に, 3グループ程度に分かれて自由討論をします.)

7月21日(木)

●電子本開発 - 9:00-10:20 -

- (15) コミュニケーションメディアのためのネットワーク電子本の設計
三石 大(東北大), 布川博士(宮城教育大), 白鳥則郎, 宮崎正俊(東北大), 野口正一(日大)
- (16) マルチメディア電子教科書の構築と評価実験 (video presentation)
増永良文(情報大)
- (17) 協同電子出版の実験 - データベースワークブックを例にして -
布川博士(宮城教育大), 大本英徹(京都産業大), 國島丈生(奈良先端大)
吉川正俊(奈良先端大), 田中克己(神戸大), 増永良文(情報大)

●データベースプログラミング言語 - 10:30-12:00 -

- (18) Quixote による法律データベースの構築
高橋千恵(JIPDEC), 横田一正(ICOT)
- (19) Micro Quixote の実現とその拡張機能
新部 裕(三菱総研), 高橋千恵(JIPDEC), 横田一正(ICOT)
- (20) アクティブデータベースの動作解析のためのプロセス代数の開発
磯部祥尚, 小島 功, 大時和仁(電総研)

●グループ討論まとめ - 13:00-14:00 -

●オブジェクト指向データモデル - 14:00-15:30 -

- (21) マルチエージェントによるマルチデータベースの拡張
横田一正(ICOT)
- (22) 自己組織化マップと語彙検索を用いたデータベースの抽象化機能
錢晴史欣, 田中克己(神戸大)
- (23) 多重階層化機構を持つオブジェクト指向データモデル
堀 宣男, 吉川正俊, 植村俊亮(奈良先端大)

●マルチメディアデータベース - 15:40-17:00 -

- (24) 空間的・時間的関連を表現できるビデオデータベース操作言語 (short paper)

本坂錦一 (神戸大), 大本英徹 (京産大), 田中克己 (神戸大)

- (25) 時間依存マルチメディアオブジェクトの表現方法 増永良文 (情報大)
 (26) マルチメディアインフォメーションサーバMineS のユーザインタフェース機構 南野謙一 (東北大)
 布川博士 (京教大), 水野晋一 (エマーズ), 宮崎正俊 (東北大), 若本正敏 (東北学院大)

7月22日(金)

●データベース基礎 - 9:00~10:30 -

- (27) プログラミング言語Haskell 上のデータベース操作インタフェースの設計と実装
 市原哲彦 (お茶の水女子大)
 (28) 存在に関する意味制約の妥当性 石川英彦, 有澤 博 (横浜国大)
 (29) 論理言語によるデータベース検索経路の選定 塩谷 勇, 三浦孝夫 (産能大)

●データベースアーキテクチャ - 10:40~12:10 -

- (30) ストリーム指向型並列データベース処理における分散メモリ資源割当方式
 村岡正則, 佐藤 聡, 清木 康 (筑波大)
 (31) フラッシュメモリ向きデータ構造におけるデータ管理方式とその性能評価 高倉弘喜, 上林彌彦 (京大)
 (32) 拡張可能なデータベース管理システムのための枠組み 渡辺美樹, 早田 宏 (富士ゼロックス)

●文書データベース - 13:10~14:20 -

- (33) ASN.1 データベースプログラミング言語 春本 要 (阪大), 塚本昌彦 (シャープ), 西尾章治郎 (阪大)
 (34) OODBによる構造化文書データベースの実現 (short paper) 岩崎雅二郎 (リコー)
 (35) 全文検索のための文字成分表構成の改良 (short paper) 小川泰嗣, 岩崎雅二郎, 林 大川 (リコー)

●動画像データベース - 14:30~15:50 -

- (36) ファジィ推論による映像情報処理データベース 上野義人 (創価大)
 (37) 時空属性を持つオブジェクトベースMOVE 金子邦彦, 黒木 進, 牧之内顕文 (九大)
 (38) ビデオリアリティ: 映像を用いた情報検索手法の高度化 (video presentation)
 佐藤哲司, 片岡良治, 井上 潮 (NTT)

*懇親会: 21日の研究会終了後 (18:00~), 函館ビヤホール (函館ヒストリープラザ内) で行います。お気軽に参加いただき発表者や参加者との意見交換や親睦などにご利用ください。

*電子情報通信学会 (データ工学研究会) と共催。

◆第102回 自然言語処理研究会

(発表件数: 15件)

(主査: 新田義彦, 幹事: 丹羽芳樹, 久光 徹, 丸山 宏)

日 時 平成6年7月21日 (木) 13:00~16:40
 22日 (金) 9:40~16:00

会 場 福井大学 工学部 1号館 1階会議室

[福井市文京3-9-1, JR (北陸線): 福井下車, タクシー約10分 (800円程度), または JR (北陸線): 福井下車, 京福電鉄 (芦原三国線): 西福井下車, 徒歩2分. Tel. (0776) 23-0500 (ext. 2787) 荒木哲郎]

議 題

7月21日(木)

- (1) 文字認識誤り指摘のための形態素解析の適用性検討 田邊憲二, 木谷 強 (NTT データ)
 (2) 富田一般化LRパーサを用いた情報抽出 江里口善生, 木谷 強 (NTT データ)
 (3) 形態素解析を用いた全文検索システムとその応用 増市 博, 山浦富久美, 館野昌一 (富士ゼロックス)
 (4) 語彙の結束性に基づいたテキストセグメンテーション 本田岳夫, 奥村 学 (北陸先端大)
 (5) 「に」の構文的曖昧性とその解消 武藤伸明, 中川裕志 (横浜国大)
 (6) 間投詞的応答表現「はい」の発話行為論による分析 土井晃一 (富士通研), 大森 晃 (東理大)

7月22日(金) - 9:40~12:00 -

- (7) 単語ベクトルを用いた多義語の意味推定 - 共起ベクトルと定義距離ベクトルの比較 -
 丹羽芳樹, 新田義彦 (日立)
 (8) TOPTRAN における事例学習 仁井正治 (凸版印刷)
 (9) 日本語従属節の依存構造に着目した係り受け解析
 白井 論, 横尾昭男, 池原 悟 (NTT), 木村淳子, 小見佳恵 (NTT アドバンステクノロジー)
 (10) 日英機械翻訳における利用者登録語の意味属性の自動推定

池原 悟, 白井 諭, 横尾昭男, Francis Bond (NTT), 小見佳恵 (NTT アドバンステクノロジー)
- 13:00-16:00 -

- (11) 対訳文章からの専門用語対訳辞書作成 石本浩之, 長尾 真 (京大)
- (12) 2重マルコフモデルを用いた日本語文書認識後処理 森 大毅, 阿曾弘具, 牧野正三 (東北大)
- (13) マルコフモデルを用いたOCR からの誤り文字列の訂正効果
荒木哲郎 (福井大), 池原 悟 (NTT), 小松康則 (福井大), 塚原信幸 (NEC)
- (14) 3重マルコフモデルによるべた書きかな文の仮文節境界の推定法
荒木哲郎 (福井大), 池原 悟, 土橋潤也 (NTT), 笹島伸一 (福井大)
- (15) 日本語文音声出力からの読み情報を用いた漢字かな混り文節候補の絞り込み
荒木哲郎 (福井大), 池原 悟 (NTT), 横川秀人, 真田陽一 (福井大)

◆第65回 システムソフトウェアとオペレーティング・システム研究会 (発表件数:22件)

(主査:鈴木則久, 幹事:梅村恭治, 清木 康, 福田 晃)

1994年並列/分散/協調処理に関する『琉球』サマー・ワークショップ(SWoPP 琉球'94)

- 研究会連続・同時開催 -

日 時 平成6年7月21日(木) 8:45~17:45
22日(金) 8:45~12:30

会 場 ホテル西武オリオン

[那覇市安里1-2-21, 那覇空港より市バス(7番, 21番):安里下車(約40分), 徒歩3分(国際通り沿い).
(*タクシーでは約20分.) Tel. (098)866-5533]

議 題 テーマ:並列/分散/協調システムソフトウェア

7月21日(木)

●OS-1:OSの設計と環境(A会場) - 8:45-10:15 -

- (1) マイクロカーネル構成OSにおけるシステムサーバの構成法
桑山雅行 (九大), 最所圭三, 福田 晃 (奈良先端大)
- (2) T-OS:通信機能を重視した携帯型計算機用オペレーティングシステム
谷口 崇 (電通大), 寺岡文男 (ソニーコンピュータサイエンス研), 砂原秀樹 (電通大)
- (3) Local メモリを持つ共有メモリ型並列計算機を効果的に使用するための環境EULASH
山本淳二, 服部 大, 徳吉隆宏, 大和純一, 天野英晴 (慶大)

●OS-2:スケジューリング(A会場) - 10:30-12:30 -

- (4) マクロデータフロー処理のマルチジョブ実行手法 合田憲人, 岡本雅巳, 笠原博徳, 成田誠之助 (早大)
- (5) 超並列マシンにおける時分割スケジューリング
堀 敦史, 石川 裕, 小中裕喜, 前田宗則, 友清孝志 (RWCP)
- (6) 超並列オペレーティングシステムにおけるプロセス移送問題 大澤範高, 弓場敏嗣 (電通大)
- (7) 超並列計算機におけるデータ分割/配置の最適化について 山家 陽, 村上和彰 (九大)

●OS-3:通信機構(A会場) - 13:30-15:30 -

- (8) 超並列計算機におけるデータ転送の最適化について 國貞勝弘, 村上和彰 (九大)
- (9) 分散共有記憶型超並列OSにおけるアクティブメモリオブジェクトを用いた通信機構の設計
石井秀治 (電通大), 猪原茂和 (東大), 砂原秀樹 (電通大)
- (10) 型情報に基づく遅延隠蔽を行うプロセス間通信機構 宮澤 元, 猪原茂和, 上原敬太郎, 益田隆司 (東大)
- (11) ST-II プロトコルサーバのReal-Time Machへの実装と評価 木原誠司, 盛合 敏, 南部 明 (NTT)

- 15:45-17:45 -

●OS-4:分散システムとオブジェクト管理(A会場)

- (12) 分散トランザクションシステムIXI の設計と実現
松高雄一, 中村素典, 大久保英嗣, 大野 豊 (立命館大), 白川洋充 (近畿大)
- (13) 分散ファイルシステムにおける一貫性制御プロトコルのユーザレベルカスタマイズ機構
上原敬太郎, 猪原茂和, 宮澤 元, 益田隆司 (東大)
- (14) TRaP-RPC:分散透明な遠隔ポインタの効率的な実現法について
河野健二 (東大), 加藤和彦 (筑波大), 益田隆司 (東大)
- (15) オブジェクトの堆積モデルに基づく間接オブジェクトの実現 島袋浩二, 新城 靖, 翁長健治 (琉球大)

7月22日(金)

● OS-5: メモリ管理 (A 会場)

- 8:45~10:15 -

- (16) 大域的仮想仮想記憶 (GVVM) のRWC-1 上での性能予測
平野 聡, 田沼 均, 須崎有康, 一杉裕志, 塚本享治 (電総研)
- (17) 管理情報共有機構 (MetaShare) を大域的仮想仮想記憶で利用した場合の基本性能評価
田沼 均, 平野 聡, 須崎有康, 一杉裕志, 塚本享治 (電総研)
- (18) メッシュ結合並列計算機のパーティショナルゴリズム2D buddyとAdaptive Sacanを拡張したTSS
須崎有康, 田沼 均, 平野 聡, 一杉裕志, 塚本享治 (電総研)

● OS-6: 分散共有メモリ (A 会場)

- 10:30~12:30 -

- (19) Machの外部ページャによる分散共有メモリサーバの評価
斎藤彰一, 中村素典, 大久保英嗣, 大野 豊 (立命館大), 白川洋充 (近畿大)
- (20) 分散仮想記憶技術を用いた分散共有格納庫システムの実現法について
松原克弥, 加藤和彦 (筑波大)
- (21) 分散共有メモリ上の分散スレッド実行環境の構成と評価
数藤義明, 鈴木茂夫, 吉本雅彦, 柴山茂樹 (キヤノン)
- (22) 大域アドレス空間に基づく分散OSにおけるオブジェクト/プロセス移送方式
古川 陽, 柴山悦哉 (東工大)
- *SWoPP 琉球'94 の一環として電子情報通信学会 (コンピュータシステム研究会: 22日~23日, フォールトトレラントシステム研究会: 23日, WSI技術とその応用研究会: 22日) が同会場にて開催されます。

◆第18回 プログラミング-言語・基礎・実践-研究会

(発表件数: 22件)

(主査: 萩谷昌己, 幹事: 大堀 淳, 柴山悦哉, 松岡 聡)

1994年並列/分散/協調処理に関する『琉球』サマー・ワークショップ (SWoPP 琉球'94)

- 研究会連続・同時開催 -

日 時 平成6年7月21日 (木) 8:45~17:45

22日 (金) 8:45~12:30

会 場 ホテル西武オリオン (所在地は前記参照)

議 題 テーマ: 並列/分散/協調プログラミング処理系の実践と基礎

7月21日 (木)

- 8:45~10:15 -

● PRG-1: 細粒度並列言語コンパイラ (B 会場)

- (1) fleng の動的粒度制御のための静的解析手法
中田秀基, 小池汎平, 田中英彦 (東大)
- (2) スレッドベース実行における積極的データ転送のためのPlan-Do 型コンパイル技法
八杉昌宏, 松岡 聡, 米澤明憲 (東大)
- (3) 静的解析による並列論理型言語の実行最適化
大野和彦, 森眞一郎, 中島 浩, 富田眞治 (京大)

- 10:30~12:30 -

● PRG-2: 並列化コンパイラ, 並列処理系実装 (B 会場)

- (4) 線形依存ベクトルのループの並列化手法
北須賀輝明, 城 和貴, 福田 晃, 荒木啓二郎 (奈良先端大)
- (5) メッセージ交換型並列計算機のための並列化コンパイラ
三吉郁夫, 森眞一郎, 中島 浩, 富田眞治 (京大)
- (6) 疎結合並列計算機上の遅延評価型関数型言語処理系の性能評価
田中哲朗, 山本具英, 武市正人 (東大)
- (7) 並列オブジェクト指向言語mosaicのランタイム・システム
屋鋪正史, 石原義勝, 松川 力, 小西健三, 瀧 和男 (神戸大)

● PRG-3: 負荷分散, 分散記憶管理 (B 会場) - 13:30~15:30 -

- (8) 高並列計算における動的資源管理のための自己反映並列オブジェクト指向言語
増原英彦, 松岡 聡, 米澤明憲 (東大)
- (9) プライオリティ制御機構を有するOR並列Prologにおける負荷分散方式とその評価
内垣雄一郎, 林 彰吾, 松田秀雄, 金田悠紀夫 (神戸大)
- (10) 交渉により負荷分散を行う方式の評価
小川智之, 小林真也 (金沢大)
- (11) 単一ポインタ表現を持つ分散永続ヒープ上のGCの枠組
山本耕平, 猪原茂和, 益田隆司 (東大)

● PRG-4: マルチスレッド実装 (B 会場) - 15:45~17:45 -

- (12) 共有メモリ型マルチプロセッサにおける並行オブジェクトの実行系の評価
青柳洋一, 中林嘉徳, 岩田竜一, 上原 稔, 森 秀樹 (東洋大)
- (13) マルチスレッドを用いたPaiLisp インタプリタの実現と評価
川本真一, 伊藤貴康 (東北大)
- (14) 移植性のあるCの継続ライブラリ
多田好克 (電通大)
- (15) マルチスレッド化されたオブジェクトコードを生成するLOTOS コンパイラの試作

安本慶一, 由雄宏明, 東野輝夫, 谷口健一 (阪大)

7月22日(金) - 8:45-10:15 -

● PRG-5 : モニタリング, トレーシング, デバッグ (B会場)

- (16) 動的情報を採取/利用する並列プログラミング環境 岩沢京子 (農工大)
- (17) 並列オブジェクト指向言語A-NETLデバッグシステムの構築 古谷泰重, 吉永 努, 馬場敬信 (宇都宮大)
- (18) 超並列計算機RWC-1 上MPC++ プログラム向けの再現実行方式

市吉伸行, 関田大吾, 西岡利博, 吉光 宏 (RWCP)

● PRG-6 : 分散言語処理系 (B会場) - 10:30-12:30 -

- (19) 分散Linda システムの構築 茅野剛史, 多田好克 (電通大)
- (20) ICCCM に基づくメッセージ指向異機種連携技法 猪子 剛 (中部電力), 鈴木常彦 (CTI)
- (21) プロセスの再配置が可能なストリームベース並列プログラミング言語 鵜飼孝典, 山中英樹, 上田晴康 (富士通)

(22) OZ++コンパイラによるクラスの版管理

新部 裕 (三菱総研), 音川英之 (シャープ), 西岡利博, 石川雅基 (三菱総研)
中川 祐 (富士ゼロックス情報システム), 濱崎陽一, 塚本享治 (電総研)

◆第99回 計算機アーキテクチャ研究会

(発表件数:29件)

(主査:島田俊夫, 幹事:木村康則, 関口智嗣, 中島 浩)

1994年並列/分散/協調処理に関する『琉球』サマー・ワークショップ(SWoPP 琉球'94)

-研究会連続・同時開催-

日 時 平成6年7月21日(木) 8:45~17:45
22日(金) 8:45~12:30
23日(土) 8:45~12:30

会 場 ホテル西武オリオン (所在地は前記参照)

議 題 テーマ: 並列/分散/協調アーキテクチャ

7月21日(木) - 8:45-10:15 -

● ARC-1 : 新しいアーキテクチャと性能評価 (1)(D会場)

- (1) 細粒度マルチマイクロプロセッサMSBMの構成と性能評価 本石 彰, 濱田智雄, 岩根雅彦 (九工大), 米澤敏夫 (東芝)
- (2) 細粒度コードスケジューリング手法の提案とその評価 浜田智雄, 野口善昭, 前川孝徳, 岩根雅彦 (九工大)
- (3) 汎用マルチマイクロプロセッサFMM の構成と性能評価 野口善昭, 本石 彰, 茶屋道宏貴, 岩根雅彦 (九工大)

- 10:30-12:30 -

● ARC-2 : 新しいアーキテクチャと性能評価 (2)(D会場)

- (4) ハイパースカラ・プロセッサ「中洲1号」のアーキテクチャ 宮嶋浩志, 村上和彰 (九大)
- (5) 汎用マイクロプロセッサを用いたDatarol-IIプロセッサエレメントの構成と評価 富安洋史, 兩宮真人 (九大)
- (6) マルチポートメモリ結合を用いる並列プロセッサMCI の試作例 -ハイパーキューブ型とde Bruijn 型- 酒居敬一, 園田幸生, 佐伯嘉崇, 阿江 忠 (広島大)
- (7) トーラス・リング・バス結合並列マシン -プロトタイプの構成と性能評価- 伊藤 拓, 小畑正貴, 宮垣嘉也 (岡山理大)

- 13:30-15:30 -

● ARC-3 : データフローマシン/マルチスレッドマシン (D会場)

- (8) 図的仕様記述からのデータ駆動プログラムの生成手法 岩田 誠, 寺田浩詔 (阪大)
- (9) 並列計算機用要素プロセッサEMC-Y の基本性能評価 坂根広史, 児玉祐悦, 佐藤三久, 山名早人 (電総研), 坂井修一 (RWCP), 山口喜教 (電総研)
- (10) 予約タイムスタンプを用いた分散データフローマシン 永瀬 宏, 鈴木 洋 (金沢工大)
- (11) スレッドレベル並列処理アーキテクチャの検討 井上俊明, 本村真人, 鳥居 淳, 小長谷明彦 (NEC)

● ARC-4 : 投機的実行モデル (D会場) - 15:45-17:45 -

- (12) 粗粒度投機的並列処理を支援するオペレーティング・システムの構想 根路銘崇, 當眞 聡, 新城 靖, 喜屋武盛基, 翁長健治 (琉球大)

(13) 投機的実行を行うマシンにおける例外処理方式

安藤秀樹, 中西知嘉子, 原 哲也, 町田浩久, 中屋雅夫 (三菱電機)

(14) 投機的実行の現状とUnlimited Speculative Execution Schemeの提案

山名早人, 佐藤三久, 児玉祐悦, 坂根広史 (電総研), 坂井修一 (RWCP), 山口喜教 (電総研)

(15) V++ プロセッサにおける適応型再構成機能を活用した分岐処理方式

金岡弘記, 高木浩光 (名工大), 有田隆也 (名大), 川口喜三男 (名工大)

7月22日(金)

- 8:45-10:15 -

● ARC-5 : 新しいアーキテクチャと性能評価 (3)(D会場)

(16) 並列コンピュータCenju-3 のアーキテクチャ

広瀬哲也, 加納 健, 丸山 勉, 中田登志之 (NEC), 浅野由裕, 稲村 雄 (NSIS)

(17) 高集積メモリ型プロセッサULSI IMAP-2

山下信行, 木村 亨, 藤田善弘 (NEC)

(18) ボリュームレンダリング専用並列計算機ReVolverのアーキテクチャ

對馬雄次, 金 喜都, 森真一郎, 中島 浩, 富田真治 (京大)

● ARC-6 : メッセージ通信機構 (D会場) - 10:30-12:30 -

(19) Virtual Queue : 超並列計算機向きメッセージ通信機構

五島正裕, 池田泰敏, 森真一郎, 中島 浩, 富田真治 (京大)

(20) AP1000+ : デザインコンセプト

石畑宏明, 堀江健志, 清水俊幸, 林 憲一, 小柳洋一, 今村信貴, 白木長武 (富士通研)

(21) AP1000+ : メッセージハンドリング機構 (I) - ユーザーレベルインターフェース -

小柳洋一, 白木長武, 今村信貴, 林 憲一, 清水俊幸, 堀江健志, 石畑宏明 (富士通研)

(22) AP1000+ : メッセージハンドリング機構 (II) - システムレベルインターフェース -

白木長武, 小柳洋一, 今村信貴, 林 憲一, 清水俊幸, 堀江健志, 石畑宏明 (富士通研)

7月23日(土)

- 8:45-10:15 -

● ARC-7 : I/O/ファイルシステム (D会場)

(23) 超並列計算機JMUP-1における入出力サブシステムのアクセス方式

岡田 勉, 中條拓伯 (神戸大)

松本 尚 (東大), 小畑正貴 (岡山理大), 松田秀雄 (神戸大), 平木 敬 (東大), 金田悠紀夫 (神戸大)

(24) 超並列計算機におけるワークステーションクラスタ・ファイルシステム

中條拓伯, 松田秀雄, 金田悠紀夫 (神戸大)

(25) ストライプの動的再編成を行うRAID5 型ディスクアレイの更新処理の性能解析

茂木和彦, 喜連川優 (東大)

- 10:30-12:30 -

● ARC-8 : 超並列計算機のメモリアーキテクチャ (D会場)

(26) シミュレーションを用いた擬似フルマップの定量的評価

佐藤 充, 三吉貴史, 松本 尚, 平木 敬, 田中英彦 (東大)

(27) 超並列計算機でのコヒーレンシ維持のためのマルチキャスト手法の検討

工藤知宏 (東京工科大), 松本 尚, 平木 敬 (東大), 西村克信, 楊 愚魯, 天野英晴 (慶大)

(28) 擬似フルマップディレクトリキャッシュの実装方式

三吉貴史, 松本 尚, 佐藤 充, 平木 敬, 田中英彦 (東大)

(29) 複数のプロセッサによる共有を考慮したメモリアクセスバッファの構成

高橋雅史 (東北大), 大庭信之 (日本IBM), 小林広明, 中村維男 (東北大)

*IEEE Computer Society Tokyo Chapter 協賛.

◆第95回 人工知能研究会

(発表件数:12件)

(主査:中島秀之, 幹事:加藤 浩, 沼尾正行, 橋田浩一)

1994年並列/分散/協調処理に関する『琉球』サマー・ワークショップ(SWoPP 琉球'94)

-研究会連続・同時開催-

日 時 平成6年7月21日(木) 10:30~17:45

会 場 ホテル西武オリオン (所在地は前記参照)

議 題 テーマ: 知能における並列/分散/協調のあり方

▶ AI-1: 協調メカニズム (C会場) - 10:30-12:30 -

1) 分散プランニングのためのモデル獲得ルールの学習について

菅原俊治 (NTT)

2) 模倣と自己主張に基づく行動の学習 - 集団における協調行動の生成 -

三浦正宏, 山口智浩, 谷内田正彦 (阪大)

(3) RpC :Remote predicate Call 木澤 広 (玉川大), 矢吹道郎 (上智大), 益田誠也 (玉川大)

● AI-2: 推論システム (C 会場) - 13:30-15:30 -

(4) 創発的計算のためのモデルCCM による問題解決における計算の局所性の制御 - 特に制約充足問題について - 金田 泰 (RWCP)

(5) プロダクションシステムの高コストルール対処法に関する一考察 阿部武彦 (石川職業短大), 南保英孝, 木村春彦 (金沢大), 武部 幹 (金沢工大)

(6) 確率的制約プログラミング 橋田浩一 (電総研), 宮田高志 (東大), 長尾 確 (Sony CSL)

(7) 音源分離システムにおけるパターンマッチ処理の動的負荷分散を用いた並列実装 (ポジションペーパー) 中臺一博, 柏野邦夫, 田中英彦 (東大)

(8) 類推への動的アプローチ (ポジションペーパー) 石川 孝 (木更津高専)

● AI-3: エージェントモデル (C 会場) - 15:45-17:45 -

(9) 即応エージェントによる知的コミュニケーション 大澤一郎 (電総研)

(10) 有機的プログラミング言語Gaeaにおけるエージェント間通信 中島秀之 (電総研)

(11) 2次元平面内を移動するエージェント群の挙動の解釈の生成 (ポジションペーパー) 車谷浩一, 中村真理 (電総研)

(12) 協働のための「語り口」としての自己意識 (ポジションペーパー) 犬童健良 (関東学園大)

*電子情報通信学会 (人工知能と知識処理研究会) と共催。

◆第52回 ハイパフォーマンスコンピューティング研究会 (発表件数: 22件)

(主査: 野寺 隆, 幹事: 佐藤三久, 寒川 光, 長嶋雲兵)

1994年並列/分散/協調処理に関する『琉球』サマー・ワークショップ (SWoPP 琉球 '94)

- 研究会連続・同時開催 -

日 時 平成6年7月22日 (金) 13:30~17:45

23日 (土) 8:45~17:15

会 場 ホテル西武オリオン (所在地は前記参照)

議 題 テーマ: 並列分散コンピューティングのテクノロジー&サイエンス

7月22日 (金) - 13:30-15:30 -

● HPC-1: 並列化コンパイラと最適化 (B 会場)

(1) ストライドデータ転送機構を用いたコード生成 土肥実久, 林 憲一, 進藤達也 (富士通研)

(2) HPP コンパイラの実装とAP1000を用いた評価 萩原純一, 金城ショーン, 土肥実久, 岩下英俊, 進藤達也 (富士通研)

(3) ウェーブフロント型ループの超並列計算機向けコンパイル技法 太田 寛, 斎藤靖彦, 海永正博, 小野裕之 (日立)

(4) AP1000+: 並列化コンパイラをサポートするアーキテクチャ 林 憲一, 堀江健志, 清水俊之
石畑宏明, 小柳洋一, 今村信貴, 白木長武, 進藤達也, 土肥実久 (富士通研)

● HPC-2: 並列化技法と評価 (B 会場) - 15:45-17:45 -

(5) VPP Fortran を用いたNAS Parallel Benchmarkの並列化とAP1000を用いた評価 金城ショーン, 進藤達也 (富士通研)

(6) 陽的解法を用いた3次元流体コードの並列化 坂上仁志 (姫路工大)

(7) データフローに基づくスプレッドシート処理の並列化 南 宣明 (NTT インテリジェントテクノロジー), 横田治夫 (北陸先端大)

(8) 分散環境におけるマイクロマグネティクス・シミュレーションの並列実行 Kitti Kosavitsutte, 砂原秀樹, 林 信夫 (電通大)

7月23日 (土) - 8:45-10:15 -

● HPC-3: 数値アルゴリズムと並列化 (B 会場)

(9) 非対称固有値問題における射影法の加速の一般化 西田 晃, 小柳義夫 (東大)

(10) マルチグリッド前処理付き自乗共役勾配法の並列化 襲田 勉 (東大)

(11) 実非対称行列の固有値問題における分岐現象 樋口 健, 鈴木智博, 鈴木嘉彦 (山梨大)

● HPC-4: 最適化技法 (B 会場) - 10:30-12:30 -

(12) 命令レベル並列プロセッサ向けレジスタ割り付け手法とその評価

神力哲夫 (早大), 小松秀昭 (日本IBM), 古関 聰, 深澤良彰 (早大)

- (13) クリティカルパス情報とSSA 形式を利用したプログラム最適化

古関 聰 (早大), 小松秀昭 (日本IBM), 深澤良彰 (早大)

- (14) あるグラフ分割によるタスク割り付けアルゴリズム

須田礼仁 (東大)

- (15) HDPG : 階層データ分割グラフ

中西恒夫, 城 和貴, 福田 晃, 荒木啓二郎 (奈良先端大), C. D. Polychronopoulos (Univ. of Illinois)

● HPC-5 : クラスタ技術と応用 (B 会場) - 13:30~15:30 -

- (16) KU PVM3 / AP1000 の性能評価

岩下茂信, 村上和彰 (九大)

- (17) PVM のアプリケーションへの適用効果

長谷部晴美, 福井義成 (東芝)

- (18) ワークステーションクラスタによるホモロジー解析

坂田聡子, 日向寺祥子, 長嶋雲兵 (お茶の水女子大), 佐藤三久, 関口智嗣 (電総研)

- (19) パソコンクラスタによる分子の状態密度の並列計算

日向寺祥子, 長嶋雲兵 (お茶の水女子大), 青柳 睦 (分子研), 佐藤三久, 関口智嗣 (電総研)

- 15:45~17:15 -

● HPC-6 : 性能評価技術確立に向けて (B 会場)

- (20) ハイパクロスバネットワークにおけるNAS ベンチマークの評価

板倉憲一, 広野 哲, 朴 泰祐, 中村 宏, 中澤喜三郎 (筑波大)

- (21) ネットワーク数値情報ライブラリ : Ninf の設計

関口智嗣, 佐藤三久 (電総研), 長嶋雲兵 (お茶の水女子大)

- (22) スケラビリティによる並列システムの比較

関口智嗣, 佐藤三久 (電総研), 長嶋雲兵 (お茶の水女子大)

◆第40回 アルゴリズム研究会

(発表件数: 13件)

(主査: 浅野哲夫, 幹事: 加藤直樹, 鈴木 均, 徳山 豪)

日 時 平成6年7月22日 (金) 9:00~18:45

会 場 龍谷大学 理工学部 (瀬田キャンパス) 1号棟 534教室

[大津市瀬田大江町, JR (琵琶湖線 (東海道本線)): 瀬田下車, バス (3番・龍谷大行): 終点下車 (約7分).

Tel. (0775) 43-7523]

議 題

- 9:00~12:10 -

- (1) 割り当て問題に対するランダムアルゴリズムの実験的検証

中野 淳, 徳山 豪 (日本IBM)

- (2) An Efficient Algorithm for Edge-Ranking Trees

周 暁, 西関隆夫 (東北大)

- (3) A Linear Algorithm for Finding a Nonseparating Ear Decomposition of Triconnected Planar Graphs

周 良吉, 鈴木 均, 西関隆夫 (東北大)

- (4) New Approximation Algorithms for the K-Edge-Connectivity Augmentation Problem

間島利也, 渡辺敏正 (広島大)

- (5) A New Probabilistic Evaluation of Karger's Randomized Algorithm for Minimum Cut Problems

戴 陽 (神戸商大), 岩野和生 (日本IBM), 加藤直樹 (神戸商大)

- 13:30~18:45 -

- (6) 招待講演: BONSAI Garden : 学習アルゴリズムによるアミノ酸配列からの並列知識獲得システム

宮野 悟 (九大)

- (7) Counter Machines and Finite Automata with Synchronized Alternation

松野浩嗣 (大島商船高専), 角川裕次 (広島大), 井上克司 (山口大)

- (8) グラフのハイパーキューブへの辺負荷最小の埋め込み

松林 昭, 上野修一 (東工大)

- (9) 平面上で最短な二本の道を求めるアルゴリズム

草苺良至, 鈴木 均, 西関隆夫 (東北大)

- (10) 軸平行多角形障害物がある平面における最短路アルゴリズム

岩井 誠, 鈴木 均, 西関隆夫 (東北大)

- (11) The Traveling Cameraman Problem, with Applications to Automatic Optical Inspection

岩野和生 (日本IBM), Hisao Tamaki, Prabhakar Raghavan (IBM T. J. Watson研)

- (12) 双対変数を用いたA* 両方向探索アルゴリズムと経路誘導における最短路問題

今井 浩 (東大), 西村茂樹, 下浦 弘, 橋本武夫, 天目健二, 三藤邦彦 (住友電気工業)

- (13) SIGAL プログラムコンテストの案内

浅野哲夫 (大阪電通大)

◆第33回 コンピュータと教育研究会

(発表件数:5件)

(主査:大岩 元, 幹事:石田厚子, 神津陽一, 三好和憲)

日 時 平成6年7月22日(金) 13:30~17:30

会 場 慶應義塾大学 湘南藤沢キャンパス i-11号室

[藤沢市遠藤5322, JR:辻堂(北口)下車, バス(0番・慶応大学行):終点下車, または小田急線:湘南台(西口)下車, バス(2番・慶応大学行):終点下車. Tel.(0466)47-5111]

議 題

- (1) 学習の移行性を重視した拡張ローマ字入力 -AZIK- 木村 清(尚絅短大)
- (2) プログラミングコンテストと情報処理教育 堀内征治(長野高専)
- (3) 学内見学
- (4) 慶応大学湘南藤沢キャンパスの情報処理教育 大岩 元(慶大)
- (5) マルチメディア語学学習環境の試作と評価
田中公二(慶大), 岡部 学(日立), 伊賀聡一郎, 安村通晃(慶大)
- (6) 学生から見た慶応大学湘南藤沢キャンパスの情報処理教育 堀田栄里子, 井下 理(慶大)

~~~~~

◆ソフトウェア工学研究会

日 程 平成6年9月8日(木)

会 場 機械振興会館

発表申込締切 平成6年6月30日(木)

\*なお, 今回は第100回目にあたるのでこれを記念して「変革期のソフトウェア工学シンポジウム」を翌日に開催いたします。多くの皆様のご参加をお待ちしております。(詳細は8月号本欄に掲載予定です。)

\*電子情報通信学会(ソフトウェアサイエンス研究会, 知能ソフトウェア工学研究会)と共催。

◆情報システム研究会

日 程 平成6年10月18日(火)

会 場 情報処理学会 会議室(予定)

議 題 特集:ネットワーク, そのインパクトと運用課題(仮称)

技術的な研究よりむしろ, 企業や官公庁, 教育機関などにおける構築経験を踏まえて, ネットワークが持つ意味や問題について論じた発表を歓迎します。

発表申込締切 平成6年7月16日(土)

連絡先 東芝 総合情報システム部 ユーザ支援第2部 初瀬川茂 Tel.(03)5294-1815 Fax.(03)5256-7572

\*特に申込の指定がない研究会の発表申込希望者は, 開催日の3カ月前までに研究会発表申込書(4月号本欄添付)を事務局研究会担当までご送付ください。

\*\*\* 研究会 開催予定変更のお知らせ \*\*\*

◆情報学基礎研究会

7月の研究会は都合により延期いたします。時期と開催場所が決まりしだい会告欄にてお知らせいたします。なお, 9月と11月の研究会は予定どおりですが, 会場は学会事務局会議室(田町)に変更となります。

◆アルゴリズム研究会

第42回研究会 日程変更 平成6年11月24日(木)・25日(金) → 平成6年11月24日(木)(会場:東北大)

◆グラフィクスとCAD研究会

第72回研究会 日程変更 平成6年12月15日(木)・16日(金) → 平成6年12月16日(金)・17日(土)  
(会場:岡山理科大)

## ◆システムソフトウェアとオペレーティング・システム研究会

第67回研究会の開催を当初の予定（平成7年1月20（金）・於工学院大学）から下記のとおり変更いたします。

日 程 平成6年12月8日（木）・9日（金）

会 場 京大会館

議 題 特集：並列処理支援ソフトウェア

\*電子情報通信学会（コンピュータシステム研究会）と共催。

~~~~~

◆第15回 テクニカルコミュニケーション研究グループ研究会

（発表件数：2件）

（主査：山田尚勇，幹事：牛島和夫，空閑茂起，福島敏高）

日 時 平成6年7月13日（水）13:30～17:00

会 場 機械振興会館 地下3階 研修2号館

[東京都港区芝公園3-5-8，地下鉄：日比谷線神谷町，浅草線大門，三田線御成門下車，またはJR：浜松町下車，バス：渋谷－東京タワー線東京タワー，渋谷－東京駅八重洲虎ノ門5丁目下車。Tel. (03)3434-8211]

議 題

(1) マルチメディアドキュメンテーションシステム開発のための作成の思想

(2) DTPソフト（オーガスタ）開発のための作成の思想

参加費 研究グループ未登録者：2,000円（研究グループ年間登録：5,000円）

問合せ先 福島，杉田（富士通）Tel. (044)754-2660 Fax. (044)754-2662

◆第6回 ドメイン分析／モデリング研究グループ研究会

（発表件数：3件）

（主査：伊藤 潔，幹事：伊藤光恭，杵嶋修三，佐伯元司）

日 時 平成6年7月14日（木）13:00～17:00

会 場 工学院大学 11階 第8会議室

[東京都新宿区西新宿 1-24-2，JR：新宿（西口）下車，徒歩10分。Tel. (03)3342-1211]

議 題

(1) 知識システム部品化再利用のための分析手法 —計画型エキスパートシステムへの適用—

堀 雅洋，中村祐一（日本IBM）

(2) 業務モデルに基づく要求獲得の支援

齊藤康彦，本位田真一（IPA）

(3) データ流通のためのデータベース表現項目

坂田哲夫（NTT）

~~~~~

## 平成7年度研究会等の新設提案について

平成7年度に研究会・調査委員会の新設を希望する会員は、8月31日（水）までに所定の書式により、研究会（調査委員会）新設提案書を調査研究運営委員長に提出してください。書式、その他の詳細は学会事務局研究会係までお問合せください。

## 平成6年度各種行事の予定について

4月以降の主な行事予定は以下のとおりです。詳細は順次本欄にてお知らせします。なお、期日・会場が変更されることもありますので、ご注意ください。

| (行 事)                                    | (期 日)                  | (会 場)             |
|------------------------------------------|------------------------|-------------------|
| 第36回通常総会                                 | 5・20 (金)               | 工学院大学 (東京・新宿)     |
| 第49回全国大会                                 | 9・28 (水) ~30 (金)       | 北海道大学             |
| 第50回全国大会                                 | 平成7年3・15(水)~17(金)      | 青山学院大学 (東京・青山)    |
| 平成6年電気・情報関連学会連合大会 (共催)                   | 8・30 (火) ~31 (水)       | 工学院大学             |
| .....                                    |                        |                   |
| (シンポジウム)                                 |                        |                   |
| 1994年並列処理                                | 5・18 (水) ~20 (金)       | 筑波研究センター          |
| ソフトウェアプロセス                               | 5・26 (木) ~27 (金)       | 工学院大学             |
| 画像の認識・理解                                 | 7・13 (水) ~15 (金)       | グリーンピア南阿蘇         |
| 第26回情報科学若手の会                             | (未 定)                  | (未 定)             |
| 夏のシンポジウム                                 | 7・27 (水) ~29 (金)       | NTT ゆかり荘 (鎌倉市)    |
| DA シンポジウム '94                            | 8・25 (木) ~27 (土)       | 南風荘 (蒲郡市)         |
| 新しい時代の情報処理教育カリキュラム                       | 10・7 (金) ~ 8 (土)       | 電気通信大学 (東京・調布)    |
| 変革期のソフトウェア工学                             | 9・9(金) ※               | 機械振興会館 (東京・芝公園) ※ |
| 2010年マルチメディア通信と高速・知能・分散・協調コンピューティング      | 9・13 (火) ~14 (水)       | 中央大学 (東京・春日) ※    |
| グラフィクスとCAD                               | 9・21 (水) ~22 (木)       | 工学院大学             |
| 通信プロトコルのテストに関するワークショップ                   | 11・8 (火) ~10 (木)       | 工学院大学             |
| コンピュータシステム                               | 11・10 (木) ~11 (金)      | 工学院大学             |
| 自然言語処理                                   | (未 定)                  | (未 定)             |
| Groupware '94                            | 11・24 (木) ~25 (金)      | NTT 麻布セミナーハウス ※   |
| 利用者指向の情報システム                             | 12・1 (木) ~ 2 (金)       | 工学院大学             |
| アドバンスト・データベース・システム                       | 12・8 (木) ~ 9 (金)       | 工学院大学             |
| Joint Workshop on Computer Communication | 12・12 (月) ~14 (水)      | 千里 (大阪)           |
| 第36回プログラミング・シンポジウム                       | 平成 7年 1・10 (火) ~12 (木) | ホテル小涌園 (箱根)       |
| ソフトウェア工学冬のシンポジウム                         | 平成 7年 (未 定)            | 沖繩                |
| 情報メディアの生態系                               | 平成 7年 2・16 (木) ~17 (金) | 工学院大学             |
| (連続セミナー)                                 |                        |                   |
| リエンジニアリングとライトサイジングのこれからの展開               | 5・12 (木)               | 機械振興会館 ※          |
| 新しいオペレーティングシステム技術                        | 7・13 (水) ※             | 工学院大学             |
| 新しいユーザインタフェース技術の応用と課題                    | 9・16 (金)               | 工学院大学             |
| オブジェクト指向技術                               | 11・16 (水) ※            | 工学院大学             |
| 新世代データベースシステム技術の展望                       | 平成 7年 1・19 (木)         | 工学院大学             |
| インターネットの新しい展開                            | 平成 7年 3・9 (木)          | 工学院大学             |
| (講習会)                                    |                        |                   |
| 自然言語処理                                   | (未 定)                  | (未 定)             |
| アドバンスト・データベース・システム                       | 12・7 (水)               | 工学院大学             |
| (共 催)                                    |                        |                   |
| 第25回画像工学コンファレンス                          | 12・7 (水) ~ 9 (金)       | ABC 会館ホール         |
| 情報学シンポジウム                                | 平成 7年 1・11 (水) ~12 (木) | 日本学術会議講堂          |
| (国際会議共催)                                 |                        |                   |
| 第47回国際情報ドキュメンテーション連盟総会国際会議               | 10. 2 (日) ~ 9 (日)      | 大宮ソニックシティ         |

上記 ※ の箇所は日程、または会場が変更になっております。ご注意ください。



## 情報処理学会「行事」・「書籍」申込書

(本申込書は、お一人1枚にて、下記ご記入の上、お申し込みください)

### ○第49回全国大会論文集・参加予約

|        |  |
|--------|--|
| コードNo. |  |
|--------|--|

(コードNo.は、開催のお知らせに記載してあります)

○参加費 (シンポジウム・講習会・セミナー)  
(該当するものを○で囲み、金額を記入してください)

|      |                   |
|------|-------------------|
| 該当を○ | 会員・研究会登録会員・非会員・学生 |
| 金額   |                   |

・参加費には資料代が含まれています。  
・3日前までに連絡なき欠席の場合にも参加費を徴収させていただきます。

○懇親会費 \_\_\_\_\_ 円  
○資料のみ (送料込) \_\_\_\_\_ 冊 \_\_\_\_\_ 円  
通信欄

○アンケート (宿泊付の場合の部屋割りの参考にします)

(1) たばこ: すう すわない  
(2) 年齢: 20代 30代 40代 50代以上  
その他ご要望があればお書きください。

### ○送金明細

| 分冊   | 予約価                                                                     | 部数 | 金額 |
|------|-------------------------------------------------------------------------|----|----|
| 第1分冊 | 4,000円                                                                  |    |    |
| 第2分冊 | 4,000円                                                                  |    |    |
| 第3分冊 | 4,000円                                                                  |    |    |
| 第4分冊 | 4,000円                                                                  |    |    |
| 第5分冊 | 4,000円                                                                  |    |    |
| 第6分冊 | 4,000円                                                                  |    |    |
| セット  | 24,000円                                                                 |    |    |
| ※送料  | <input type="checkbox"/> 会場での受取を希望<br><input type="checkbox"/> 大会後送付を希望 |    |    |
| ※参加費 | 会員 2,000円<br>一般 4,000円                                                  |    |    |
| 懇親会  |                                                                         |    |    |
| 合計   |                                                                         |    |    |

※送料は、本会告に掲載されている第49回全国大会予約案内に明記されています。なお、会場での受取を希望の方は不要です。

※参加費には、プログラム、参加章が含まれています。

|                      |                                                                                                                                  |       |       |
|----------------------|----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|-------|-------|
| 支払方法<br>(該当を○してください) | a) 当日、会場受付にて支払います。                                                                                                               |       |       |
|                      | b) 現金書留で _____ 月 _____ 日に送金します。                                                                                                  |       |       |
| 送金人名義                | c) 郵便振替 (00150-4-83484) で _____ 月 _____ 日に送金します。                                                                                 |       |       |
|                      | d) 銀行振込 (いずれも普通預金口座) で _____ 月 _____ 日に送金します。                                                                                    |       |       |
|                      | 1. 第一勧銀新宿西口支店 2049562<br>2. 三菱銀行虎ノ門公務部 0000608<br>1,2とも名義人 社団法人 情報処理学会<br>3. 三菱銀行虎ノ門公務部 0003774 (全国大会専用口座)<br>名義人 社団法人 情報処理学会講習会 |       |       |
| 請求書類                 | 請求書 通                                                                                                                            | 見積書 通 | 納品書 通 |
|                      | 請求先                                                                                                                              |       |       |

申込先: (社)情報処理学会 事業係 〒160 東京都新宿区西新宿1-24-1 エステック情報ビル27階  
Tel. (03) 5322-3535 Fax. (03) 5322-3534 e-mail: simanuki@ipsj.or.jp  
e-mailでの申込みの場合は、本申込書の事項をもれなく明記し、お送りください。

### 通信・送付先

住所 〒 \_\_\_\_\_

機関・部課名 \_\_\_\_\_

氏名 \_\_\_\_\_ 会員番号 ( \_\_\_\_\_ )

Tel. \_\_\_\_\_ (ext. \_\_\_\_\_ ) Fax. \_\_\_\_\_

|        |     |
|--------|-----|
| コードNo. | Z49 |
|--------|-----|

## 第49回全国大会予約案内

第49回(平成6年後期)全国大会の講演論文集・参加・懇親会の予約を募集いたしますので、ぜひお申込みください。また、ご希望の論文の発行については、今回から事前発送を中止し、大会会場渡しまたは大会後の有料発送になりますので、よろしくお願い申し上げます。

期 日：平成6年9月28日(水)～30日(金)

会 場：北海道大学教養部(札幌市北区北17条西8)

論文集：B5判オフセット印刷 ※論文集価格は消費税込です

■第1分冊……………予約価 4,000円(定価 6,000円)

情報科学一般  
基礎理論及び基礎技術  
ネットワーク  
応用

■第2分冊……………予約価 4,000円(定価 6,000円)

人工知能及び認知科学  
人工知能システム,パターン認識,生体情報処理,感性情報処理  
データ処理  
音声処理,画像・図形処理

■第3分冊……………予約価 4,000円(定価 6,000円)

人工知能及び認知科学  
知識処理,自然言語処理  
データ処理

テキスト処理,マルチメディア処理

■第4分冊……………予約価 4,000円(定価 6,000円)

ソフトウェア  
基礎理論,ウィンドウシステム,オペレーティングシステム,データベース・情報検索,プログラミング技術  
ヒューマンインタフェース  
信頼性と安全性

■第5分冊……………予約価 4,000円(定価 6,000円)

ソフトウェア  
プログラム言語及び仕様記述言語,言語処理系,ツール  
ソフトウェア工学

■第6分冊……………予約価 4,000円(定価 6,000円)

ハードウェア  
システム

■セット(上記6冊一揃,講演者索引・カバー付)……………予約価24,000円(定価36,000円)

■送料(大会後の発送希望者のみ,冊数を問わず同一料金)北海道・九州 1,400円,中国・四国 1,300円,東北・中部・北陸 1,000円,関西 1,100円,関東 900円

■申込先(社)情報処理学会 全国大会係

〒160 東京都新宿区西新宿1-24-1 エステック情報ビル27階

Tel. (03)5322-3535 Fax. (03)5322-3534

(7月18日以降) 〒106 東京都港区芝浦3-16-20 芝浦前川ビル7階

Tel. (03)5484-3535 Fax. (03)5484-3534

■参加費(プログラム・参加章含む):会 員 2,000円(賛助会員は正会員に準じます),

非会員 4,000円,学生 無料

■懇親会:札幌会館,会費5,000円(学生3,000円)

■申込締切:平成6年8月19日(金)必着

(締切後は予約扱いいたしませんので,ご了承ください)

\*申込書は本会告に掲載されている「行事申込書」をお使いください。掲載頁は,会告目次をご覧ください。

コードNo. RS 94

情報処理学会「連続セミナー94」

## ビジネス・プロセス・リエンジニアリングのための 最新情報テクノロジーの理論と実践

企業等において、ビジネス・プロセス・リエンジニアリング（BPR）が積極的に検討されていますが、この中で先端情報テクノロジーが要素技術として必要不可欠であり、これを取り入れた情報システムが極めて重要な役割を占めています。

本セミナーは、ビジネス・プロセス・リエンジニアリング（BPR）の核心である最新情報テクノロジーの理論および実践について、6回のテーマで実施。すでに第1回が盛況のうちに終了いたしました。第2回以降は、以下のテーマで行われます。参加ご希望の方は、本会告に掲載されております行事申込書に必要事項をご記入の上、お申込みください。多数の参加をお待ちしております。

**場 所** 工学院大学 3階312 教室（東京都新宿区西新宿）  
**参加費** 会員 70,000 円、非会員 90,000 円、学 生 10,000 円  
 （計5回分、資料代含む）  
**資料のみ** 5,000 円（1回分）

### 〔第2回〕1994年7月13日（水）新しいオペレーティングシステム技術

- ・セッション1（10：00～11：15）  
 新しいオペレーティングシステムと技術動向 砂原 秀樹（電通大）
- ・セッション2（11：30～12：45）  
 Windows NT 未 定（マイクロソフト）
- ・セッション3（14：00～15：15）  
 Solaris 大曾根 明（サン・ソフトJSC）
- ・パネルディスカッション（15：30～17：30）  
 コーディネータ：砂原 秀樹（電通大）  
 パネリスト：大曾根 明（サン・ソフトJSC）、鈴木 茂哉（フォア・チューン）  
 他3名は未定

### 〔第3回〕1994年9月16日（金）

- 新しいユーザインタフェース技術の応用と課題
- ・マルチメディア
  - ・GUI
  - ・デザインツールとユーザビリティ
  - ・パネルディスカッション  
 コーディネータ：小川 克彦（NTT）

### 〔第4回〕1994年11月16日（水）

- オブジェクト指向技術
- ・オブジェクト指向開発の方法
  - ・オブジェクト指向開発の実際（管理的側面）
  - ・オブジェクト指向開発の適用と事例
  - ・パネルディスカッション  
 コーディネータ：青山 幹雄（富士通）

### 〔第5回〕1995年1月19日（木）

- 新世代データベースシステム技術の展望
- ・オブジェクト指向データベースシステム技術の展望
  - ・マルチメディアデータベースシステム技術の展望
  - ・ダウンサイジングにおけるデータベースシステム技術
  - ・パネルディスカッション  
 コーディネータ：増永 良文（情報大）

### 〔第6回〕1995年3月9日（木）

- インターネットの新しい展開
- ・内外のインターネットの現状
  - ・インターネットの新しいサービス
  - ・インターネットの新しい技術
  - ・パネルディスカッション  
 コーディネータ：石田 晴久（東 大）

講演者が決定次第ご案内いたします。  
 内容が多少変更される場合がございます。ご了承ください。

## 「DAシンポジウム'94」開催について

標記シンポジウムを下記の要領で開催いたします。参加ご希望の方は、期日までに必要事項を申込書に記入の上、お申込みください。

日 時 平成6年8月25日(木) 11:30受付開始(この日の昼食は用意しません) 12:45開会～  
27日(土) 12:45散会

場 所 西浦温泉南風荘(愛知県蒲郡市西浦町)

Tel.(0533)57-2101, Fax.(0533)57-1744

交通路線バス:東海道線蒲郡駅～西浦温泉35分, タクシー:同左25分

主 催 情報処理学会 設計自動化研究会

参 加 費 研究会会員34,000円, 会員39,000円, 学生20,000円, 非会員44,000円

※宿泊費(2日目昼食,消費税込), 懇親会費を含む。

申込締切 7月29日(金)

申 込 先 (社)情報処理学会 シンポジウム係

〒160 東京都新宿区西新宿1-24-1 エステック情報ビル 27階

Tel.(03)5322-3535 Fax.(03)5322-3534

事務局移転のため7月18日以降,下記に連絡先が変更になります。

〒108 東京都港区芝浦3-16-20 芝浦前川ビル7階

Tel.(03)5484-3535 Fax.(03)5484-3534

※参加申込後,やむを得ず参加を取り消される場合は,8月12日(金)までにお願います。取り消しの連絡のない場合は,準備の都合上,参加費を徴収させていただきます。

※申込書は,本会告に掲載されている「行事申込書」をお使いください。掲載頁は,会告目次をご覧ください。

## - プ ロ グ ラ ム -

第1日 8月25日(木)

受付開始(11:30～)

開 会(12:45～)

[会場A]

セッションA-1 機能設計支援(13:00～14:30)

・グラフィックとハードウェア記述言語とミックス入力による設計手法の評価

—ミックスエントリツールOpen Chartでの検証— 菅谷 和伸, 山田 孝光, 野田 桂子, 岡 善治(リコー)

・対話的に仕様を決定するLSI機能設計支援システム

大山 浩司, 大森 健児(法政大)

・トップダウン設計を適用したLSIの開発事例

蛭田 規之(沖電気)

—休 憩(14:30～15:00)—

セッションA-2 上位合成(15:00～16:30)

・レジスタ転送レベルからのデータバス回路生成手法

岩崎 知恵, 川口 謙一, 村岡 道明(松下電器)

・Timing Analysis in Register-Transfer Synthesis of Sub-micron Circuits

Vasily Moshnyaga, Shin-ya Furusawa, Keikichi Tamaru(京大)

・条件分岐を含む動作記述に対するスケジューリング手法

山田 晃久(シャープ), 山崎 年樹, 石浦菜岐佐(阪大), 神戸 尚志(シャープ), 白石 功(阪大)

—休 憩(16:30～16:45)—

セッションA-3 論理合成(16:45～17:45)

・nビットマクロによるクロック合成

野池 保(三菱)

・ゼロサプレス型二分決定グラフを用いた多項式の効率的処理手法

湊 真一(NTT)

[会場B]

セッションB-1 配置I(13:00～14:30)

・非線形計画法に基づくパフォーマンスドリブンスタンダードセル配置手法

小出 哲士, 小野 光博, 楠元 寛史, 若林 真一, 吉田 典可 (広島大)

・データフローを考慮したスタンダードセル配置手法

豊永 昌彦, 村岡 道明 (松下電器)

・セルアレイ方式VLSIのセル行内の相対関係を保存したセルの最適配置に関する研究

石川 宏之, 高橋 篤司 (東工大), 梶谷 洋司 (東工大, 北陸先端科技大)

- 休憩 (14:30~15:00) -

セッションB-2 配置II (15:00~16:30)

・プリント基板上における部品の階層的な配置に関する研究

行松 徹, 古橋 武, 内川 嘉樹, 鈴木 啓司 (名大)

・遺伝アルゴリズムによるプリント基板の部分自動配置に関する一考察

吉川 大弘, 古橋 武, 内川 嘉樹 (名大)

・チャンネル密度の最少化を陽に考慮したスタンダードセルフィードスルー割当て手法

小出 哲士, 鈴木 武志, 若林 真一, 吉田 典可 (広島大)

- 休憩 (16:30~16:45) -

セッションB-3 配線 (16:45~18:15)

・線分再割当による概略配線経路改善アルゴリズム

岡本 匠, 石川 正樹, 藤田 友之 (NEC)

・セル上領域を有効に利用した3層セル上チャンネル配線

小出 哲士, 槌家 正博, 若林 真一, 吉田 典可 (広島大)

・配線領域を動的に拡張する線分探索型配線手法

中谷 隆, 米澤 典剛 (NEC)

懇親会 (19:00~)

第2日 8月26日 (金)

[会場A]

セッションA-4 テスト容易化 (8:30~10:00)

・超大規模ボードのテスト手法

木村 敬, 勘田 芳正, 袖 宏治, 桑原 教雄 (NECソフトウェア北陸), 高橋 茂, 嵯峨 幸治 (NEC)

・ASIC (特定用途向けIC) ユーザにおけるテスト設計自動化技術の利用事例紹介

川島 徹也 (富士電機)

・レジスタ転送レベルでのテスト容易化設計手法

本原 章, 高井 裕司, 細川 利典, 松本 道弘, 村岡 道明 (松下電器)

セッションA-5 テスト生成・診断 (10:30~12:00)

・演算器系回路のテストパターン生成と冗長故障判定

旦代三弥子, 新舎 隆夫, 西田 隆夫 (日立)

・単一縮退故障モデルによる論理回路の多重故障診断

濱田 周治, 相京 隆, 山本 剛 (富士通)

・短縮スキャンシフトによるパーシャルスキャンアルゴリズム

樋上 喜信, 梶原 誠司, 樹下 行三 (阪大)

- 昼食 (12:00~13:00) -

セッションA-6 CADフレームワーク (13:00~14:00)

・VHDLに対応する設計データ構造の決定とアナライザの開発

藤田 透 (東芝)

・設計モデルの整合性検証手法とネットリスト情報への適用

新井 浩志 (千葉工大), 深澤 良彰 (早大)

セッションA-7 ハードウェア/ソフトウェア協調設計I (14:00~15:00)

Hardware/Software Codesign手法を用いた信号処理アルゴリズムの効果的な実現とその評価

内田 健, 貴家 仁志, 山田 昭彦 (都立大)

・ハードウェア記述言語からの情報抽出

赤星 博輝, 安浦 寛人 (九大)

- 休憩 (15:00~15:30) -

セッションA-8 パネル討論会 (15:30~18:00)

反) "LSIのローパワー設計技術"

[会場B]

セッションB-4 レイアウトシステム (8:30~10:00)

ゲートアレイ/セルベースIC自動レイアウトシステム - GALET -

石塚 昭夫, 岡本 匠, 多和田 茂芳, 袖 美樹子 (NEC)

水沼 貞幸 (NECソフトウェア北陸), 高見沢一彦 (NEC)

モジュールジェネレータを使用したエンベディッドアレー用CADシステムについて

馬場 俊明, 内田 浩文, 灘岡 満, 高橋 唯夫 (沖電気)

・MMIC自動配置配線アルゴリズム

長尾 明 (シャープ), 重弘 裕二 (阪大), 神戸 尚志 (シャープ), 白川 功 (阪大)  
- 休憩 (10:00~10:30) -

セッションB-5 レイアウト合成 (10:30~12:00)

・高密度ゲート分離方式CMOSゲートアレイ用マクロセル自動生成手法

中尾 博臣, 奥田 亮輔, 林 中也, 定兼 利行, 寺井 正幸 (三菱)

・Maple: FPGAを対象としたテクノロジーマッピング・配置・概略配線同時処理手法

戸川 望, 佐藤 政生, 大附 辰夫 (早大)

・FPGAのスイッチブロックのアーキテクチャについての研究

高島 康裕, 高橋 篤司 (東工大), 梶谷 洋司 (東工大, 北陸先端科技大)  
- 昼食 (12:00~13:00) -

セッションB-6 タイミング/パフォーマンスCAD (13:00~15:00)

・複数配線層を用いた指定ディレイクロック配線

関 光穂, 井上 健士 (日立), 田久保 宗廣, 佐々木 均, 相沢 睦仁 (日立エンジニアリング)

・セル配置後のパス遅延最適化のための回路変更処理手法

石岡 尚 (東芝)

・クロックディレイ最小化のための配置配線手法

新田 祐介, 木村 光行 (日立)

・The Area-Power-Delay Tradeoff in Gate Sizing Guangqiu Chen, Hidetoshi Onodera, Keikichi Tamaru (京大)

- 夕食 (19:00~20:00) -

第3日 8月27日 (土)

[会場A]

セッションA-9 ハードウェア/ソフトウェア協調設計II (8:30~10:30)

・アーキテクチャ評価用コンパイラ・ジェネレータの評価

富山 宏之, 赤星 博輝, 安浦 寛人 (九大)

・アプリケーションに応じて再構成可能な汎用プロセッサ

松岡 裕人, 木村 晋二, 渡邊 勝正 (奈良先端科技大)

・ハードウェア/ソフトウェア・コデザイン手法を用いたCPUコアの生成とその評価

佐藤 淳 (鶴岡工業高専), 引地 信之 (SRA), 塩見 彰睦, 今井 正治 (豊橋技科大)

・Extension of Instruction Set Design for Pipelined Architecture in PEAS-I System

Nguyen-Ngoc Binh, Masaharu Imai, Akichika Shiomi (豊橋技科大)  
Nobuyuki Hikichi (SRA), Jun Sato (鶴岡工業高専)

- 休憩 (10:30~11:00) -

セッションA-10 招待講演 (11:00~12:30)

・“ハードウェア/ソフトウェア・コデザインへの期待と今後の課題”

今井 正治 (豊橋技科大)

[会場B]

セッションB-9 並列CAD (8:30~10:30)

・温度並列シミュレーテッド・アニーリング法の評価 - LSIブロック配置問題に適用して -

小西 健三, 瀧 和男 (神戸大)

・並列化を考慮した多端子配線問題の部分引き剥がし再配線処理

佐野 雅彦, 高橋 義造 (徳島大)

・汎用並列計算機上のバーチャルタイムによる並列論理シミュレータ

瀧 和男, 石原 義勝, 高垣 雅弘 (神戸大)

・汎用エンジンRM-IIIの開発

澄川 文徳, 垣原 雅巳, 富田 昌宏, 平野 浩太郎 (神戸大)

閉会 (12:30~12:45)

コードNo. S-D P S

## 2010年マルチメディア通信と高速・知能・分散・協調コンピューティング シンポジウム開催について

マルチメディア通信と分散処理研究会では、本年9月13日と14日に「2010年マルチメディア通信と高速・知能・分散・協調コンピューティング」シンポジウムを開催予定である。本シンポジウムでは、2010年を想定して、通信ネットワークの超高速化のなかで展開されるポスト分散システムとは何かを、技術、人間、社会という側面から議論することである。2010年には、数～数十Gbpsの超高速通信ネットワークにより、家庭、企業、車、工場のロボット等の移動体、各家庭の家電を含めたあらゆる情報機器が相互接続されたものとなる。こうした超高速ネットワークを背景としたポスト分散システムについての幅広い議論を行うことを目的としている。

期 日 平成6年9月13日(火)～14日(水)  
 会 場 中央大学理工学部5号館5534教室  
 (地下鉄丸の内線後楽園下車徒歩5分, JR水道橋下車徒歩10分)  
 主 催 情報処理学会マルチメディア通信と分散処理研究会  
 参 加 費 研究会会員10,000円, 会員15,000円, 学生3,000円, 非会員20,000円  
 申込締切 平成6年8月26日(金)  
 申 込 先 (社)情報処理学会 シンポジウム係  
 〒160東京都新宿区西新宿1-24-1 エステック情報ビル27階  
 Tel. (03)5322-3535 Fax. (03)5322-3534  
 事務局移転のため7月18日(月)より申込先が下記に変更になります。  
 〒108東京都港区芝浦3-16-20 芝浦前川ビル7階  
 Tel. (03)5484-3535 Fax. (03)5484-3534

### －プログラム－

#### 第1日 9月13日(火)

開会挨拶(9:00～9:10)

研究会主査 白鳥 則郎(東北大)

セッション1 基調講演(9:10～10:00)

・ポストモダン分散システム

白鳥 則郎(東北大)

セッション2 コンピュータと通信技術(10:00～13:00)

・通信とコンピュータ

相田 仁(東大)

・通信網の超高速・高機能化

鈴木 健二(KDD)

・モバイルコンピューティング

水野 忠則(静岡大)

・やわらかいネットワーク

菅原 研次(千葉工大)

－昼休み(13:00～14:00)－

セッション3 招待講演(14:00～15:00)

・GII構築の意義と日本の役割

公文 俊平(国際大)

セッション4 利用・応用技術(15:00～17:00)

・社会をかえるデータベース

滝沢 誠(電機大), 寺中 勝美(NTT)

・マルチメディアシステム

阪田 史郎(NEC)

・高度情報化社会

千葉 徹(シャープ)

#### 第2日 9月14日(水)

セッション5 設計技術(9:00～12:00)

・知識型設計支援パラダイムとその進化

木下 哲男(沖電気)

・分散エージェントの世界

村上 国男(神奈川大)

・協調コンピューティングの未来

岡田 謙一(慶大)

・超分散システムへの招待

塚本 享治, 平野 聡(電総研)

－昼休み(12:00～13:00)－

セッション6 招待講演(13:00～14:00)

・新しいライフスタイル

松下 温(慶大)

パネル討論「2010年を語る 技術と社会」(14:10～17:00)

パネリスト: 西澤 潤一(東北大)

相磯 秀夫(慶大), 國井 利泰(会津大),

蓮井 浩哉(超高速ネットワーク・コンピュータ技術研究所),

古川 享(マイクロソフト)

司 会: 野口 正一(日大)

## 平成6年電気・情報関連学会連合大会の開催案内

## 環境・福祉・情報と未来社会

## —技術の融合とインテリジェント化—

21世紀へ向け、電気・情報関連分野の果たす役割は非常に大きくなっています。技術の融合が進み、各分野の専門家が共同して重要なテーマについて考察することが、これまで以上に社会から求められる時代となりました。本連合大会は、情報処理学会、電気学会、電子情報通信学会、照明学会、テレビジョン学会が毎年共同して主催する長い歴史を持つ大会です。関連5学会の会員が共通して興味を持てるテーマあるいは学際的テーマを選び、連合だからこそできる有意義な大会を目指しています。

本年の統一テーマは「環境・福祉・情報と未来社会」です。自然と協調するヒューマニティ時代に向けた技術の役割、その最新動向を紹介し、豊かな21世紀を展望します。それぞれの分野でご活躍の専門家が分かりやすく講演いたします。多数の学会員、また一般の方々のご参加をお待ちいたしております。

会 期 平成6年8月30日(火)～31日(水)

会 場 工学院大学(東京都新宿区西新宿1-24-2)

統一テーマ 環境・福祉・情報と未来社会 —技術の融合とインテリジェント化—

特別講演 30日(火)午後1時30～3時10分

「脳の情報処理」 講師 養老 孟司(東大)

日本学術会議 最近の文部省科学研究費補助金重点領域研究の代表者達によって、情報分野の将来の学問的・シンポジウム 技術的課題を探り、今後の方向づけを行います。

30日(火)午後3時20～5時50分

「情報技術の将来像」

司会 堂下 修司(京大)

1. 並列処理の拓く世界

田中 英彦(東大)

2. ソフトウェアはやはりむづかしい

和田 英一(富士通研)

3. 知的処理技術に向けて

大須賀節雄(東大)

4. 感性情報処理に向けて

辻 三郎(阪大)

講 演 下記の3つのテーマに基づき、9つのセッションを設け、24の講演を行います。

「環境と情報」

「福祉と情報」

「21世紀の技術展望」

大会参加費 会員 2,000円, 学生 1,000円, 会員外 3,000円

参加は、当日も受け付けますが、下記の予約申込書でご予約いただきますと大会前にプログラムと参加章を送付いたします。

講演論文集 オフセット印刷により講演論文集を出版し、予約販売および会場販売をします。

価格 全1冊 10,000円(ただし大会参加の学生は2,000円)

懇 親 会 8月30日(火)午後6時～8時

「工学院大学生協食堂」(中層棟7階)

参加費 一般 4,000円 学生 2,000円

問 合 先 (社)情報処理学会 連合大会係

〒160 東京都新宿区西新宿1-24-1 エステック情報ビル27階

Tel. (03)5322-3535 Fax. (03)5322-3534

事務局移転のため7月18日(月)より下記へ問合せ先が変更になります。

〒108 東京都港区芝浦3-16-20 芝浦前川ビル7階

Tel. (03)5484-3535 Fax. (03)5484-3534



## 平成6年電気・情報関連学会連合大会日程

| 会場                                            | 使用教室        | 8月30日(火)                    |                            | 8月31日(水)                       |                             |
|-----------------------------------------------|-------------|-----------------------------|----------------------------|--------------------------------|-----------------------------|
|                                               |             | 10時～12時                     | 13時30～17時50分               | 9時30分～11時30分                   | 13時～17時30分                  |
| 第1会場                                          | 3階<br>312教室 | A. 情報処理の21世紀への展開(21世紀の技術展望) | ・特別講演<br>・日本学術会議<br>シンポジウム | D. デバイス技術の21世紀への展開(21世紀の技術展望)  | G. 電力技術の21世紀への展開(21世紀の技術展望) |
| 第2会場                                          | 8階<br>811教室 | B. 生体と情報<br>(福祉と情報)         | —————                      | E. コミュニケーション環境と感性情報<br>(福祉と情報) | H. 医療と情報<br>(福祉と情報)         |
| 第3会場                                          | 8階<br>815教室 | C. 環境としての空間<br>(環境と情報)      | —————                      | F. 環境と人間<br>(環境と情報)            | I. 情報環境<br>(環境と情報)          |
| 大会および懇親会場の所在地<br>東京都新宿区西新宿1-24-2<br>工学院大学新宿校舎 |             |                             | 懇親会<br>会場「生協食堂」<br>午後6時～8時 |                                |                             |

## 講演プログラム

## A. 情報処理の21世紀への展開(21世紀の技術展望)

8月30日・10時～12時(3階 312教室)

講演 質疑  
時間 時間

座長 内藤 誠一郎(NTT)

- 1 2001年のコンピュータシステム ..... 飯塚 肇(成蹊大) 50分 10分
- 2 情報処理の新しいパラダイム—やわらかな情報処理— ..... 大津 展之(電総研) 50分 10分

## B. 生体と情報(福祉と情報)

8月30日・10時～12時(8階 811教室)

座長 三好 和憲(工学院大)

- 1 福祉と生体情報 ..... 伊福部 達(北大) 50分 10分
- 2 異種感覚情報統合の工学的表現 VRは脳機能を探る道具となるか? ..... 吉澤 誠(豊橋技科大) 50分 10分

## C. 環境としての空間(環境と情報)

8月30日・10時～12時(8階 815教室)

座長 沖 允人(足利工大)

- 1 都市環境と色彩 ..... 児玉 晃(日本色彩研究所) 50分 10分
- 2 景観シミュレーション ..... 笹田 剛史(阪大) 50分 10分

|                                       |                               |     |     |
|---------------------------------------|-------------------------------|-----|-----|
| <b>D. デバイス技術の21世紀への展開 (21世紀の技術展望)</b> | 8月31日・9時30分～11時30分 (3階 312教室) |     |     |
|                                       | 座長 荻野 俊郎 (NTT)                |     |     |
| D-1 集積システムにおける新概念をさぐる .....           | 雨宮 好仁 (北大)                    | 50分 | 10分 |
| D-2 液晶デバイスの将来技術の展開 .....              | 内田 龍男 (東北大)                   | 50分 | 10分 |
| <b>E. コミュニケーション環境と感性情報 (福祉と情報)</b>    | 8月31日・9時30分～11時30分 (8階 811教室) |     |     |
|                                       | 座長 篠原 克幸 (工学院大)               |     |     |
| E-1 コミュニケーション環境と感性情報 .....            | 望月 清文 (KDD)                   | 50分 | 10分 |
| E-2 高齢化社会に向けての音響情報処理 .....            | 宮坂 栄一 (NHK)                   | 50分 | 10分 |
| <b>F. 環境と人間 (環境と情報)</b>               | 8月31日・9時30分～11時30分 (8階 815教室) |     |     |
|                                       | 座長 木村 軍司 (都立大)                |     |     |
| F-1 地球観測の現状と展望 .....                  | 輿石 肇 (リモートセンシング)              | 50分 | 10分 |
| F-2 電磁界の人体への影響 .....                  | 藤原 修 (名工大)                    | 50分 | 10分 |
| <b>G. 電力技術の21世紀への展開 (21世紀の技術展望)</b>   | 8月31日・13時～17時30分 (3階 312教室)   |     |     |
|                                       | 座長 荒川 文生 (電源開発)               |     |     |
| G-1 新エネルギー用電力変換技術 .....               | 井村 輝夫 (富士電機)                  | 50分 | 10分 |
| G-2 超電導技術—電力応用への展望 .....              | 秋田 調 (電中研)                    | 50分 | 10分 |
|                                       | (休憩 30分)                      |     |     |
| G-3 太陽電池—グローバルエネルギーネットワーク .....       | 桑野 幸徳 (三洋電機)                  | 50分 | 10分 |
| G-4 燃料電池—新たな供給システム形成 (SOFC) .....     | 大野 吉弘 (神奈川大)                  | 50分 | 10分 |
| <b>H. 医療と情報 (福祉と情報)</b>               | 8月31日・13時～17時30分 (8階 811教室)   |     |     |
|                                       | 座長 井上 誠喜 (NHK)                |     |     |
| H-1 医療情報システム .....                    | 田中 博 (東京医歯大)                  | 50分 | 10分 |
| H-2 ヒューマニティエレクトロニクスの将来 .....          | 野城 真理 (東京医歯大)                 | 50分 | 10分 |
|                                       | (休憩 30分)                      |     |     |
| H-3 視覚障害者支援システム .....                 | 浅川 智恵子 (日本IBM)                | 50分 | 10分 |
| H-4 知的通信と手話伝送 .....                   | 青木 由直 (北大)                    | 50分 | 10分 |
| <b>I. 情報環境 (環境と情報)</b>                | 8月31日・13時～17時30分 (8階 815教室)   |     |     |
|                                       | 座長 大岩 元 (慶大)                  |     |     |
| I-1 デジタル・ビデオ通信の現状と展望 .....            | 笠原 久嗣 (NTT)                   | 50分 | 10分 |
| I-2 マルチメディアオフィス .....                 | 阪田 史郎 (NEC)                   | 50分 | 10分 |
|                                       | (休憩 30分)                      |     |     |
| I-3 個人情報のセキュリティ .....                 | 辻井 重男 (中大)                    | 50分 | 10分 |
| I-4 バーチャルリアリティによる人工的環境 .....          | 館 暲 (東大)                      | 50分 | 10分 |

平成6年電気・情報関連学会連合大会  
講演論文集および大会参加予約申込書

環境と福祉・情報と未来社会  
-技術の融合とインテリジェント化-

参加申込と講演論文集の予約募集を行いますので、参加を予定されている方は事前にご予約くださいますようお願い申し上げます。

参加をご予約いただきました方々へは、プログラムと参加章をできあがり次第、お送りいたします。また、参加予定の方が、講演論文集のご予約をされた場合には論文集引換券をお送りし、会場で講演論文集と引換えいたします。なお参加できない方へは、大会終了後、お送りさせていただきます。

○該当する欄の□に✓印を記入してください。

予約申込締切日 7月29日(金)

| 大会参加費                                                                                                           | 懇親会                                                                      | 講演論文集                                                                         | 合計金額               |
|-----------------------------------------------------------------------------------------------------------------|--------------------------------------------------------------------------|-------------------------------------------------------------------------------|--------------------|
| <input type="checkbox"/> 会員 2,000円<br><input type="checkbox"/> 学生 1,000円<br><input type="checkbox"/> 会員外 3,000円 | <input type="checkbox"/> 4,000円<br><input type="checkbox"/> 2,000円(学生のみ) | <input type="checkbox"/> 10,000円<br><input type="checkbox"/> 2,000円(参加する学生のみ) | 円                  |
| 学生は大学院生を含みます。                                                                                                   |                                                                          | <input type="checkbox"/> 会場での受取を希望<br><input type="checkbox"/> 大会終了後送付を希望     | 講演論文集は消費税、送料を含みます。 |

平成 年 月 日  
上記のとおり予約いたします。

○送金明細

|                                 |                                                                                                                                                                                                                                                                               |
|---------------------------------|-------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 支払方法<br>(該当する欄の□に<br>✓印をしてください) | <input type="checkbox"/> 現金書留で _____ 月 _____ 日に送金します。<br><input type="checkbox"/> 郵便振替(00150-4-83484)で _____ 月 _____ 日に送金します。<br><input type="checkbox"/> 銀行振込(いずれも普通預金口座)で _____ 月 _____ 日に送金します。<br>1. 第一勧銀新宿西口支店 2049562<br>2. 三菱銀行虎ノ門公務部 0000608<br>(いずれも名義人 社団法人 情報処理学会) |
| 送金人名義                           | 様                                                                                                                                                                                                                                                                             |
| 請求書類                            | 請求書 通 見積書 通 納品書 通                                                                                                                                                                                                                                                             |
|                                 | 請求先                                                                                                                                                                                                                                                                           |

|                                                                                                                                                                                            |
|--------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 申込先: (社)情報処理学会 連合大会係 〒160 東京都新宿区西新宿 1-24-1 エステック情報ビル27階<br>Tel. (03)5322-3535 Fax. (03)5322-3534<br>事務局移転のため7月18日より 〒108 東京都港区芝浦 3-16-20 芝浦前川ビル7階<br>Tel. (03)5484-3535 Fax. (03)5484-3534 |
|--------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|

通信・送付先

住所 〒 \_\_\_\_\_

機関・部課名 \_\_\_\_\_

氏名 \_\_\_\_\_ 所属学会名 ( \_\_\_\_\_ )  
 \_\_\_\_\_ 様 会員番号 ( \_\_\_\_\_ )

Tel. \_\_\_\_\_ (ext. \_\_\_\_\_) Fax. \_\_\_\_\_

## 新しい時代の情報処理教育カリキュラムシンポジウム論文募集

コンピュータのダウンサイジングの急速な進行に伴い、情報ネットワークが企業や教育機関における大きな課題となっております。このような時代において、質の高い情報技術者に対する社会的ニーズはますます高まっていくでしょう。この社会的ニーズに応えるためには、教育機関における情報処理教育の量的充実（情報系学科・講座の増加、一般情報処理教育の実施、社会人リフレッシュ教育）はもちろん不可欠ですが、その前提として質の高い情報処理教育カリキュラムがあることは言うまでもありません。

情報処理学会は、文部省の委託を受けて、これまでにコンピュータサイエンス、情報システム学、一般情報処理教育、短大・高専のための情報処理教育、等々高等教育機関の情報処理カリキュラムに関する調査研究と提言を行ってきました。特に、コンピュータサイエンスのカリキュラムJ90は、あらゆる情報処理教育におけるコアの役割を果たすものとして、学会内外に大きな影響を及ぼしてきました。

しかし、入試の多様化等により高等教育の概念自体が著しく変化しつつある今日、新しい高等教育の在り方を視野に入れた情報処理教育カリキュラムの論議が必要になっております。私達は、社会の変動に耐えられるすぐれたカリキュラム・教育方法・教育体制を次の世代に残していかなければなりません。

本シンポジウムは、以上のような新しい社会に対応した情報処理教育カリキュラムについての討議を通じて、情報処理教育の質的向上に資することを目的とするものです。

日 時 平成6年10月7日（金）～8日（土） 9:30～17:00

場 所 電気通信大学（東京都調布市調布ヶ丘1-5-1）

テ マ コンピュータサイエンスのカリキュラムJ90とその発展  
情報スーパーハイウェイ時代の情報処理教育カリキュラム  
マルチメディア時代の情報処理教育カリキュラム  
大学改革と情報処理教育カリキュラム  
社会人リフレッシュ教育と情報処理教育カリキュラム

実施方法 (1) 発表論文については、公募および当委員会による推薦とします。

(2) 応募の場合は要旨（A4版用紙1～2枚程度、コピー3部を添付のこと）を平成6年7月29日（金）までに提出してください。

(3) 採否の決定は8月17日（水）までに通知します。

(4) 採択された場合は、本論文を9月9日（金）までに提出してください。本論文は和文または英文で、和英両方のアブストラクトを添付してください。刷り上がり8ページ以内です。

提出先 (社) 情報処理学会 「新しい時代の情報処理教育カリキュラム」 シンポジウム係

〒160 東京都新宿区西新宿1-24-1 エステック情報ビル27階

Tel. (03)5322-3535 Fax. (03)5322-3534

(7月18日以降)

〒106 東京都港区芝浦3-16-20 芝浦前川ビル7階

Tel. (03)5484-3535 Fax. (03)5484-3534

連絡先 このシンポジウムに関する問合せは下記をお願いいたします。

東京農工大学工学部電子情報工学科 中森眞理雄

Tel. (0423)87-4626 Fax. (0423)87-4624 email:nakamori@cc.tuat.ac.jp

## 「グループウェア '94」シンポジウムのお知らせ及び論文募集

グループウェア研究会では、昨年の「Groupware '93 - マルチメディアと通信インフラ-」に続き、3回目のシンポジウムを、下記の通り、開催を計画しております。

今年は招待講演に加えて、一般論文も募集することとなりました。  
多数の論文のご投稿をお待ちしております。

### 記

#### 1. シンポジウム名

「グループウェア '94-組織運営と知的創造環境支援-」

#### 2. 開催の主旨

本研究会では、平成4年10月23日に慶応大学において「グループウェア '92-グループウェアはマルチサイトオフィスのインパクトとなるか-」、平成5年7月8日に工学院大学において「グループウェア '93-マルチメディアと通信インフラ-」と題して毎年シンポジウムを開催してきました。

シンポジウムには、情報、通信分野の研究者、技術者のみならず社会学、心理学、経営・組織論など工学以外の分野からも多数の参加を得て、活発な討論を行いました。

昨年は、人間の社会活動を支える通信インフラと情報処理システムのあり方を、技術的、人間的、社会的な各側面から議論し、今後の動向を展望してきました。

現在、映像・音声・データなどを同時に扱えるマルチメディアコンピューティング技術の進展と通信ネットワークの高速化・広帯域化によって、時間と空間の壁を越えてひとつの場を共有し、協調して作業するグループ活動を支援する情報処理システム（グループウェアシステム）の研究開発が活発化しつつあります。特に、組織における共同作業は人間の振舞い、組織や社会のあり方に深く関係しており、これを支援するシステムは、技術面だけでなく、行動科学や心理学といった人間的側面、さらに組織構造論や社会心理学といった社会的側面をも合わせて考慮したシステムであることが理想と言えます。また、単なる情報通信インフラを越えて、人間の働きがいを向上させるために、リエンジニアリングなどで組織を活性化し、知的創造作業の支援を行うトータルな環境が求められています。

今回は、第3回として、組織における高次の人間行動を支える総合的環境をテーマに取り上げ、技術的、組織的、行動科学的観点から議論し、グループウェアの研究および開発の今後の進むべき方向を明らかにしていこうと考えています。

#### 3. テーマ（予定）「グループウェア '94-組織運営と知的創造環境支援-」

基調講演、招待講演、一般講演、パネルディスカッション、を行います。

##### 一般講演テーマ

主なテーマは以下の通りですが、必ずしもこれらに限りません。広く学際的な研究発表を歓迎いたします。

- ・組織運営と知的創造環境支援
- ・グループウェアの実現と評価
- ・協調行動支援の方法論
- ・その他グループウェアに関連する研究、開発、調査、報告

#### 4. 日 時 平成6年11月24日（木）、25日（金）10時～17時

#### 5. 場 所（予定） NTT麻布セミナーハウス（〒106 東京都港区南麻布4-5-63 Tel. (03)3440-5454 Fax. 3440-5460 地下鉄日比谷線広尾駅下車徒歩3分）（当初の予定と変更になりましたのでご注意ください）

#### 6. 参加費 グループウェア研究会会員 10,000円 情報処理学会会員 15,000円 情報処理学会学生会員 3,000円 非会員 25,000円 論文集のみ（送料込）5,000円

#### 7. 主 催 情報処理学会 グループウェア研究会

#### 8. 論文応募要領

##### ・発表申込締切 平成6年8月20日

応募多数の場合には、グループウェア研究会にて採否を決定することになりますのでご了承ください。

##### ・応募形式

通常の研究会と同一形式で表紙含み6ページ

##### ・採否決定通知発送 平成6年9月8日

##### ・カメラレディ締切 平成6年10月28日

##### ・連絡先、申込先 （社）情報処理学会 シンポジウム係

〒160 東京都新宿区西新宿1-24-1 エステック情報ビル27F

Tel. (03)5322-3535 Fax. (03)5322-3534

##### （7月18日以降）〒108 東京都港区芝浦3-16-20 芝浦前川ビル7F

Tel. (03)5484-3535 Fax. (03)5484-3534

## プログラミング・シンポジウムについて 第36回プログラミング・シンポジウム発表募集

プログラミング・シンポジウムは通常のシンポジウムとは異なり、自由な雰囲気の中で、計算機の無限の可能性を開拓してゆく「夢のシンポジウム」を目指したものです。1960年に第一回目が開催されて以来これまでに、将来を展望したプログラミング技術等に関して、毎年活発な討論が行われ、その中から数多くの斬新なアイデアが生まれてきました。

1. 学術論文発表の場というより、多方面の人々の共通の討論の場であり、意見交換の場であると考えています。  
(夕食後にも、自由討論の場を用意します。)
2. 情報処理の発展のために、多数の方々が参加され、活発に発言されることを期待します。
3. 未完成であっても将来に影響を与えるような話題を歓迎します。
4. ポスタ発表およびデモンストレーションなどの場を用意します。

日時 平成7年1月10日(火)午後1時より12日(木)正午まで  
場所 箱根ホテル小涌園  
問合せ先 情報処理学会 シンポジウム係 Tel. (03)5322-3535  
発表申込 発表は講演またはポスタ発表が可能です。  
講演またはポスタ発表の区別を明記した上で、  
○ポスタ発表希望の場合は、発表の題と400字程度の要旨を、  
○講演希望の場合は、発表の題とA4判用紙1~2枚程度の要旨を、  
9月2日(金)までに、(1)氏名、(2)所属、(3)(e-mailアドレスを含む)連絡先とともに事務局宛にお送りください。その採否は9月末までにお知らせいたします。発表原稿の締切は11月18日(金)です。  
参加申込 10月号に参加申込書を、また、11月号にプログラムを掲載する予定です。  
参加費 (予稿集代、宿泊費、食費を含む。カッコ内は非会員参加費)  
☆一般 43,000円(48,000円)  
☆大学院学生 30,000円(35,000円)  
※二つ以上の身分をお持ちの方は高い方の会費を適用させていただきます。

## 第26回情報科学若手の会シンポジウム開催のご案内

日時 1994年7月27日(水)~29日(金)  
場所 ホテル華の湯(仙台市・秋保温泉)  
定員 50名  
内容 (1)分野を限定した研究会やシンポジウムとは異なり、情報科学全般の分野の若手研究者が集まり、形式や成果にとらわれず自由な討論をおこなう場。  
(2)未完成であっても、将来に影響を与えるような話題を歓迎します。  
参加資格 情報科学および関連分野で、研究・実務に携わっている若手研究者・技術者  
参加費 22,000円(食費込み、遠方からの参加者には交通費一部補助)  
参加申込 A4判の紙に氏名、所属、連絡先、電話番号、e-mailアドレス、発表題目、発表内容の要旨を記入して送付のこと。  
e-mailでの申込みも可能です。  
申込締切 7月20日  
問合せ先 〒980 仙台市青葉区片平2-1-1 東北大学電気通信研究所  
白鳥研究室 若手の会幹事 佐藤 究  
Tel & Fax. (022)212-1439, e-mail:kiwamu@riec.tohoku.ac.jp

## 「アドバンスト・データベースシステム・シンポジウム '94」論文募集 —ネットワーク社会とデータベース—

近年、ネットワークの超高速化、広帯域化、高機能化技術が急速に進展し、米国の HPCC(High Performance Computing and Communications) 計画や、日本の新世代通信網実用実験の開始により、これらの技術が実用化段階に入りつつあります。この 21 世紀に向けたネットワーク環境の変化がデータベースシステムに与えるインパクトは非常に大きいと考えられ、我々はこの変化にどう対処して行くのか真剣に議論しておく必要があります。実際、この新しいネットワーク環境のもとで大規模分散型データベースや分散型マルチメディア環境、あるいは CSCW(Computer Supported Cooperative Work) が現実的なものとなり、それらのシステムを支えるための大規模データベース設計/管理、分散型オブジェクト管理/運用、実時間性、ダウンサイジング、知的データベースインタフェース等の研究開発が改めて重要な課題となります。そこで、本シンポジウムでは、このような視点から来るべきネットワーク社会とデータベースのあり方を求めて、データベースに関係する最新の研究成果/システム開発状況/利用状況、及び今後の進むべき方向について議論したいと考えます。本テーマに関する多数の論文投稿をお待ちいたします。

期 日 平成 6 年 12 月 8 日 (木) ~ 9 日 (金)  
会 場 工学院大学 3 階 312 教室 (東京都新宿区西新宿)

### 論文募集要項

- トピック：特に上記主題に関するトピック、およびアドバンスト・データベースシステムの構築・管理・運用全般に関するトピック。
- 応募論文は和文または英文とし、応募時に Extended Abstract (図表・参考文献を含む) を提出する。論文長はワープロ A 4 判で 4 ~ 8 ページ程度 (和文 6,000 字, 英文 1,600 語が目安) とする。
- 応募論文 (Extended Abstract) は情報処理学会データベースシステム研究会が査読し採否を決定する。採録された場合、最終論文は論文長刷り上がり 10 ページ (和文約 19,000 字, 英文約 5,000 語) を上限とし、会議録に収録されるとともに、シンポジウムで口頭発表する。
- 応募論文 (Extended Abstract) は、そのコピー 3 部を下記に郵送または持参する。  
(社) 情報処理学会アドバンスト・データベースシステム・シンポジウム係  
〒160 東京都新宿区西新宿 1-24-1 エステック情報ビル 27 階  
Tel.(03)5322-3535 Fax.(03)5322-3534  
(事務局移転のため 7 月 18 日より)  
〒108 東京都港区芝浦 3-16-20 芝浦前川ビル 7 階  
Tel.(03)5484-3535 Fax.(03)5484-3534
- スケジュール  
論文 (Extended Abstract) 応募締切：平成 6 年 9 月 9 日 (金) 必着  
採否通知：平成 6 年 10 月 3 日 (月) までに通知  
カメラレディ最終論文提出締切：平成 6 年 11 月 4 日 (金) 必着
- 問合せ先  
増永 良文 (図書館情報大)  
Tel.(0298)52-0511 Fax.(0298)52-4326  
e-mail:masunaga@ulis.ac.jp  
井上 潮 (NTT)  
Tel.(0468)59-2610 Fax.(0468)55-1152  
e-mail:inoue@syrinx.ntt.jp

本シンポジウムでは応募論文の発表のほかに、基調講演、招待講演、サーベイセッションなどを予定しています。また、シンポジウム開催日前日の 12 月 7 日 (水) には、同じ場所で講習会も予定しています。シンポジウムと講習会のプログラムや参加申込みなどにつきましては、今後本欄にてお知らせいたします。

## 第24回安全工学シンポジウム

**主催** 日本学術会議安全工学研究連絡委員会  
**共催** 化学工学会, 火薬学会, 計測自動制御学会, 資源・素材学会, 自動車技術会, 情報処理学会, 静電気学会, 電気学会, 電気設備学会, 電子情報通信学会, 土木学会, 日本エネルギー学会, 日本化学会, 日本火災学会, 日本機械学会, 日本技術士会, 日本経営工学会, 日本建築学会, 日本原子力学会, 日本高圧力技術会, 日本航空宇宙学会, 日本鋼構造協会, 日本シミュレーション学会, 日本信頼性学会, 日本設備管理学会, 日本造船学会, 日本人間学会, 日本燃焼学会, 日本船用機関学会, 日本非破壊検査協会, 日本ファジィ学会, 腐食防食協会, 安全工学協会(幹事学会)

**開催日** 1994年7月6日(水)～7日(木)  
**会場** 日本学術会議講堂ほか(東京都港区六本木7-22-34)  
 Tel.(03) 3403-6291

**参加費** 聴講自由(ただし, 講演予稿集を有料(1部5,000円)で頒布)  
**懇親会** 日時 7月6日(水) 18時から  
 会場 健保会館 会費4,000円

**連絡先** 〒231 横浜市中区尾上町4-47 大和銀行ビル3F  
 安全工学協会内 第24回安全工学シンポジウム実行委員会係  
 Tel.(045) 641-3213 Fax.(045) 681-2613

### － プ ロ グ ラ ム －

第1日 7月6日(水)

[第1会場(講堂)]

Session I パネルディスカッション(9:30～12:00) 司会 佐藤 吉信  
 ・社会的に許容されるリスク

Session II 挨拶(13:00～13:30)  
 第24回安全工学シンポジウム実行委員長 小川 輝繁氏  
 日本学術会議会長 近藤 次郎氏  
 日本学術会議第5部会員 柴田 碧氏

Session III 特別講演(13:40～14:30) 座長 平野 敏右  
 ・H-II ロケットの開発について 下平 勝幸(宇宙開発事業団理事)

Session IV オーガナイズドセッション(14:30～17:30) 座長 宮本 昌幸  
 ・鉄道の安全性

[第2会場(2階No.1)]

Session V (9:40～10:40) 座長 勝山 邦久  
 Session VI (10:40～12:00) 座長 長谷川和俊  
 Session VII (14:30～15:50) 座長 鶴田 俊  
 Session VIII (16:00～17:20) 座長 佐藤 研二

－懇親会(18:00～20:00) 於 健保会館－

第2日 7月7日(木)

[第1会場(講堂)]

Session IX パネルディスカッション(9:30～12:00) 司会 大久保克夫  
 ・アジアにおける安全諸問題の現状－その共通点と対立点－

Session X 特別講演(13:00～14:00) 座長 前 郁夫  
 ・さびとの開いの動向－地域環境, 豊かな社会そして安全を守るために－ 松島 巖(日本鋼管)

Session XI オーガナイズドセッション(14:10～17:10) 座長 近藤 重雄  
 ・オゾン層の破壊とその防止対策

[第2会場(2階No.1)]

Session XII (9:30～10:50) 座長 関根 和喜  
 Session XIII (10:50～12:10) 座長 橘内 良雄  
 Session XIV (14:10～15:50) 座長 金野 秀敏  
 Session XV (15:50～17:30) 座長 花安 繁郎



## ヒューマン・フロンティア・サイエンス・プログラム (HFSP) 1994年度募集開始のお知らせ

IPSJ KAIKOKU

HFSP (International Human Frontier Science Program Organization)は、生体のもつ精妙かつ複雑な機能の解明を中心とする基礎研究を国際的に共同して推進し、その成果を広く人類全体の利益に供しようとするプログラムです。HFSPは、創造的、独創的な研究を国際的に推進することを目的としており、特に若手研究者による国際的、学際的な研究の助成に重点が置かれています。1994年度についてつぎの要領で募集が行われます。

### 1. 研究対象分野

#### A. 脳機能の解明のための基礎研究分野

1. 要素過程 2. 知覚と認知 3. 運動と行動 4. 記憶と学習 5. 言語と思考

#### B. 生体機能の分子論的アプローチによる解明のための基礎研究分野

1. 遺伝子情報発現 2. 形態形成 3. 分子認識・応答 4. エネルギー変換

### 2. 事業内容

研究グラント : 国際的な共同研究チームに対する研究費助成。チーム代表者は運営支援国の研究者。

フェローシップ : 運営支援国の研究者が他の国の研究機関に行き研究を行う場合および運営支援国以外の国の研究者が運営支援国の研究機関で研究を行う場合を対象とする留学費助成。短期フェローシップ (3か月以内) および長期フェローシップ (3か月～2年) の2種類。

ワークショップ : 運営支援国の研究者によってオーガナイズされる国際的なワークショップに対する助成。

(注) 運営支援国は、カナダ、フランス、ドイツ、イタリア、日本、スイス、イギリス、アメリカ、EC加盟国。

3. 募集締切日 1994年9月1日(木) (短期フェローシップおよびワークショップについては随時受付。)

4. 国内連絡照会先 〒100 東京都千代田区霞が関2-2-1 科学技術庁科学技術政策局国際政策室  
Tel. (03)3501-3490 (直通) (03)3581-5271 (内線 332) Fax. (03) 3581-3079  
〒100 東京都千代田区霞が関1-3-1 通商産業省工業技術院国際研究協力課  
Tel. (03)3501-6011 (直通) (03)3501-1511 (内線4591～4) Fax. (03) 3580-8025

# カラーフォーラム JAPAN '94 論文募集

(第11回色彩工学コンファレンス/第40回光学四学会連合講演会)

**主催:** 光学四学会幹事会 [日本色彩学会、日本写真学会、日本光学会 (応用物理学会)、照明学会]  
**共催:** 画像電子学会、テレビジョン学会、電子写真学会、電子情報通信学会  
**協賛:** 情報処理学会、電気学会、日本印刷学会、日本心理学会、日本デザイン学会、日本ME学会、レーザー学会、色材協会、I S T東京支部、人工知能学会、日本視覚学会 (依頼中)。

光学四学会連合講演会が色彩工学コンファレンスに衣替えをして昨年で10年を経過しました。つぎの10年の新たな発展を期して、名称を変更、さらに共催団体の参加を得て組織を強化いたしました。その記念すべき第1回カラーフォーラム JAPAN を下記のように開催いたします。独創性、新規性、有用性のある研究成果が多数発表されますよう、多くの皆様のご応募をお待ちしております。また、チュートリアル講演および「Color Expo '94」も併催いたします。

**日 時:** 1994年10月26日(水)・27日(木)・28日(金)

**場 所:** 工学院大学・ホール (東京・西新宿)

**趣 旨:** 色彩科学/工学は、光学、写真、印刷、テレビ、電子画像、情報処理、照明、デザイン、医学、心理などの広い分野で、重要な基盤技術の一つとして独自に発展してきました。本フォーラムはこのような学際的な色の問題を統一的に討論できる唯一の場として、日本の色彩科学/工学の発展に寄与することを目的としています。

**構 成:** 応募講演 (20分) 約20件、招待講演 (40分) 数件、チュートリアル講演を予定しています。また新第1回を記念して、各種の特別講演/特別セッションを予定しています。

**募集論文内容:** 最近おこなった未発表の研究で下記のいずれかに該当するものに限ります。

■重点テーマ

- (a) カラーマネジメント (キャラクターゼーション、色変換、カラーマッピング、色圧縮、色順応など)
- (b) 肌色 (測色、印刷、写真、テレビ、コピー、化粧など)

■一般テーマ

- (1) 色覚 (色覚心理、色覚生理など)
- (2) 測色・表色 (色差、色の見えと評価、条件等色、測定器など)
- (3) 光源 (演色性、常用光源、蛍光灯、レーザーなど)
- (4) 色彩記録・色再現 (写真、印刷、ハードコピー、画像処理、画像評価など)
- (5) 色彩表示・デバイス (TV、ディスプレイ、LCD、CGなど)
- (6) 配色 (環境、デザイン、芸術など)
- (7) 色材材料 (色素、フィルター、染料、顔料、蛍光体など)

**応募資格:** 登壇者は、主催・共催・協賛学会会員とします。

**講演申込方法:** 下記の申込書とA4・1枚(500字程度、図表も含む)の抽象図を下記あてお送りください。抽象図には題目、氏名、所属、共著者名および内容を記載してください。FAXでも受け付けます。

**申込書および概要の提出期限:** 1994年7月26日(火)

**応募論文の審査:** 実行委員会において申込時提出の内容概要で審査します。

**論文集原稿:** 採択論文についてはオフセット印刷・4ページの原稿を提出していただきます。原稿作成の詳細については、論文採否通知(8月上旬)とともにお知らせいたします。

**論文集原稿締切:** 1994年9月26日(月)

**送付先・問合せ先:** 東京都港区浜松町2-12-14 第2日化ビル連企画気付 〒105  
 「カラーフォーラム JAPAN事務局」 ☎(03) 3433-2543 FAX (03) 3433-3904

.....キ.....リ.....ト.....リ.....セ.....ン.....

|                                                                                                                |     |
|----------------------------------------------------------------------------------------------------------------|-----|
| <b>題目</b>                                                                                                      |     |
| <b>☎</b>                                                                                                       | FAX |
| <b>所属学会</b>                                                                                                    |     |
| <b>希望分類名</b><br>[上記(a)から(f)のうち、複数記入可]                                                                          |     |
| <b>ポスタセッションを希望</b><br><input type="checkbox"/> する <input type="checkbox"/> しない <input type="checkbox"/> どちらでも可 |     |

**カラーフォーラム JAPAN '94講演申込書**

所在地〒

.....

機関名

.....

所属

.....

氏名

.....

## 「学協会は今後いかにあるべきか」 — 学術の国際化と教育・研究現場の変貌への対応 —

さる4月20日(社)日本工学会(本学会も加盟)の主催で行われた第7回学協会共通問題に関する討論会のまとめを報告いたします。

第Ⅰ部「国際化に対する大学の教育・研究改善への諸問題」についての、日本学術会議常置委員長による第15期審議検討の報告、文部省の学術法人に対する行政施策についての説明を受けて、第Ⅱ部パネル討論会「変革期に直面する学協会の行方」が行われた。各パネラから学協会とは何のためにあるかについて、現状報告とともに、熱のこもった提言があり、最後に次のような総括がなされた。

### 1. パラダイム変化への対応

現在、人類にとって世紀を画する転換期にある。学術は人類の知的資産として共有され、それは応用や技術化を通じて、社会・経済の発展に寄与するものと認識されるべきものである。そのために国際交流は必須の要件となっている。世界変革のうねりの中で、わが国は科学技術において、世界の最先端に位置することとなったが、その諸制度は明治以来の欧米先進諸国へのキャッチアップを目指す体制のままであり、抜本的改革が求められる。

### 2. 科学者・技術者集団としての学協会

個人の創意によって科学技術は進歩する。その集団としての学協会は、未来を担う若者が、科学技術へ夢と情熱と志を持つための社会的環境作りに努力することが求められている。新しい知識の創造と広く次世代の人類へと伝承されていくべき科学技術活動支援の場としての学協会の立場を認識する必要がある。

### 3. 学協会の社会的地位

学協会の会員は、科学者のステイタスとして認められ、そのサークルとしての学協会の時代から、その知識を国際的に共有し、広く社会に浸透させて社会の発展に役立たせる責務がある時代へと変化してきている。したがって、学協会は学術に関する非政府機関(NGO)として、科学的見地からの活動と会員のボランティアによる非営利機関として位置づけられる。学協会のこうした地位のために、学協会への社会的優遇措置がはかられるべきである。

#### 1. 学術団体への支援強化

学協会の現状は、国際会議開催への資金、制度的障害、論文誌への財務負担、国際会議代表派遣への個人の過大な負担等、多くの諸問題が存在する。学協会活動は、未来の社会基盤を形成するためのものであり、国民の社会的負担の対峙とされるべきである。したがって、税制上の優遇、活動対象によっては国費の配分、公益増進法人対象の拡大、さらには学術法人法(仮称)の制定による支援が必要である。欧米諸国並みの優遇を早急に実現すべきである。

#### 2. 非政府機関(NGO)としての学協会活動

国際貢献において、わが国は政府以外のボランティアによるNGO活動への経験に乏しい。したがって、今後NGO活動による社会の安定的発展がますます求められるようになることから、学協会もそれに対応する体制を整える必要がある。こうした問題意識と専門性の高い専従者の育成も重要であり、NGOとしての社会的地位、組織、資金の確保を目指して体制整備をすることが求められる。

#### 3. 学協会と産業界との接近

学協会の会員構成は、電気学会の例では、産業界70%、大学30%、論文発表は大学70%、産業界30%であり、工学系学協会は、大体こうしたパターンと思われる。社会に対する草の根活動による寄与によって、青少年が科学に関心を持つようになり、社会の人々の理解も進み、会員も増加する。地域における産業界と密着した学協会の支部活動が学協会の社会的地位を強固とするものとなろう。また、工学教育協議会活動は、理工学を含めて活動することを望む。

#### 4. 日本学術会議と学協会

日本学術会議は、わが国の内外にわたる科学者の代表機関である。約1,000の学協会(会員数約240万人)から推薦された会員が活動している。その目的とするところは、科学の向上発展を図り、行政、産業および国民生活に科学を反映浸透させることである。世論を背景に、長期的、科学的視点で人類社会の福祉に貢献することが使命である。学協会は推薦する会員を支援し、研究連絡委員会活動を強化して、日本学術会議とより一体感を持った活動をなすべきである。第15期から16期への移行にあたり、以上の論議を踏まえて、次の二つの課題「学術団体活性化」「アジア・太平洋地域学術協力」を特別委員会設置の上、早急に審議し、方策を立案されることを要請する。

日本工学会の立場) 文部省長谷川学術情報課長の説明によれば、学術法人としての社会的活動の地位の認定をされているのは126団体、人分社会科学等8%、自然科学系92%である。その中で、工学系は全体の約半分を占める。学術法人法制定運動の参加の学協会は256団体となり、延べ会員数は、100万人を超すと思われる。日本工学会は、工学だけでなく、その広がり大きさから、学術団体全体の活動に配慮しつつ活動をすべき責務があるようである。



## 第13回世界コンピュータ会議出席のおすすめ



第13回目に当たる IFIP Congress '94 が、本年8月28日～9月2日にドイツのハンブルグにおいて、IFIP（情報処理国際連合）とGI（ドイツ情報処理学会）で共催されます。

IFIP (International Federation for Information Processing) は、自由主義圏から共産圏、先進国から発展途上国まで約70カ国の情報処理に関する技術的専門団体が参加している国際的な連合組織です。UNESCOの後援で1959年6月、第1回情報処理国際会議がパリで開催された際に基本構成が決定され、翌1960年1月に正式発足しました。加盟は1カ国1団体が原則で、日本からは情報処理学会が加盟しています。1960年に情報処理学会が設立された目的の一つに、日本を代表してIFIPに加盟することがありました。

IFIPの活動の中の最も重要なものが、2～3年ごとに開催される世界コンピュータ会議です。第1回パリ大会以降各国で開催され、1980年には、東京で IFIP Congress '80 として当学会が主催し、世界各国から2,300名の参加を得て大きな成功を収め、1980年代の「情報処理技術の国際交流」へ大きな刺激を与えた実績があります。

今回の IFIP Congress '94は、従来とは大きく異なった非常に革新的なプログラム構成となっています。今回のコンGRESのテーマは、Computer and Communications Evolution - The Driving Forces で、今世紀末に向けてとるべき行動のメッセージを発信することに重点をおいています。従って、これまでの会議がパッシブな参加者を想定していたのに較べて、本会議では参加者のより積極的な関与を求め、参加者との意見交換を通して、今後とるべき行動指針としてのコンGRESメッセージを創り上げていくことを狙っています。

会議には、100件以上の招待講演、140件の論文発表をはじめ、講演者との質疑討論、チュートリアル、パネル、ワークショップ、会社訪問ならびに展示会も計画されています。特に冒頭に行われるキーノートセッションでは、一村一品運動やテクノポリス構想で著名な平松守彦大分県知事が、スピーカ者の一人に予定されています。

21世紀まで数年を残すのみとなった今、従来とは異なった形で運営される本コンGRESに参加されることは、来たるべき世紀に向けて、我々がとるべき方向を見据えるために大いに有益であり、大学等において教育・研究に携わる方々、企業トップの方を初め、ハードウェアやソフトウェアの技術者・研究者の皆様にとって裨益するところが誠に大きいと思われまます。我が国からできるだけ多くの方々のご参加を期待しています。

参加の希望ならびに会議出席に関心のある方は、下記の担当までご連絡ください。詳しい資料をお送りいたします。

なお、参加申込は通常の国際会議と同様に、参加者から直接先方に行なって頂きますが、学会として日本からの参加者数を把握したいため、学会にも参加申込書の写しをお送りいただければ幸いです。

会議名：13th World Computer Congress(IFIP Congress'94)

期 日：1994年8月28日(日)～9月2日(金)

会 場：CCH:Congress Centrum Hamburg

| 会議参加費：  | 6月1日まで | 6月1日以降 |
|---------|--------|--------|
| 一般      | 850DM  | 990DM  |
| 学生      | 300DM  | 385DM  |
| 一日のみ    | 420DM  | 495DM  |
| チュートリアル | 360DM  | 440DM  |
| 同伴者     | 100DM  | 100DM  |

DM：ドイツマルク (1ドイツマルク=約62円)

問合せ先：(社)情報処理学会 国際担当 横山

〒160 東京都新宿区西新宿1-24-1 エステック情報ビル27階

Tel. (03)5322-3535 Fax. (03)5322-3534 e-mail:yokoyama@ipsj.or.jp

## 正会員新入会の特別キャンペーンの実施について

情報処理に関する学術・技術の研究・開発を活発にしつつ社会に貢献していくため、情報処理に関心をお持ちの方の入会促進を図ることとし、正会員新入会の特別キャンペーンを実施いたしております。この特別キャンペーン期間中は、できるだけ多くの方にご入会いただくため、入会金 2,000 円を無料にする特典を設けました。

会員の皆様には、是非この機会にお知りあいの方々に入会をお勧めくださいますようお願いいたします。

- (1) 入会申込書 学会誌「情報処理」奇数月号巻末綴込みの書式をご利用ください。
- (2) 申込み方法 入会申込書に年会費 9,600円（郵便振替をお勧めします）を添えてお申込みください。  
入会金は無料です。
- (3) 申込締切日 平成6年7月末日到着分までとします。
- (4) 送付先・問合せ先

〒160 東京都新宿区西新宿1-24-1  
エステック情報ビル27F Tel. (03)5322-3535  
社団法人 情報処理学会 会員係

なお、正会員（一括扱い会員は除く）の方には、次年度からの会費および論文誌購読費の納入方法として、「預金口座自動振替」（5月号本欄添付）をお勧めしております。平成7年度会費から自動振替納入を希望される方は、入会申込みの際に会員係までお知らせください。

## 平成6年度会費・購読費の納入について（お願い）

本年度の会費・購読費未納の方には、6月下旬に郵便振替用紙を発送いたします。会費・購読費は前納を原則としておきますので、未納の方は早急にご納入くださいますようお願いいたします。

なお、7月末日までにご納入いただけない場合は、9月から学会誌・論文誌の発送を停止させていただきます。後日ご納入いただいても、停止期間中の学会誌・論文誌をお送りできないこともありますのでご了承ください。

### 自動振替ご利用の方へ]

去る3月28日に振替未済の方は、7月27日に再振替いたします。

振替金額は7月上旬にあらためてご通知いたしますので、預金残高をご確認いただき、振替額不足にならないようご注意ください。振替された場合には、預金通帳の摘要欄に「ダイヤモンドファクター」「コウザフリカエ」または「DF・ジョウショカイヒ」と印字されます。

## 情報処理学会論文誌

「ソフトウェア開発における仕様記述法とその適用」  
特集号への論文投稿のご案内

論文誌編集委員会

情報処理学会の論文誌において、下記の要領で「ソフトウェア開発における仕様記述法とその適用」をテーマに特集号を企画しております。ここで、仕様記述法とは、ソフトウェアの開発における、要求仕様、設計仕様、プログラム仕様など広範囲な仕様の記述・作成法を意味します。当学会のソフトウェア工学研究会主催の研究会・シンポジウム等で「仕様記述法とその適用」に関して発表された方々、およびこれに関連した研究開発者の方々に対して、広く募集しますので奮ってご投稿下さいますようご案内いたします。

## 投 稿 要 領

|         |                                                            |
|---------|------------------------------------------------------------|
| 論文の執筆要領 | 「情報処理学会論文誌」原稿執筆案内によります。<br>論文投稿規約は学会誌 1994年5月号巻末に掲載されています。 |
| 査読手続き   | 通常の論文誌投稿論文と同一です。                                           |
| 投稿締切り   | 1994年7月29日（金）<br>投稿論文には、「仕様記述」特集と朱書してください。                 |
| 特集号予定   | 1995年 春                                                    |

本特集号への投稿論文は、一般投稿論文と全く同じ要領で査読手続きが行われます。採録された論文は、一括掲載されるという利点があります。



## 情報処理学会論文誌「グループウェア」特集号への論文投稿のご案内

論文誌編集委員会

情報処理学会の論文誌において下記の要領で「グループウェア」をテーマに特集号を企画しております。当学会のグループウェア研究会主催の研究会・シンポジウムで発表された論文、その他「グループウェア」に関連した論文を広く会員から募集しますので、奮ってご投稿くださいますようご案内いたします。

## 投 稿 要 領

|         |                                                            |
|---------|------------------------------------------------------------|
| 論文の執筆要領 | 「情報処理学会論文誌」原稿執筆案内によります。<br>論文投稿規約は学会誌 1994年5月号巻末に掲載されています。 |
| 査読手続き   | 通常の論文誌投稿論文と同一です。                                           |
| 投稿締切り   | 1994年8月31日<br>投稿論文には、「グループウェア特集」と朱書してください。                 |
| 採否通知    | 1995年2月末                                                   |
| 特集号予定   | 1995年5月号                                                   |

本特集号への投稿論文は、一般投稿論文と全く同じ要領で査読手続きが行われます。採録された論文は、一括掲載されるという利点があります。

## 学会事務局（本部）の移転について

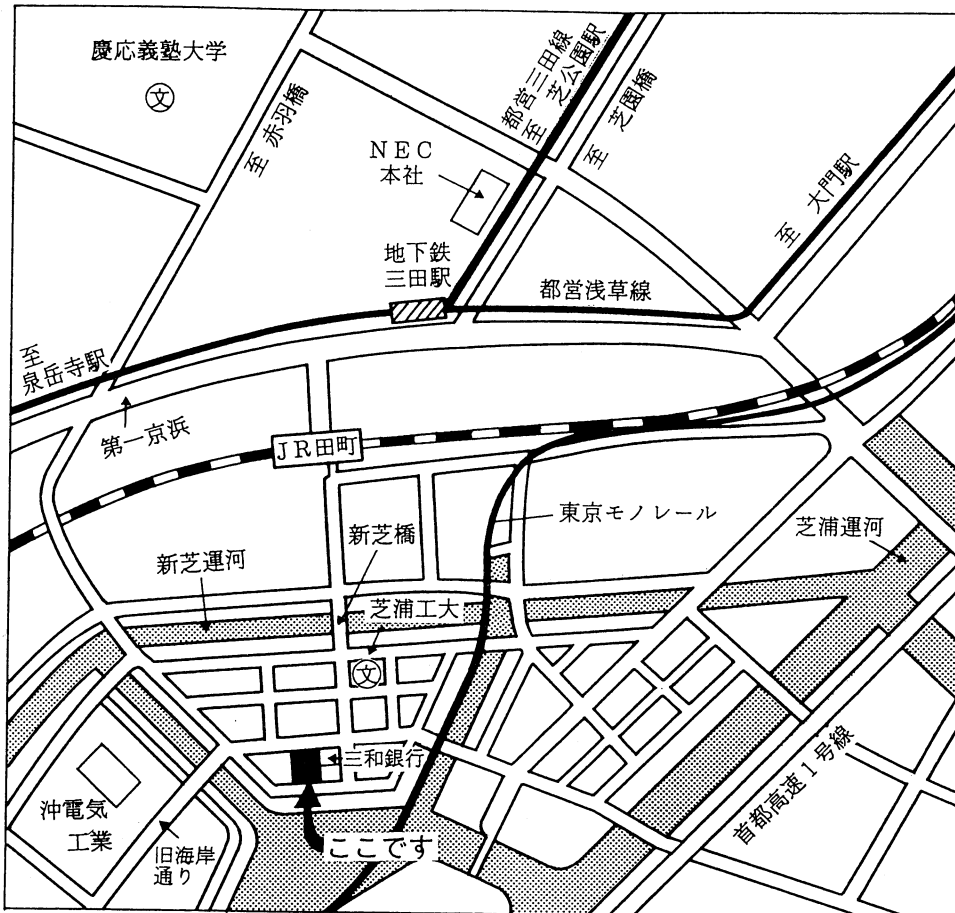
会員の皆さま方の学会活動への深いご理解とご支援を得て、当学会は活動を活発に行ってまいりましたが、バブルのはじけた現在の不況下、会員数の伸びが止まり、かつ、減少ぎみとなってまいりました。それに加え、事務所の賃借料等の負担が大きく、学会の健全なる経営がむずかしくなってきましたので、賃借料等の負担の少ない事務所へ事務局本部（会員、編集、事業、研究会、国際、総務）を下記により移転することといたしましたのでご案内申し上げます。

なお、情報規格調査会（規格部）は現状どおり機械振興会館にて業務を行っております。

### 記

1. 移 転 先 〒108 東京都港区芝浦三丁目16番20号 芝浦前川ビル7階  
Tel. (03)5484-3535 Fax. (03)5484-3534
2. 開設予定日 平成6年7月18日(月)
3. 交 通 JR田町駅東口から徒歩5分、または地下鉄三田駅（都営三田線、浅草線）から徒歩7分（地図参照）
4. 会 議 室 新事務所は現事務所の1.5倍の広さがあり、大きい会議室が確保でき、学会が行う大部分の行事がここで開催できます。
5. 郵便・銀行 郵便振替口座 00150-4-83484  
銀行振込（いずれも普通預金口座）  
第一勧業銀行虎ノ門支店 1013945  
三菱銀行虎ノ門公務部 0000608  
名義人 社団法人 情報処理学会

以 上



## 支部だより

### 北陸支部 講演会

日時 平成6年6月24日(金)15:00~16:30  
場所 金沢大学工学部 秀峯会館  
演題 マルチメディアデータベース技術の現状と将来 増永 良文 教授(図書館情報大学)  
参加費 無料(参加資格は問いません)  
問合せ先 〒920 金沢市小立野2-40-20 金沢大学工学部 電気・情報工学科 木村春彦  
Tel.(0762)34-4836 Fax.(0762)34-4870

### 東海支部 シンポジウム「コンピュータが拓く未来の工学」

期日 平成6年7月7日(木)  
会場 名古屋大学シンポジオン(名古屋市千種区不老町)

#### プログラム

10:00~10:10 開会の挨拶  
10:10~11:10 材料科学工学へのコンピュータの応用 堂山昌男(西東京科学大学 教授)  
11:10~12:10 流れのシミュレーションとその可視化 桑原邦郎(宇宙研・計算流体研究所 助教授)  
13:00~14:00 計算機実験としての第一原理分子動力学 寺倉清之(東大物性研・融合研究所 教授)  
14:00~14:30 コーヒーブレイク  
14:30~15:30 画像処理と発想支援 烏脇純一郎(名古屋大学 教授)  
15:30~16:30 自動車に関連した分野におけるCAEの現状並びに課題 高橋理一(豊田中央研究所 取締役)  
16:30~16:40 閉会の挨拶  
16:45~18:45 懇親会

参加費 無料  
問合せ先 名古屋大学工学部 土井正男 Tel.(052)789-3718 または 松本充弘 Tel.(052)789-3600  
主催 情報処理学会東海支部共催, 名古屋大学計算工学研究会主催

### 講習会「KLIC講習会」

期日 平成6年7月25日(月)~26日(火)  
会場 名古屋大学工学部情報工学科 8号館南館3F(名古屋市千種区不老町)

#### プログラム

25日(月) 13:30~17:00 並列論理型言語KL1の考え方と言語仕様の概要  
- KL1の基本的なプログラム技法  
- KLICシステムの利用法(+演習)  
26日(火) 9:00~12:00 -プロセス・ネットワークの組み方(+演習)  
-計算の進行の制御(優先度の使い方)(+演習)  
-総合演習

講師 近山 隆(新世代コンピュータ技術開発機構 研究所)他  
定員 40名(先着順)  
参加資格 情報処理学会東海支部会員に限る。  
参加費 無料

申込および問合せ先 7月1日(金)までに往復ハガキで下記へお申込ください。  
460-01 名古屋市千種区不老町 名古屋大学工学部 渡辺豊英  
Tel.(052)789-4409 Fax.(052)789-3816 e-mail:watanabe@yosida.nuie.nagoya-u.ac.jp  
主催 情報処理学会東海支部, ICOT 共催



## 九州支部 電気関係学会九州支部 第47回連合大会 講演募集

- 期 日 平成 6年 9月23日(金), 24日(土)
- 会 場 九州東海大学工学部 〒862 熊本市渡鹿 9-1-1
- 講 演 者 主催学会会員に限る(当支部所属に限らない)
- 講演内容 最近行った研究計画および工事報告, 現地試験報告, 新製品の紹介など。
- 講演方法 (イ) 1件 10分以内, ただし都合で多少短縮することがある。なお, 講演募集の結果によっては然るべき件数を選択してシンポジウム形式の講演とすることがある。
- (ロ) OHPによる講演を原則とする。スライドの使用は不可。
- 講演申込 (イ) 原稿はかならず当会所定の「原稿用紙」を使用すること。
- 方 法 (ロ) 「原稿用紙」は申し出により交付。「原稿用紙」等: 1部 100円
- (ハ) 郵送の場合は, 1部 250円, 2部以上のときは1部増すごとに 150円増の郵便切手を送付のこと。
- (ニ) 締切日: 7月29日(金) 午後 5時。「原稿」「講演申込書」は締切日まで必着のこと。
- 講演申込費 講演 1件につき3,000円(講演者には論文集を1部大会当日受付にて贈呈する。別刷りの申込には応じない)
- 申 込 先 〒812 福岡市東区箱崎 6-10-1 九州大学工学部 電気工学科教室内 電気関係学会九州支部連合会
- Tel. (092)641-1101(ext. 5300) Fax. (092)631-2790
- 振替口座番号 新様式 01780-2-33001 旧様式 福岡-8-33001 加入者名 電気関係学会九州支部連合会
- 主 催 電気関係学会九州支部連合会
- (電気学会・電子情報通信学会・テレビジョン学会・照明学会・情報処理学会 各九州支部)

~~~~~

本会協賛等の行事案内*

<国内会議>

平成 6年度第Ⅲ期教育講座 (LSI・CAD コース)

平成 6年9月13, 20, 27, 10月4, 11, 18, 25, 11月 1日

神奈川科学技術アカデミー

平成 6年度第Ⅲ期教育講座 (知的財産を生かすマネジメントコース)

平成 6年 9月21, 28, 10月 5, 12, 19, 26, 11月 2, 9日

神奈川科学技術アカデミー

第206 回講習会「製造業におけるインライン計測と検査の自動化」

平成 6年 7月27日(水)～28日(木)

大阪・建設交流館

第14回医療情報学連合大会

平成 6年11月21日(月)～23日(水)

神戸国際会議場

言語データ共有計画シンポジウム

平成 6年 6月30日(木)

東京・学士会館

講習会「ファジィ制御ハードウェア」

平成 6年 8月 8日(月)

東京・工学院大学

第4回設計工学・システム部門講演会

平成 6年7月6日(水)～7日(木)

東京都立科学技術大学

<国際会議>

SYNAPSE'94 - 次世代情報処理技術国際シンポジウム

1994年7月18日(月)～19日(火)

大阪・千里ライフサイエンスセンター

FUZZ - IEEE/IFES'95

1995年3月20日(月)～24日(金)

横浜

* 詳細は本号会議案内欄参照

教官募集



○東京都立航空工業高等専門学校

募集人員 講師1名
所 属 電子工学科（主として自動制御，電気機器関係を担当）
専門分野 自動制御系
応募資格 博士号取得者かそれに準ずる着任時30歳前後の方
着任時期 平成7年4月1日
提出書類 履歴書，研究業績リスト，主要論文別刷，研究・実務歴および今後の研究計画（あわせて1000字程度），
推薦書（なるべく複数）
応募締切 平成6年7月1日
送付先 〒116 東京都荒川区南千住8-52-1
問合せ先 東京都立航空工業高等専門学校
電子工学科主任 勝又輝雄
Tel. (03)3801-0145 Fax. (03)3801-9898

○愛媛大学法文学部経済学科

募集人員 教授1名
担当科目 情報管理論
応募資格 博士号取得者かそれに準ずる着任時50～60歳位の方
着任時期 平成7年4月1日
提出書類 履歴書，研究業績リスト，公刊論文・著書（各3部，コピー可），学位論文（1部，コピー可），健康診断書（国公立病院，保健所，日赤病院発行のもので応募締切日から6カ月以内に診断のもの）
応募締切 平成6年7月11日
送付先 〒790 松山市文京町3
愛媛大学法文学部長「情報管理論教官応募書類」と朱書き書留
問合せ先 経済学科 Tel. (0899)24-7111 (ext. 3109, 3149)

○大阪工業大学経営工学科

募集人員 各専門分野とも助教授または講師1名
専門分野 ①生産システム ②ヒューマンシステム又は経営情報システム ③情報工学又は数理解析
応募資格 博士号取得者で研究業績のある着任時35歳位までの方
着任時期 平成7年4月1日
提出書類 履歴書，研究業績リスト（以上書式あり，ご請求ください），著書・論文別刷（3編以内，コピー可），レポート（1000字程度，テーマは次のいずれかを選択「教育を充実させるため実践してきた具体的事項」「就任後の教育に対する抱負」）
応募締切 平成6年7月15日
送付先 〒535 大阪市旭区大宮5-16-1
大阪工業大学庶務課 Tel. (06)954-4097

○神奈川大学工学部電気工学科

募集人員 助教授または専任講師1名
 担当分野 電子計算機, 情報処理工学関係または通信工学関係
 専門分野 情報・通信
 応募資格 博士号取得者(含, 見込)で研究業績のある着任時35歳前後までの方
 着任時期 平成7年4月1日
 提出書類 履歴書, 研究業績リスト, 主要論文別刷(コピー可, 1部), 提出書類のリストを添付のこと
 応募締切 平成6年7月20日
 送付先 〒221 横浜市神奈川区六角橋3-27-1
 神奈川大学学務課気付 工学部長 桜井邦朋 「電気工学科(情報・通信)教員応募書類」と明記し書留
 問合せ先 電気工学科主任 許 瑞邦
 Tel. (045)481-5661 (ext. 3209) Fax. (045)491-7915

○木更津工業高等専門学校情報工学科

募集人員 教授1名
 担当科目 ソフトウェア工学, 情報数学
 専門分野 情報処理, 計算機工学およびこれらの関連分野
 応募資格 博士号取得者で計算機工学関連の研究・開発に携わったことのある方
 着任時期 平成7年4月1日
 提出書類 履歴書, 研究業績リスト(以上書式あり, ご請求ください), 著書・論文別刷(1部), 推薦書
 応募締切 平成6年7月31日
 送付先 〒292 木更津市清見台2-11-1
 木更津工業高等専門学校長 「情報工学科教官応募書類」と朱書き書留
 問合せ先 庶務課長または人事係長 Tel. (0438)98-5751

○成蹊大学工学部経営工学科

募集人員 年齢, 業績により教授, 助教授, 講師のいずれか
 所属 学科および大学院工学研究科情報処理専攻
 専門分野 情報工学
 応募資格 博士号取得者(含, 見込)で相当程度の研究業績のある方
 着任時期 平成7年4月1日
 提出書類 お問合せください
 応募締切 平成6年8月31日
 問合せ先 〒180 武蔵野市吉祥寺北町3-3-1
 成蹊大学工学部経営工学科主任 渡辺一衛 Tel. (0422)37-3762 Fax. (0422)37-3869
 e-mail:watanabe@suissea.is.seikei.ac.jp
 同大学院工学研究科情報処理専攻主任 飯塚 肇 Tel. (0422)37-3766 Fax. (0422)37-3869
 e-mail:iizuka@is.seikei.ac.jp

○電気通信大学総合情報処理センター

募集人員 助教授または講師1名
 専門分野 情報科学, 情報工学(計算機システムの運用・管理ならびに研究開発, 情報処理教育に関する研究と計画立案)
 応募資格 博士号取得者で30歳代の方
 着任時期 平成6年10月1日以降できるだけ早い時期
 提出書類 履歴書, 研究業績リスト, 応募にあたっての抱負(1000字程度), 論文・資料別刷(別刷等各1部), 推薦書
 応募締切 平成6年8月31日
 送付先 〒182 調布市調布ヶ丘1-5-1
 電気通信大学庶務課人事係 Tel. (0424)83-2161
 問合せ先 総合情報処理センター長 熊本芳朗 Fax. (0424)84-1598

○関西学院大学理学部物理学科

募集人員 教授、助教または講師1名
 専門分野 情報数理
 応募資格 博士号取得者(含、見込)で基礎的な数学の講義も可能な40歳位までの方
 着任時期 平成7年4月1日
 提出書類 履歴書、研究業績リスト、主要論文別刷(5編以内)、今までの研究概要(1000字程度)及び今後の研究・教育に対する抱負(2000字程度)、推薦書または本人に関する所見を求め得る方の氏名・連絡先
 応募締切 平成6年8月31日
 送付先 〒662 西宮市上ヶ原1-1-155
 関西学院大学理学部長 小西 岳「数学教員応募書類在中」と朱書き書留
 問合せ先 物理学科 小川枝郎 Tel.(0798)53-6111(ext.5260) Fax.(0798)51-0914

○広島大学総合情報処理センター

募集人員 助手2名
 専門分野 データベースおよび数値計算とそれに関連する分野(主として計算機システムの管理、運営および研究開発)
 応募資格 修士課程修了以上か、それに準ずる着任時30歳未満の方
 着任時期 平成6年11月1日以降のできるだけ早い時期
 提出書類 履歴書、研究業績リスト、応募にあたっての抱負(1000字程度)、論文・資料(3編以内、別刷等各1部)、本人に関する所見を求め得る方の氏名・連絡先(2名)
 応募締切 平成6年9月1日
 送付先 〒724 東広島市鏡山1-4-2
 問合せ先 広島大学総合情報処理センター長 今村 詮 Tel.(0824)24-6253

○郵政省通信総合研究所

募集人員 2名
 研究分野 情報処理分野(知的通信、音声・画像認識等)
 応募資格 博士号取得者で35歳未満の方(外国人可)
 着任時期 平成7年4月1日
 提出書類 履歴書、論文リスト、研究経歴書
 応募締切 平成6年9月3日
 送付先 〒184 小金井市貫井北町4-2-1 郵政省通信総合研究所企画部企画課長
 問合せ先 浜 Fax.(0423)27-7458 e-mail.hama@crl.go.jp

○岐阜大学工学部電子情報工学科

募集人員 教授1名、助教2名
 所属 情報コース「情報基礎」・「応用情報」講座
 専門分野 情報工学・情報科学分野
 例えば、計算機ネットワークシステム、並列処理システム、人工知能・知識工学、自然言語システム、画像システム、音声システム、生体情報システム(含、ニューロコンピュータ)、医療情報工学、バーチャルリアリティ、CAD/CAM、ロボット、曖昧システム(含、ファジィ・コンピュータ)、情報数理、データ解析、知的CAI、情報機器(含、VLSI)、などのいずれかに関する基礎、あるいは応用分野
 応募資格 博士号取得者で大学院博士後期課程の指導ができる45歳以上(教授の場合)の方
 着任時期 平成7年4月1日までのできるだけ早い時期
 提出書類 履歴書、研究業績リスト、主要論文別刷、健康診断書、本人に関する所見を求め得る方の氏名・連絡先(2名)
 応募締切 平成6年9月30日(適任者が得られ次第選考を開始する場合があります)
 送付先 〒501-11 岐阜市柳戸1-1
 問合せ先 岐阜大学工学部電子情報工学科情報コース主任 神保雅一「情報コース教員応募書類在中」と朱書き書留
 Tel.(0582)30-1111(ext.4553,4552) e-mail:jimbo@info.gifu-u.ac.jp

 雑 報



第10回電気通信普及財団賞の「テレコムシステム技術賞」「同、学生賞」論文募集

情報通信の基礎理論または情報通信システムの研究、開発、応用に関するもの。詳細は下記へお問合せください。

対象論文 学会誌、国際会議、研究会に採録ないし発表が決定したもの、または著書。
 長 彰 テレコムシステム技術賞：入賞 5論文以内、1論文につき賞金50万円。
 同上、 学生賞：入賞10論文以内、1論文につき賞金20万円（最優秀論文には賞金50万円）。

募集締切 1994年 9月30日

問合せ先 〒105 東京都港区西新橋1-6-11 西新橋光和ビル (財)電気通信普及財団 Tel.(03)3470-7518

第8回「日本IBM科学賞」候補者募集

対象概要 物理・化学・コンピュータサイエンス・エレクトロニクスの分野で研究活動を行っている国内の大学あるいは公的研究機関に所属する45歳以下(8月15日現在)の基礎研究者(国籍は問わない)

金 等 賞状と副賞のメダルおよび賞金 300万円、6名(6件)

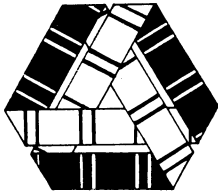
推薦方法 所定の推薦書による

推薦締切 1994年 8月15日(月)

問合せ先 〒106 東京都港区六本木 3-2-12 日本IBM科学賞事務局 社会貢献 HQD-D17
 Tel.(03)3586-1111 (ext.4381) 根本

IPSU KAIKOKU

会議案内



各会議末のコードは、整理番号です(*:本年既掲載分, ** : 昨年既掲載分)。会議の詳細を知りたい方は、学会事務局へ切手90円を同封のうえ、請求ください。
(国内連絡先が記載されている場合は除く)

1. 開催日 2. 会場 3. 問合せ先 4. その他

国際会議

IFAC 95 - Symposium on Modelling and Control of National and Regional Economies (020)

1. July 2-5, 1995
2. Queensland Australia
3. Convention Manager PO Box E181, Queen Victoria Terrace ACT 2600, Australia
Tel. +61 6 270 6562 Fax. +61 6 273 2918
4. Submission of Extended Abstract: September 15, 1994

超並列アーキテクチャ、アルゴリズムおよびネットワークに関する国際シンポジウム (021)

1. 平成 6年12月14日~16日
2. 石川ハイテク交流センター
3. 北陸先端科学技術大学院大学情報科学研究科 堀口 進
Tel. (0761)51-1265 Fax. (0761)51-1135
e-mail: hori@jaist.ac.jp

AUTOFACT '94 Conf. (022)

1. November 13-17, 1994
2. Detroit, Michigan, USA
3. Kristy Harrington
SME Market Planning and Communications
Phone: 313/271-1500, ext. 433, Fax. 313/271-2861

SYNAPSE '94-次世代情報処理技術国際シンポジウム (023)

1. 1994年7月18日(月)~19日(火)
2. 千里ライフサイエンスセンター (大阪府豊中市)
3. (財)千里国際情報事業財団
Tel. (06)873-2008 Fax. (06)873-2009
4. 参加料金: 会員25,000円, 大学関係10,000円, 一般30,000円
学生5,000円

FUZZ - IEEE/IFES '95 (024)

1. 1995年3月20日(月)~24日(金)
2. 横浜

3. 技術研究組合国際フェジィ工学研究所
Tel. (045)212-8268 Fax. (045)212-8255
4. 論文提出締切: 平成6年8月31日

17th IFIP TC7 Conf.on Modelling and Optimization (025)

1. July 10-14, 1995
2. Prague, Czech Republic(Palace of Culture)
3. 17th IFIP TC7Conf. Dr. J. Dolezal, Institute of Information Theory and Automation
Academy of Sciences of the Czech Republic
P. O. Box 18, Pod vodarenskou vezi 4
CZ-18208 Prague, Czech Republic
e-mail: ifip@utia.cas.cz. Fax. 42 2 6641-4903
4. Deadline of extended abstracts submission: October 15, 1994

4th Int'l Conf.on Artificial Neural Networks (026)

1. June 26-28, 1995
2. Churchill College Cambridge, UK
3. ANN95 Secretariat IEE Conf. Services, Savoy Place
London WC2R 0BL, UK
Fax. +44(0)71 497 3633, e-mail: conference@iee.org.uk
4. Deadline of receipt of extended abstract: November 30, 1994

国内会議

「Dr.R.W.G.Hunt 来日記念シンポジウム」

1. 平成 6年 7月25日(月)
2. 富士写真フイルム(株) 東京本社 (港区西麻布)
3. 共催: 日本写真学会
問合せ先: 東芝ライテック(株) 研究所 一條 隆
Tel. (0468)62-2073 Fax. (0468)61-2427
4. 参加費: 会員 2,000円, 非会員 4,000円, 学生 1,000円

Computer Graphics Osaka '94

1. 1994年 6月22日(水)~24日(金)
2. マイドームおおさか(大阪市中央区本町橋) 他
3. (社)日本能率協会関西地域本部内 Computer Graphics Osaka '94 事務局 Tel. (06)261-7151 Fax. (06)261-5852

平成6年度第Ⅲ期教育講座(LSI・CAD コース)

1. 平成 6年 9月13, 20, 27, 10月4, 11, 18, 25, 11月 1日
2. (財)神奈川科学技術アカデミー (川崎市高津区坂戸)
3. (財)神奈川科学技術アカデミー
Tel. (044)819-2033 Fax. (044)819-2026
4. 申込締切: 平成6年9月2日(金)

平成6年度第Ⅲ期教育講座

(知的財産を生かすマネジメントコース)

1. 平成 6年 9月21, 28, 10月5, 12, 19, 26, 11月2, 9日
2. (財)神奈川科学技術アカデミー (川崎市高津区坂戸)
3. (財)神奈川科学技術アカデミー
Tel. (044)819-2033 Fax. (044)819-2026
4. 申込締切: 平成6年9月2日(金)

第206回講習会「製造業におけるインライン計測と検査の自動化」

1. 平成 6年 7月27日(水)～28日(木)
2. 建設交流館(大阪市西区立売堀)
3. (社)日本機械学会関西支部 Tel. (06)443-2104
4. 聴講申込締切: 1994年 7月25日(月)

Tel. (07437)2-5240 Fax. (07437)2-5249
e-mail:matsu@is.aist-nara.ac.jp

4. 参加費: 4,000円

講習会「ファジィ制御ハードウェア」

1. 平成 6年 8月 8日(月)
2. 工学院大学(東京都新宿区西新宿)
3. 日本ファジィ学会事務局
Tel. (045)212-8253 Fax. (045)212-8256
4. 参加費: 会員18,000円, 非会員28,000円, 学生会員 5,000円
学生一般 8,000円

第14回医療情報学連合大会

1. 1994年11月21日(月)～23日(水)
2. 神戸国際会議場(神戸市中央区島中町)
3. 大阪大学医学部附属病院医療情報部内
第14回医療情報学連合大会組織委員会事務局
Tel. (06)879-5900 Fax. (06)879-5903

第4回設計工学・システム部門講演会

1. 平成6年7月6日(水)～7日(木)
2. 東京都立科学技術大学(日野市旭ヶ丘)
3. 日本機械学会 設計工学・システム部門
Tel. (03)3379-6781 Fax. (03)3379-0934
4. 参加登録費: 会員 5,000円, 学生 2,000円, 会員外 8,000円

「言語データ共有計画」シンポジウム

1. 平成 6年 6月30日(木)
2. 学士会館(東京都千代田区神田錦町)
3. 奈良先端科学技術大学院大学 松本 裕治

情報処理学会の郵便振替口座番号変更のお知らせ

郵便局の新処理システムへの移行にともない、平成6年5月より、当学会の郵便振替口座番号が次のとおり変更になりましたのでお知らせいたします。

なお、旧口座番号は平成7年12月末まで使用することができますので、お手持ちの振替用紙はそのまま使用してください。

旧口座番号 東京5-83484

新口座番号 00150-4-83484

有料会告について

本会の共催行事および協賛・講演記事の次第書（論文募集，参加案内等）の会告欄掲載については，下記により有料にて取り扱いますのでお知らせします。なお，会議案内欄への掲載については従来どおり無料です。

記

1. 掲載条件

件名	内容	掲載単位	掲載料金
行事次第書	国際会議，シンポジウム，講演会，講習会等の論文募集・参加案内に限る。	1ページ または 1/2ページ	(共催) 1ページ 50,000円 1/2ページ 30,000円
			(協賛・後援) 1ページ 100,000円 1/2ページ 60,000円
教官募集	学校またはその付属機関，公益法人，官公庁およびその研究機関等の教職員・研究員募集に限る。	1/5ページ	1件あたり 20,000円

2. 申込方法

B5判任意の用紙で，件名，申込者氏名，勤務先，職名，住所，電話番号および請求書宛先等を記載し，掲載希望原稿を添えて下記の申込先へお申込みください。

3. 原稿の書き方

行事次第書：原則としてB5判カメラレディとします。B5判以外の原稿は縮小または拡大となりますのでご注意ください。なお，原稿作成にあたり様式（字の大きさ，ゴシック等）については，本会会告記載内容をご参照願います。

教職員募集：求人側の必要事項を明記してください。

なお，記事内容については本会は責任を負いません。

4. 申込期限

毎月15日を締切日とし翌月号（15日発行）に掲載します。

5. 掲載料金

掲載号発行後に料金を請求いたしますので，その翌月月末までにお支払いください。

6. 掲載申込先

〒160 東京都新宿区西新宿1-24-1 エステック情報ビル27階
 (社) 情報処理学会 有料会告係
 Tel. (03)5322-3535 Fax. (03)5322-3534

情報処理学会機関誌原稿執筆案内

*1984年12月改訂
1986年12月改訂
1988年3月改訂
1990年3月改訂
1991年3月改訂
1992年9月改訂
1994年4月改訂

本学会は学会誌「情報処理」、論文誌「情報処理学会論文誌」の2種類の機関誌を発行している。学会誌「情報処理」は新しい技術動向をはじめとする種々の情報を掲載し、会員の知識の向上をはかるものであり、論文誌は会員の研究発表の場である。

本案内は学会機関誌の原稿執筆要領をまとめたものである。執筆上の手引きとして利用していただきたい。

1. 学会誌「情報処理」原稿執筆案内

1.1 学会誌の目的

学会誌「情報処理」は

- 1) 会員の知識の向上に資すること、
 - 2) 本学会の活動を報告し、会員各位の学会活動への参画意識を高めること、
 - 3) 会員の意見発表、討論、情報交換の場を提供すること、
 - 4) 学会の行事、ニュース、各種情報の要約等を提供すること、
- を目的としている。

とくに、(1)の目的のために、次の方針で編集を行う。

- a) 学会誌としてのレベル、および客観性を保ちながら、思い切り読みやすく分かりやすい記述を追求する。
- b) 先進的分野、または特定分野の横断的な解説記事を企画し、対象となる読者層を明らかにして編集を行う。
- c) 会員に興味のある時宜にあったテーマをよりタイムリに掲載する。

1.2 記事種目

学会誌「情報処理」には前項の目的を達成するため、第1表に示す記事種目を設けている。

記事種目には、学会誌編集委員会が依頼する依頼記事と1.2.2項に掲げた投稿記事がある。

1.2.1 依頼記事

- 1) 学会誌編集委員会が依頼原稿の種目ごとに標題などを決定し執筆を依頼する。依頼ページ数はそのとき指定する。
- 2) 執筆構想(目次案)ができた段階で著者と協議することがある。
- 3) 依頼原稿の体裁と書き方は、1.3項を参考とした書き方とする。
- 4) 依頼原稿は学会誌編集委員会で閲読し、著者に照会、修正を依頼する場合がある。

1.2.2 投稿記事

学会誌掲載記事に対する意見、取り上げるべきテーマの提案または学会員に関心があると思われる行事、技術の報告など会員各位の積極的な投稿をお願いする。

- (1) 投稿、提案者は原則として本学会員に限る。
- (2) 投稿、提案の種目(第1表参照)を明記すること。提案の場合は提案の趣旨を書き添えること、執筆候補者を付記してもよい。
- (3) 投稿する原稿の体裁と書き方は、1.3項を参考とした書き方とする。ただし、梗概は不要である。
- (4) 投稿原稿は学会誌編集委員会または文献ニュース小委員会で査読し、著者に照会、修正を依頼する場合がある。
- (5) 投稿、提案内容の採否については学会誌編集委員会または文献ニュース小委員会が判断する。

1.3 原稿の体裁と書き方

印字原稿および手書き原稿は、次の(1)～(8)の順に整える。各番号別に必ず別用紙とすること。((1)～(8)でオリジナル原稿一式とする)。なお、原稿の作成は22字/行にて作成する。

- (1) 標 題:できるだけ簡潔に、かつ内容がよくわかるように決め、日英両文で書く。原稿の種別を標題の左肩に明記すること。
- (2) 著者名・所属:氏名、所属を日英両文で書く。所属は、大学・学部・学科のように3項目で表記する。また、会員・非会員の別、著者連絡先(住所、電話番号)、Fax、e-mail等。複数著者の場合は連絡担当者に*印を付すこと)を用紙の下部に明記すること。
- (3) 本 文:不必要に長い記述を避け、要点を簡潔に伝えるように書くことが望ましい。結果を示す数式には文章による解釈を付記した方が読者には理解しやすい。

以下に注意事項を記す。

- 1) 大見出しは2行どりとする。

2) 数字, ローマ字, ギリシャ文字, 記号などは特に明瞭に記載する. 大文字・小文字, 上つき・下つきの別, × (かける) と X (エックス) の別など.

3) 句読点は“.” および“,” を用い, それぞれ1画(1字分)を用いる.

4) 数式は印刷に便利なよう注意する. 文中に式を挿入する場合には a/b , $\exp(1/r)$ のような記法を用いる.

独立した数式は1行につき2行または3行のスペースをとって書く. 数式も文の一種であるから, 原則として末尾に“,” または“.” を付す. ただし, プログラム言語の形式を利用する場合には, この限りではない.

5) 本文中, または図・表中の変数は斜体で記載する.

6) 印刷すべき本文以外の指定や注意書きなどはすべて朱書する.

7) 脚注は, 該当箇所に<脚注1><脚注2>のようになく>で囲み, 本文の最後にまとめて記述する.

8) 文中の記号で太字を使用の場合は, その記号の下に~を朱書し, イタリック(斜体)使用の場合はその文字の下に朱書で-と指定する.

9) 専門用語については, 簡単な用語説明を添付することが望ましい. また本文中に使用する記号には必ず説明をつける.

10) 用語は原則として「文部省学術用語集」および「情報処理ハンドブック」を参考とする.

(4) 謝辞: 謝辞もできるだけ簡単なものとする. 特定事項についての援助への謝辞は本文中または脚注で記載した方がよい.

(5) 参考文献: 内容に直接関係のある重要な参考文献には必ず言及すること. 以下に選択のためのガイドラインを示す. 1)から順に選択することとし, 必要なものに止めること(特に必要なものを除いて10編程度).

1) 本文を執筆する上で直接に参照および引用した文献

2) 本文内で直接に参照した事項に関する文献

3) 読者が直接的に, あるいは執筆者などを通して間接的に入手できる文献

4) 内容の信頼性を保ち, それがその分野などで公知である文献

5) 読者が本文の内容をより理解するために手助けとなる文献

これら文献に関連のある本文中の箇所には, [1][2]のように[]で参考文献番号を挟み, 末尾にその文献を参照順にまとめて記述する.

また, 参考文献は原則として, 雑誌の場合には, 著者, 標題, 雑誌名, 巻, 号, ページ, 発行年をこの順に記す.

[例]

1) 山田太郎: 偏微分方程式の数値解法, 情報処理, Vol.1, No.1, pp.6-10(1960).

2) Feldman, J. and Gries, D.: Translator Writing System, Comm. ACM, Vol.11, No.2, pp.77-113(1968).

単行本の場合には, 著者, 書名, 総ページ数, (必要ならば) ページ, 発行所, 発行年を, この順に記す.

[例]

3) 大山一夫: 電子計算機, 300 p., 情報出版, 東京(1991).

4) Wilkes, M. V.: Time Sharing Computer Systems, 200p., McDonald, New York (1990).

(6) 付録: 長い数式の誘導の過程や, 実験装置, 計算機についての説明などの詳細が必要な場合, これを本文中に挿入すると論旨が不明瞭になるので, 付録にする方がよい.

(7) 図(モノクロ写真およびカラー写真を含む): 図-1のような通し番号と名称を和文または英文でつける. 刷上り寸法は横幅70 mm または150 mm とし, 高さは最大217 mm とする. 刷上り寸法の2~3倍大にきれいに書き, 文字, 記号などは印刷時に縮小されることを考慮して大きめに書くこと. 図は本学会でトレースする場合があるので, 鉛筆書きでもよいが, トレースしにくい図は避けること.

(8) 表: 表-1のような通し番号と名称を和文または英文でつける. 刷上り寸法は横幅70mm または150mm とし, 高さは最大217mm とする. 刷上り寸法の2~3倍大にきれいに書き, 文字, 記号などは明瞭に記入する.

なお, 図・表の希望位置は印字原稿または原稿用紙上に赤字で指示すること. 紙面の都合上希望どおりにいかない場合もある. また, カラーの写真・図などは経費の関係上同一ページにまとめる.

1. 4 原稿の提出

1. 4. 1 原稿の提出方法

原稿の提出にあたっては次の3方法から選択する.

(1) 3. 5 インチフロッピディスクによる提出

1. 3 項による印字原稿と, そのプレーンテキストが入ったMS-DOSまたはMacintoshで作成されたテキスト形式の3.5 インチフロッピディスクを併せて提出する. その際, 使用したハードウェアをラベルに明記すること(フロッピは希望がない限り返却しない).

ただし, MS-DOSの場合は

1) 文字コードはJISコードまたはシフトJISとする.

2) 3.5 インチフロッピディスクの媒体は, 以下のと

第1表 学会誌別刷価格表(単位:円)

ページ 部数	1~4	5~6	7~8	9~10	11~12	13~14	15~16	17~18	表紙不要 の場合
100	6,000	7,000	8,000	9,000	10,000	11,000	12,000	13,000	-1,100

おりとする。

a) IBM-PC類：2DD (720 KB)あるいは2HD(1.44 MB)のいずれでも可。

b) NEC-PC類：2DD (640 KB)あるいは2HD (1.2 MB)

2) e-mail (インターネット) による提出

1. 3項による印字原稿を提出するとともに、そのプレーンテキストをe-mailにて提出する。e-mailで提出するテキストはJISコードとする。

3) 手書原稿による提出

本学会所定の原稿用紙に記述して提出する。ただし、依頼原稿の場合は本学会事務局に請求し、投稿原稿の場合はこれを購入する。

4. 2 原稿の送付先

原稿用紙の購入先、原稿、提案の送付先、および問合せ先は次のとおりである。

7月15日まで：

〒160 東京都新宿区西新宿 1-24-1

エステック情報ビル27階

(社) 情報処理学会 学会誌編集係

Tel.(03)5322-3535 Fax.(03)5322-3534

7月18日以降：

〒108 東京都港区芝浦3-16-20

芝浦前川ビル 7階

(社) 情報処理学会 学会誌編集係

Tel.(03)5484-3535 Fax.(03)5484-3534

e-mail:editj@ipsj.or.jp

1. 5 その他

(1) コピー：郵送中の紛失事故対策や照会の便宜などのため、原稿のコピーは必ず手元にとっておくこと。

(2) 正誤：著者から正誤の申し出があった場合、正誤表を最近号に掲載する。

(3) 著者紹介：必要な場合には200字程度の著者紹介と写真一葉を依頼する。

(4) 別刷：依頼原稿の著者は原稿校正時に別刷を注文することができる。投稿原稿の著者は掲載時に別刷100部を購入していただく。別刷料金は第1表のとおり。カラー掲載の場合は実費をいただく。

(5) 原稿料：依頼原稿の原稿料は別途定める。

(6) 図・写真などを引用する場合は、その所有者に必ず了解を得た上で、その出典を明記すること。

第2表 学会誌「情報処理」の記事項目

<記事掲載順による>

記事種目	内 容	依頼 記事	投稿 記事	刷上 標準 頁	総字数 *
(1) 巻頭言	本学会の会長や理事などの抱負、所感	○		1	1,936
(2) 特別論説 「情報処理最前線」	学会、産業界における最近のホットな話題をやさしく解説したもの	○		6	11,616
(3) 解説	新しい技術の動向などについて一般の会員を対象として平易に解説したもの	○	6		11,616
(4) 展望	新しい理論、技術などの展望を比較的専門の立場から論説したもの	○		6	11,616
(5) 講座	定説となっている基礎的な問題について平易に系統的に解説したもの	○	6		11,616
(6) 論説	社会的な視野からみた情報処理に関する論説や主張		○	4	7,744
(7) 寄書	情報処理に関する理論、技術、動向など会員が関心をもつ事項の論説や主張		○	4	7,744
(8) 報告	総合的なプロジェクトや国内外の会議、活動状況の報告	○	○	6	11,616
(9) 講演	本学会が主催した講演の要旨	○		6	11,616
(10) 座談会	学会誌編集委員会が企画した座談会の要約	○		6	11,616
(11) 会員の声	本学会および学会誌に対する会員からの意見		○	0.5	968
(12) 談話室	経験談、提案、批判、誌上討論など		○	2~4	3,872 ~7,744
(13) 研究室紹介	大学、研究所などの研究活動の紹介		○	3	5,808
(14) 書評	文献ニュース小委員会が選定した図書の紹介および批評	○	○	1	1,936
(15) 文献紹介	〃 海外文献の概要紹介	○		1	1,936
(16) ニュース	〃 ニュース	○	○	0.5	968
(17) 図書寄贈一覧		○		0.5	968
(18) 論文誌アブストラクト	論文誌に掲載された論文、ショートノートの和文または英文アブストラクト	○		0.3	581
(19) 情報技術標準化のページ	情報技術に関する国際標準化の進展状況報告	○		1	1,936
(20) 本会記事	理事会、各種委員会の報告など				
(21) 会告	学会からのお知らせ、行事案内、会議案内、教官募集など				

*タイトル、図表などすべてを含めた字数

(タイトル：著者名で374字とする。)

2. 「情報処理学会論文誌」原稿執筆案内

2. 1 論文誌発行の目的

論文誌は会員の研究成果の発表およびこれに関連する討論の場を提供するために刊行される。

2. 2 論文誌の掲載記事

- (1) 論文誌の記事は会員が自発的に執筆し投稿するもので、論文、テクニカルノートおよび誌上討論の3種類がある。

論文

学術、技術上の研究あるいは開発成果の記述であり、新規性、有用性などの点から、会員にとって価値のあるもの。

テクニカルノート

新しい研究開発成果の速報または技術上の新しい提案。

誌上討論

掲載された論文またはテクニカルノートに対する質問および回答。

- (2) 学術雑誌に投稿中または採択された論文と内容が同一の投稿原稿は採録しない。ただし、本論文誌に採択されたテクニカルノートをもとに発展、充実させたものはその限りではない。
- (3) 投稿者は原則として本学会会員に限る。寄稿者が連名の場合は、少なくとも1名は本学会会員でなければならない。
- (4) 掲載記事の内容についての最終責任は著者が負うものとする。

2. 3 投稿手続

- (1) 投稿原稿は日本語あるいは英語で、第1表に示す刷上標準ページ数に収まるように記述することが望ましい。
- (2) 投稿原稿の形式は、「論文投稿形式」に従わなければならない。ただし、誌上討論に関しては形式は自由とする。
- (3) 投稿原稿が所定の体裁に整っておれば、受付日と受付番号を付した原稿受領書を発行する。投稿原稿の問合せなどは、以後、この受付番号で行うものとする。
- (4) 原稿の送付先および問合せ先は下記の学会事務局とする。

7月15日まで：

〒160 東京都新宿区西新宿一丁目24番1号
エステック情報ビル 27階

(社)情報処理学会 論文誌係

Tel.(03)5322-3535 Fax.(03)5322-3534

7月18日以降：

〒108 東京都港区芝浦三丁目16番20号
芝浦前川ビル 7階

(社)情報処理学会 論文誌係

Tel.(03)5484-3535 Fax.(03)5484-3534

2. 4 投稿原稿の取り扱い

- (1) 論文誌への掲載は論文誌編集委員会で決定し、その採否を投稿者に通知する。
- (2) 論文とテクニカルノートは、査読委員による審査過程を経る。論文の場合、著者に照会し回答を求めたうえで、改めて審査を行い採否を決定することがある。
- (3) 採録が決定した論文、テクニカルノートは、委員会翌月の学会誌上にその旨を発表する。また、論文誌に掲載する際には、末尾に、原稿受付日及び採録決定日を付記する。
- (4) 照会は、部分的に論旨が不明な点、あるいは、錯誤と思われる箇所についての問合せを主眼として行う。照会は原則として1回とする。照会への回答は書面で行う。場合によっては質問事項に関連して原稿に手を加えることができる。この場合、変更箇所と変更理由を明示しなければならない。回答期限は3カ月以内で、これを経過した場合は、取り下げたものとみなす。
- (5) 不採録と決定した原稿は、不採録理由を付して著者に返却する。
- (6) 投稿論文およびテクニカルノートは、次の場合に不採録とする。
- (a) 既発表または周知のものから容易に類推される内容である。
 - (b) 内容が不十分で、読者の参考にならないと考えられる。
 - (c) 本質的な誤り、または、客観的に認知できない記述がある。
 - (d) 文章表現や構成において問題があり、軽微の修正で改善の見込みがない。あるいは、内容に比べて著しく冗長である。
 - (e) 本学会と関連性が薄い分野の論文である。
- (7) 著者は投稿原稿を取り下げることができる。この場合、書面で論文誌編集委員会に申し出なければならない

第1表 論文誌の投稿記事種目

種目	内 容	刷上標準 ページ数	和文記事原稿枚数		英文記事 語 数
			ワープロ等	手書き	
(1) 論文	学術、技術上の研究あるいは開発成果の記述であり、新規性、有用性などの点から、会員にとって価値のあるもの。	8	24	48	6,000
(2) テクニカル ノート	新しい研究開発成果の速報または技術上の新しい提案。	2	6	12	1,500
(3) 誌上討論	掲載された論文またはテクニカルノートに対する質問および回答。	1	3	6	750

*原稿枚数、語数はタイトルや図表などすべてを含めた数値
ワープロ等原稿用紙 (24字×26行=624字) 手書き原稿用紙 (24字×13行=312字)
英文記事は刷上1ページあたり約750語

第2表 論文誌別刷価格表 (単位:円)

部数	ページ数	1	2	3	4	5	6	7	8	9
100		11,000	22,000	33,000	44,000	55,000	66,000	86,000	106,000	136,000
200		12,000	23,000	34,000	45,000	56,500	67,500	87,500	107,500	137,500
300		13,000	24,000	35,000	46,000	58,000	69,000	89,500	109,500	139,500
400		14,000	25,000	36,000	47,000	59,500	70,500	91,500	111,500	141,500
500		15,000	26,000	37,000	48,000	61,000	72,000	93,500	113,500	143,500

なお、8ページを越えるときは100部の場合で、1ページにつき30,000円加算する。カラーの場合は1ページ当たり通常の4ページ分と換算する。

ない。

2. 5 掲載決定通知, 別刷等

- (1) 採録原稿の掲載号が決まると、掲載決定通知を投稿者に送付する。
- (2) 誤植防止のために著者に校正刷りを送る。校正の際の原稿及び図面の変更は認めない。
- (3) 著者から正誤の申し出があった場合、正誤表を最近号に掲載する。事情により有料となることがある。
- (4) 掲載された論文、テクニカルノートの著者は、それらの別刷を100部以上買いとらなければならない。価格は第2表による。著者校正の際、同封の別刷申込書に必要な事項を記入の上、校正結果とともに返送しなければならない。

2. 6 論文投稿形式

2. 6. 1 投稿に使用する原稿用紙

- ① 原稿をワープロ等で作成する場合は、A4判またはレターサイズ(8.5"×11")の用紙を使用し、片面打ちとする。字詰は以下にすること。

和文: 24字×26行

英文: ダブルスペースで、1ページあたり約250語。大見出しは2行どりとする。

- ② 和文原稿を手書きする場合は、本会所定の原稿用紙を本会事務局で購入すること。なお、原稿枚数、語数と刷りページ数の関係については第1表を参照のこと。

2. 6. 2 投稿原稿の構成

原稿は、次の①~⑪をこの順に整える。各々別用紙に、必ず用紙を改めて書くこと。(①~⑪でオリジナル原稿一式とする)

- ① 標 題: 和英両文で書く。ただし、英文論文の場合は、和文はなくても良い。原稿の種別を標題の左肩に明記すること。
- ② 著者名・所属: 氏名、所属を和英両文で書く。ただし、英文論文の場合は、和文はなくても良い。共著の場合、著者と所属機関の対応を明示すること。また、会員・非会員の別(会員の場合は会員番号も)、著者連絡先(住所、電話番号(内線)、e-メール等。複数著者の場合は連絡担当者に*印を付すこと)、論文作成手段(ワープロの場合は機種名、パソコンの場合は機種およびソフト名、LaTeX等)を用紙の下部に明記すること。
- ③ 和文アブストラクト: 600字(テクニカルノートは300字)以内。英文論文の場合は不要。

- ④ 英文アブストラクト: 200語(テクニカルノートは100語)以内。

- ⑤ 本 文:

- ⑥ 謝 辞: 必要ならば付けても良いが、できるだけ簡単なものとする。特定事項についての援助への謝辞は本文中または脚注で記載した方がよい。

- ⑦参考文献: 研究内容に関連して文献を引用する場合、関連する本文中の箇所の右肩に参考文献番号を書き、末尾にその文献をまとめて記述する(2.6.4参照)。引用文献は、既に刊行物に掲載されているか、あるいは掲載が確定している文献に限る。

- ⑧付録: 長い数式の誘導の過程や、実験装置などの詳細な説明を本文に挿入すると論旨が不明瞭になる場合、付録を設けてよい。

- ⑨ 図 (2.6.4参照)

- ⑩ 表 (2.6.4参照)

- ⑪キーワード・チェックリスト: 情報処理学会所定のもの(8~9頁をコピーして利用のこと)。

2. 6. 3 投稿原稿の提出形式

原稿を投稿する際は、次の(A)~(C)を必要とする。不足がある場合は受け付けない。

- (A) オリジナル原稿一式 (①~⑪)

- (B) (A)のコピー3部(ただし査読用として、②著者名・所属、⑥謝辞および⑪キーワード・チェックリストを除いたもの)。

- (C) ①標題、②著者名・所属、③和文アブストラクト、④英文アブストラクト、⑥謝辞、⑪キーワード・チェックリストのそれぞれのコピー1部。

2. 6. 4 原稿執筆上の一般的注意事項

- (1) 専門用語については、簡単な用語解説を添付することが望ましい。また本文中に使用する記号には必ず説明をつける。

- (2) 参考文献は原則として、雑誌の場合には、著者、標題、雑誌名、巻、号、ページ、発行年を、単行本の場合には、著者、書名、ページ数、発行所、発行年を、この順にする。次の例を参照にされたい。

4) 山田太郎: 偏微分方程式の数値解法, 情報処理, Vol.1, No.1, pp.6~10 (1960).

5) Feldman, J. and Gries, D.: Translator Writing System, Comm. ACM, Vol.11, No. 2, pp.77-113 (1968).

7) 大山一夫: 電子計算機, p.300, 情報出版, 東京 (1991).

8) Wilkes, M.V. : Time Sharing Computer Systems, p.200, McDonald, New York (1990).

(3) 図(モノクロ写真およびカラー写真を含む)および表には、図1および表1のような通し番号と名称を和文と英文でつける。ただし、英文論文の場合は和文はなくても良い。英文はその図や表の内容が本文を参照しなくても理解できるように配慮する。

図・表は著者の作成したものを、そのまま印刷するので、下記要領により、黒インキでトレースするか、あるいは同等の画質があるものを提出すること。①刷上り寸法の2倍大にきれいに書き、文字、記号などは明瞭に記入する。②図・表を入れる場所は、原稿用紙の欄外に明記すること。③表はできる限り簡潔に作成し、長い表は、途中を省略するか、あるいは、直接製版できる原稿にする。④図・表原本には、裏面に鉛筆で著者名と図番を記入すること。

図・表のでき上り寸法と行数または枚数の換算は次のとおりである。

寸法 (mm)	ワープロ行数 (24字×26行)	手書き原稿相当枚数
A. 50×34	6行	0.5枚
B. 67×50	13行	1枚
C. 100×67	26行	2枚
D. 134×100	39行	3.5枚

(4) 数字、ローマ字、ギリシャ文字、記号などは特に明瞭に記載する。大文字・小文字、上つき、下つきの別、×(かける)とX(エックス)の別など。

(5) 句読点は“.”および“,”を用い、それぞれ1画(1字分)を用いる。

(6) 数式は印刷に便利なよう注意する。文中に式を挿入する場合には a/b 、 $\exp(t/r)$ のような記法を用いる。独立した数式は1行につき原稿用紙の2行または3行のスペースを取って書く。数式も文の一種であるから、原則として末尾に“,”または“.”を付す。ただし、プログラム言語の形式を利用する場合には、この限りではない。

(7) 印刷すべき本文以外の指定や注意書きなどはすべて朱書する。

(8) 原稿中にあとから文章、文字などを挿入する時は、挿入する文章や文字を欄外に明瞭にし、かつ挿入する箇所を、∨または∧(朱書)で示す。

(9) 脚注は、☆、☆☆、☆☆☆などの記号で示し、本文中そのすぐ下に横線ではさんで記入し、脚注と朱書する。

(10) 文中の記号で太字を使用の場合は、その記号の下に~を朱書し、イタリック体(斜体)使用の場合はその文字の下に朱書で~と指定する。

3. 機関誌に掲載された論文等の著作権

3.1 著作権の帰属

(1) 機関誌に掲載された論文等(以下論文等という)の著作権は原則として本学会に帰属する。

(2) 特別な事情により前項の原則が適用できない場合は著者と本学会との間で協議のうえ措置する。なお特別な事情としては次のような例を想定する。

・依頼論文等であって、その内容が著者個人でなく著者の所属する法人等に係るもので、著作権の本学会への移転帰属に關し当該法人等の了解が得られない場合。

・特別講演記事などで著者の了解が得られない場合。

3.2 著作権の本学会への移転帰属による運用効果および運用上の措置等

(1) 論文等の著作権は本学会に帰属するが、著作人格権は著者に帰属する。ただし、著者が著者自身の論文等を複製・翻訳等の形で利用することに対し、本学会はこれに異議申立て、もしくは妨げることをしない。この場合著者は本学会に申し出を行い、また利用された複製物あるいは著作物中に出典を明記すること。

(2) 本学会は論文等の複製を行うことができる。ただしこの場合関係する著者にその旨了解を得る。

(3) 第三者から論文等の複製あるいは翻訳等の許諾要請があった場合、本学会理事会において審議し、適当と認めたものについて要望に応ずることができる。ただしこの場合関係する著者にその旨了解を得る。

(4) 前項の措置によって、第三者から本学会に対価の支払があった場合には関係する著者に報告のうえ、本学会会計に繰り入れ学会活動に有効に活用する。

3.3 著作権侵害等に関する注意事項

(1) 執筆に当たっては他人の著作権の侵害、名誉毀損、その他の問題を生じないように十分に配慮すること。

(2) 著者は公表された著作物を引用することができる。引用した場合はその出典を明示すること。

(3) 万一、執筆案内が第三者の著作権を侵害するなどの指摘がなされ、第三者に損害を与えた場合著者がその責を負う。

Information for Authors Who Submit Papers to "Transactions"

The goal of the monthly "Transactions of Information Processing Society of Japan" is to publish a wide range of scientific and technical papers, not available elsewhere, that deal with all aspects of information processing, computer and information science/engineering and related areas. Only papers not published previously will be accepted.

"Transactions" provides three kinds of material: full papers, technical notes, and letters to the editor. Papers should describe original research/development, theoretical or practical. Technical notes may be short papers which contain descriptions of ongoing research/development to be published later, or new technical proposals. Letters to the editor are for brief questions and answers on published papers or technical notes.

Submission of Manuscripts:

Submit four copies of your manuscript, each complete with illustrations and an abstract. Full papers should not exceed eight printed pages, or about 6000 words. Technical notes should not exceed two printed pages, or about 1500 words. Letters to the editor should not exceed 750 words.

Address manuscripts to:

Editor of "Transactions"

Information Processing Society of Japan

(until mid-July 1994)

STEC Joho Bldg. 27F

1-24-1, Nishi-Shinjuku, Shinjuku-ku

Tokyo 160, Japan

(after mid-July 1994)

Shibaura Maekawa Bldg. 7F

3-16-20, Shibaura, Minato-ku

Tokyo 108, Japan

Your paper should be accompanied by:

1. Illustrations, preferably originals; otherwise, use clear, good quality copies, and be prepared to send originals upon acceptance of your paper.

2. A technical biography of 150 words or less and a photograph of each author; otherwise be prepared to send these upon acceptance of your paper. For biography style, see the latest issue of "Transactions."

3. The questionnaire included with this document (or a copy), filled out as completely as possible. The questionnaire is used to help select appropriate referees.

4. A separate, signed letter giving the address(es) of author(s) and indicating to whom correspondence and galley proofs are to be sent.

Manuscript Style:

Type using double spacing on one side of 21 × 30 cm (A4) or 8.5 × 11 in sheets. Typical style would be about 250 words a page. Give the title of the paper and the name(s) and affiliation(s) of author(s) on a separate sheet. In co-authored papers, be sure to clearly indicate the correspondence of authors' names and affiliations.

Provide an informative abstract of 200 words or less (100 words or less for technical notes) at the head of the manuscript.

Place references in a separate section at the end of the paper, numbered serially and referred to within the paper by their numbers in square brackets. References must be complete and follow the style in these examples:

(1) Yamada, T., Realization of a Processor with Virtual Tapes, Trans. IPS Japan 1, (January 1971), 1-8.

(2) Randell, B., ed., The Origins of Digital Computers, 2nd ed., Springer-Verlag, Berlin, 1975.

(3) Wang, W. I. and Mendez, E., Computers as Personalities, Appl. Phys. Lett. 58 (June 1991), 826-829.

Clearly indicate in the right margin of the manuscript where to insert illustrations and tables.

Illustrations and Tables:

Illustrations should be sharp, noise-free, and of good contrast.

Drawings should be in India ink on drafting cloth, paper, or board.

Use 21 × 30 cm (A4) sheets, if possible; otherwise, use 8.5 × 11 in sheets.

Graphs should show only coordinate axes or, at the most, major grid lines.

Lettering should be large enough to be legible after reduction of up to 25%.

Photographs should be glossy prints, of good contrast and gradation and reasonable size.

Number and caption each original, including the author's name in soft pencil on the back.

Referee process:

Each submitted paper is subjected to a referee process. The final decision on publication rests with the Editor, and is based on referees' comments. The author(s) is completely responsible for the accuracy of the contents of the paper, however.

Notes:

The manuscripts will not be returned.

The copyright for all published papers belongs to the Information Processing Society of Japan.

The author or author's institute is required to purchase a minimum of 100 reprints. Prices are as follows:

	(unit: ¥1,000)								
Page Copies	1	2	3	4	5	6	7	8	9
100	11	22	33	44	55	66	86	106	136
200	12	23	34	45	56.5	67.5	87.5	107.5	137.5
300	13	24	35	46	58	69	89.5	109.5	139.5
400	14	25	36	47	59.5	70.5	91.5	111.5	141.5
500	15	26	37	48	61	72	93.5	113.5	143.5

キーワード(和文論文誌投稿用)

〔寄稿者用〕

(I) あなたが寄稿する原稿の内容に最も関係の深い項目(1つ)に◎印, 関係する項目(複数個も可)に○印を付けてください.

大項目	中項目	小項目 ()内は該当項目のないときに分野名を記入
00 情報科学一般	一般 社会 教育	哲学,歴史,伝記() 規格,標準化,知的所有権,社会問題() 情報科学・工学の教育,カリキュラム,コンピュータリテラシ,C A I,教育工学 ()
01 基礎理論及び 基礎技術	情報数学及び 情報理論 非線形力学 アルゴリズム理論 オペレーションズ リサーチ 確率・統計 数値計算 数値シミュレ ーション 高性能計算	形式理論,オートマトン理論,言語理論,計算可能性の理論,計算の複雑さ,グラフ 理論,組合せ理論,符号理論() カオス,フラクタル() 離散アルゴリズム,データ構造,並列アルゴリズム,分散アルゴリズム,確率アルゴ リズム,近似アルゴリズム,計算幾何学,計算代数学,計算的学習理論,数式処理 () 線形・非線形計画法,動的計画法,整数計画法,ゲーム理論,待ち行列理論,ベトリネ ット() 推定・検定,確率モデル,統計・確率計算,多変量解析,時系列解析() 誤差解析,関数近似,補間,線形方程式,非線形方程式,固有値問題,数値微分,数値積 分,常微分方程式,偏微分方程式,積分方程式,極値問題,特殊関数,乱数 () 有限要素法,差分法,境界要素法,モンテカルロ法,粒子シミュレーション,可視化 () 並列化,ベクトル化,性能評価()
02 人工知能及び 認知科学	知識処理 人工知能システム 自然言語処理 パターン認識 生体情報処理 感性情報処理	探索,定理自動証明,推論方式,知識表現,知識獲得,知識ベース,非単調論理,ファジ ィ推論,不確実性処理,学習,理解・識別論() エキスパートシステム,エキスパートシステム作成支援ツール,ゲームプログラ ム,知能ロボット() 機械翻訳,形態素解析,構文解析,意味解析,文生成,談話理解,文法,辞書 () 音声認識,話者識別,画像理解,物体認識,文字認識,リモートセンシング,図面認識 () 視覚,聴覚,神経モデル,サイバネティクス,ニューラルネットワーク,自己組織化, 遺伝的アルゴリズム,人工生命() 心理モデル,行動モデル,感情モデル()
03 データ処理	音声処理 画像・図形処理 テキスト処理 マルチメディア処理	音声分析,音声合成() 画質改善,帯域圧縮,符号化,曲面合成,トモグラフィ,3次元処理,グラフィックス, アニメーション() ワードプロセッシング,日本語入出力,文書処理,卓上出版,フォントデザイン,パタ ン照合アルゴリズム() ()
04 ソフトウェア	基礎理論 プログラム言語及 び仕様記述言語 言語処理系 ツール ウィンドウシステム オペレーティング システム データベース・ 情報検索 プログラミング技術 ヒューマンインタ フェース	プログラム理論,オペレーティングシステム理論,データベース理論,形式的意味 論,算法論理,検証理論,カテゴリ理論,属性文法,計算パラダイム,プログラム合 成・変換() 手続き型言語,論理型言語,関数型言語,オブジェクト指向言語,並列処理言語,シス テム記述言語,数式処理言語,シミュレーション言語,仕様記述言語 () 構文解析,コード生成,最適化,コンパイラ,インタプリタ,並列化コンパイラ () エディタ,デバッガ,ベリファイヤ,コンパイラジェネレータ,並列化支援ツール () () 記憶管理,入出力管理,障害管理,通信管理,ファイル管理,ジョブ・タスク管理,自 動運転管理,並列分散処理,例外処理,性能評価() データモデル,データ言語,データベース設計,質問処理,トランザクション処理,一 貫性制約,ファイル構成,検索方式,分散データベース,マルチメディアデータベ ース,演繹データベース,オブジェクト指向データベース() データ構造,ガーベッジコレクション,ハッシング,ソーティング,サーチング,ベク トル化,並列化() ()

大項目	中項目	小項目 ()内は該当項目のないときに分野名を記入
05 ソフトウェア工学	開発技術 テスト・保守・管理 ソフトウェアプロセス 開発環境 ヒューマンファクタ ソフトウェア品質	設計理論,要求分析法,仕様記述法,プログラミング方法論,プロトタイピング,部品化・再利用技術,ドメイン分析・モデリング,プログラム自動構成,仕様検証 () プログラムのテスト・デバッグ,プログラム検証,性能評価,プログラム解析,保守運用管理,メトリクス () プロセスモデル,プロセスプログラミング,工程管理 () 構成理論,分散開発環境,文書化支援,リポジトリ又はSEDB () マン・マシンインタフェース,要員教育,プロジェクト管理,プログラミング行動 () 品質保証,品質管理,品質メトリクス,信頼性予測 ()
06 ハードウェア	基礎理論 論理回路 デバイス アーキテクチャ 周辺・端末 設計技術及び設計自動化 開発環境 テスト・検証	組合せ回路理論,順序回路理論,論理設計理論,レイアウトアルゴリズム,ハードウェアアルゴリズム () 記憶回路,演算回路,制御回路,誤り検出・訂正回路,テスト容易化回路 () 論理デバイス,記憶デバイス,入出力デバイス,ASIC,PLD () 汎用計算機,専用計算機,高級言語マシン,スーパーコンピュータ,ワークステーション,マイクロプロセッサ,非ノイマンアーキテクチャ,並列アーキテクチャ,相互結合同,フォールトトレランス,リアルタイムシステム,DSP,ニューロコンピュータ,光コンピュータ () 外部記憶,ディスプレイ装置,ハードコピー装置,文字読取装置,画像入出力装置,音声入出力装置 () 方式設計,機能設計,論理設計,レイアウト設計,テスト生成,設計記述言語,論理合成 () 統合化ツール,設計環境,設計データベース () LSIテスト,ハードウェア設計検証,性能評価 ()
07 ネットワーク	通信技術 ネットワーク管理 コンピュータネットワーク	データ交換方式,通信方式,画像通信,トラヒック理論,ネットワークアーキテクチャ,プロトコル,プロトコル検証 () 名前管理,経路管理,障害管理 () WAN,LAN,電子会議,電子掲示板,電子メール,分散処理 ()
08 システム	対話型システム グループウェア オンラインシステム 制御システム システム評価	構成理論,方法論,CAE,CAD,CAM,CIM,CAI,管制システム,訓練システム,意志決定システム,オフィスシステム () 協調基礎,グループワーク応用,グループワークインフラストラクチャ,分散オフィス,マルチユーザインタフェース,事例研究 () 予約システム,バンキングシステム () プロセス制御,数値制御,通信制御,産業用ロボット,FA () 評価技法,評価指標,評価モデル ()
09 信頼性と安全性	信頼性 機密保護	信頼性理論,保全性理論,信頼性評価,故障解析 () 暗号理論,認証,鍵管理,鍵配送,セキュリティ ()
10 応用	企業等への応用 工学等への応用 芸術等への応用 その他への応用	オフィス,行政,経営,金融,情報サービス,生産管理,計算機センタ運営,教育 () 航空・宇宙,機械,土木,建築,都市,電気・電子,計測,生物,物理,化学,原子力,輸送・交通,医学・歯学 () 音楽,絵画,商業デザイン () 自然科学,社会科学,人文科学,障害者補助 ()
1	その他 ()	()

II) キーワード表にとらわれず、寄稿内容を表わすキーワードを書いてください。

- (1) (2) (3)
(4) (5)

1988年7月改訂
1994年3月改訂

情報処理学会 原稿チェックリスト (太枠内著者記入)

受付番号		希望掲載欄		査読者			
和文 標題				原稿	枚		
英文 標題				図	枚		
				表	枚		
				アブストラクト	枚		
項目	検 討 内 容 (適当であると認められれば○印, そうでないとき×印, 投稿は著者の欄に自分の判定結果を記入すること)			著者	査読結果		
					第1回 第2回 第3回		
標題 抄録 等	掲載欄は著者の指定通りでよいか						
	第3者(著者以外の人)が目を通しているか				(事務局)		
	和文標題は内容を適切に表しているか						
	英文標題はないようを適切に表現し, 英語としても適切か						
	アブストラクトは主旨を適切に表現し, 英文も適切か						
本文	在来研究との関連, 研究の動機, ねらい等が明確に説明されているか						
	既発表の論文等との間に重複はないか						
	章, 節のたて方, 全体の構成等は適切か						
	説明に冗長な点, 逆に簡単すぎる点はないか						
	説明に飛躍した点はないか 假定等の説明は十分か						
	記号・略号等は周知のものか用語は適切か						
	図・表の説明は適当か(本文中および各図のキャプション)						
	科学技術論文として不適当な表現や, 判りにくい表現はないか						
	結論が明確に記されており, 範囲, 限界, 問題点などの指摘が適切で, 内容にそったものであるか						
図表	図表自体は十分に明解であるか, 誤りはないか						
	十分に鮮明か				(事務局)		
	大きさ, 縮尺の指定は適切か				(事務局)		
文献	適切な文献が引用されており, その数も適切か						
総合 評価	創意の程度(最高を5とした5段階評価)						
	資料価値, 読者にとって有益な情報の量(最高を5とした5段階評価)						
	興味を持つ読者の多少(非常に多い場合5, ほとんどないとき1)						
	原稿の取り扱い(このまま掲載=3 照会后判定=2 不採録=1)						
査読 歴	回数	第1回		第2回		第3回	
	依頼	年月日	原稿 枚	年月日	原稿 枚	年月日	原稿 枚
	期日	年月日	図 枚	年月日	図 枚	年月日	図 枚
	返着	年月日	表 枚	年月日	表 枚	年月日	表 枚
連絡 事項	第1回		第2回		第3回		

Questionnaire

The author is requested to mark:

(1) In Table 1, those keywords that best characterize the field to which the paper belongs. Mark a double circle on keywords that best describe the contents of your paper, and mark a single circle on keywords that relate to the contents of your paper. Also mark a triangle on keywords that you think may be related to the contents of your paper. Please use the parenthesized blanks to fill in new keywords if it is difficult to make a reasonable choice from the table.

(2) In Table 2, those items that best characterize the methods used in showing the validity of result of the paper. Use as many single circles.

Table 1: KEYWORDS

Category	Subcategory	Items (Enter keywords in () when necessary.)
00 Information Science in General	General	Philosophy, History, Biography, ()
	Society Education	Standards, Standardization, Intellectual properties, Social problems, () Information science/engineering education, Curriculum, Computer literacy, CAI, Educational engineering, ()
01 Fundamental Theory and Technology	Information Mathematics and Information Theory	Formal logic, Automata, Language theory, Theory of computation, Complexity theory, Graph theory, Combinatorics, Coding theory, ()
	Nonlinear Mechanics	Chaos, Fractals, ()
	Algorithm Theory	Discrete algorithm, Data structure, Parallel algorithm, Distributed algorithm, Probabilistic algorithm, Approximation algorithm, Computational geometric, Computational algebra, Computational learning theory, Symbolic processing, ()
	Operations Research	Linear/Nonlinear programming, Dynamic programming, Integer programming, Game theory, Queuing theory, Petri-net, ()
	Probability and Statistics	Estimation/testing, Probability model, Computation of statistics/probability, Multivariate analysis, Time series analysis, ()
	Numerical Analysis	Error analysis, Function evaluation, Interpolation, Linear equations, Nonlinear equations, Eigenvalue problem, Numerical differentiation, Numerical integration, Differential equations, Partial differential equations, Integral equations, Special function, Random numbers, ()
02 Artificial Intelligence and Cognitive Science	Numerical Simulation	Finite element method, Difference method, Boundary element method, Monte Carlo method, Particle simulation, Visualization, ()
	High-Performance Computing	Parallelization, Vectorization, Performance evaluation, ()
03 Data Processing	Knowledge Processing	Search, Automatic theorem proving, Inference methods, Knowledge representation, Knowledge acquisition, Knowledge base, Non-monotonic logic, Fuzzy inference, Uncertainty processing, Learning, Understanding/ Identification theory, ()
	Artificial Intelligence System	Expert system, Expert system development tools, Game program, Intelligent robot, ()
	Natural Language Processing	Machine translation, Morphological analysis, Syntax analysis, Semantic analysis, Sentence generation, Discourse understanding, Grammar, Dictionary, ()
	Pattern Recognition Processing	Speech recognition, Speaker recognition, Image understanding, Object recognition, Character recognition, Remote sensing, Drawing recognition, ()
	Biological Information	Vision, Auditory sense, Neural model, Cybernetics, Neural network, Self organization, Hereditary algorithm, Artificial life, ()
	Sensuous Information Processing	Psychological model, Behavior model, Mental model, ()
4 Software	Speech Processing	Speech analysis, Speech synthesis, ()
	Image Synthesis/ Processing	Image improvement, Bandwidth compression, Encoding, Surface synthesis, Tomography, 3D processing, Graphics, Animation, ()
	Text Processing	Word Processing, Japanese language input/output, Document processing, Desk top publishing, Font design, Pattern matching algorithm, ()
4 Software	Multimedia Processing	()
	Fundamental Theory	Theory of programs, Operating system theory, Database theory, Formal semantics, Programming methodology, Program verification, Category theory, Attribute grammar, Computational paradigm, Program synthesis/ transformation, ()
	Programming Languages and Specification languages,	Procedural languages, Logic programming languages, Functional languages, Object-oriented languages, Concurrent languages, System descriptonal languages, Formula manipulation languages, Simulation languages, Specification languages, ()
	Language Processor	Syntax analysis, Code Generation, Optimization, Compiler, Interpreter, Parallel compiler, ()
	Tool	Editor, Debugger, Verifier, Compiler generator, Paralellization aid tools, ()
	Window system	()
	Operating System	Memory management, Input/Output management, Failure/Recovery management, Communication management, File management, Job/Task management, Automatic/Unattended operation, Parallel distributed processing, Exception processing, Performance evaluation, ()
Database/Information Retrieval	Data model, Data languages, Database design, Query processing, Transaction processing, Integrity constraint, File organization, Access method, Distributed database, Multimedia database, Deductive database, Object-oriented database, ()	
Programming Technique	Data structures, Garbage collection, Hashing, Sorting, Searching, Vectorization, Paralellization, ()	
Human Interface	()	

05 Software Engineering	Development Technique Test and Maintenance Software Process Development Human Factors Software Quality	Design theory, Requirement analysis, Specification methodology, Programming methodology, Prototyping, Software parts/Reuse technique, Domain analysis/Modeling, Automatic program generation, Specification verification, () Program testing and debugging, Program verification, Performance evaluation, Program analysis, Maintenance/Production management, Metrics, () Process model, Process programming, Process management, () Architecture theory, Distributed development environment, Text processing aids, Environment Repository/SEDB, () Man machine interface, Worker education, Project management, Programming behavior, () Quality guaranty, Quality management, Quality metrics, Reliability estimation, ()
06 Hardware	Fundamental Theory Logic Circuit Testability circuit, () Device Architecture Peripheral and Terminal Design Technology and Design Automation Development Environment Test/Verification	Combinatorial circuit theory, Sequential circuit theory, Logic design theory, Layout algorithm, Hardware algorithm, () Memory circuit, Arithmetic circuit, Control circuit, Error detection/correction circuit, Logic device, Memory device, Input/Output device, ASIC, PLD, () General purpose computer, Special purpose computer, High-level language machine, Super computer, Workstation, Micro-processor, Non von neuman architecture, Parallel architecture, Interconnection network, Fault tolerance, Real-time system, DSP, Neuro-computer, Optical computer, () External memory, Display, Hardcopy device, OCR, Image input/output device, Speech input/output device, () Architecture design, Functional design, Logic design, Layout design, Test generation, Design description language, Logic composition, () Integration tools, Design environment, Design database, () LSI test, Hardware design verification, Performance evaluation, ()
07 Network	Communication Technology Network Management Computer Network	Data switching method, Communication method, Image communication, Traffic theory, Network architecture, Protocol, Protocol verification, () Name management, Path management, Failure/Recovery management, () WAN, LAN, Electronic conference, Electronic bulletin board, Electronic mail, Distributed processing, ()
08 System	Interactive System Groupware Online System Control System System Performance	System architecture, Methodology, CAE, CAD, CAM, CIM, CAI, Control system, Tutor system, Decision system, Office system, () Fundamental groupware, Group work application, Group work infrastructure, Distributed office, Multi-user interface, Case study, () Reservation system, Banking system, () Process control, Numerical control, Communication control, Industrial robot, FA, () Evaluation technique, Evaluation criteria, Evaluation model. ()
09 Reliability and Security	Reliability Security	Reliability theory, Integrity theory, Reliability evaluation, Trouble analysis, () Cryptography, Authentication, Key management, Key transfer, Security, ()
10 Application	Application in Industry Application in Engineering Application in Art Application in Other Areas	Office, Government, Management, Finance, Information service, Production control, Computer center management, Education, () Aviation/Space, Mechanical, Civil, Architecture, City/Urban planning, Electrical/Electronic, Instrumentation, Biology, Physics, Chemistry, Nuclear, Transportation/Traffic, Medical/Dentistry, () Music, Graphic, Industrial design, () Natural science, (), Social science, (), Cultural science, () Aid for the handicapped, ()
11 Others		

When appropriate keywords that describe the contents of your paper are not found, or if there are any keywords more suitable, write them below.

- | | |
|-----|-----|
| (1) | (4) |
| (2) | (5) |
| (3) | |

Table 2: METHODS AND TECHNIQUES

M1 Mathematical and/or theoretical proofs
M2 Preparation and execution of programs, or simulation thereof
M3 Implementation and analysis of existing systems and posed requirements
M6 Others

Specify:

定期刊行物の省略記法

(ISO 4, ISO 833による)

誌名	省略記法
ACLS Newsletter	ACLS Newsl.
ACM Transactions on Database Systems	ACM Trans.Database Syst.
ACM Transactions on Mathematical Software	ACM Trans.Math. Softw.
ACM Transactions on Programming Languages and Systems	ACM Trans.Prog.Lang.Syst.
Acta Informatica	Acta Inf.
AEDS Journal	AEDS J.
AEDS Monitor	AEDS Monit.
ALGOL Bulletin	ALGOL Bull.
American Journal of Computational Linguistics	Am.J.Comput.Linguist.
American Scientist	Am.Sci.
Annals	Ann.
The Annals of the American Academy of Political and Social Science	Annals AAPSS.
Applied Mathematics and Computation	Appl.Math.Comput.
Artificial Intelligence	Artif.Intell.
Association for Linguistic Computing-Bulletin	Assoc.Lit.Linguist.Comput.Bull.
The Australian Computer Journal	Aust.Comput.J.
Bell Systems Technical Journal	Bell Syst.Tech.J.
bit	bit
Communication of the ACM	Comm.ACM
Computer	Computer
Computer Aided Design	Comput.Aided Des.
Computer Bulletin	Comput.Bull.
Computer Design	Comput. Des.
Computer Educator	Comput.Educ.
Computer Graphics and Art	Comput.Gr.Art
Computer Vision Graphics and Image Processing	Comput.Gr.Image Process.
Computer Graphics Newsletter	Comput.Gr.Newsl.
Computer Journal	Comput.J.
Computer Languages	Computer Lang.
Computer Methods in Applied Mechanics and Engineering	Comput.Methods in Appl.Mech.Eng.
Computers and Biomedical Research	Comput.Biomed.Res.
Computers & Graphics	Comput.Gr.
Computers and Humanities	Comput.Hum.
Computing	Computing
Computing Newsletter	Comput.Newsl.
Computing Surveys	Comput.Surv.
Datamation	Datamation
Education Technology	Educ.Tech.
Engineering and Instrumentation	Eng.Instrum.
IBM Journal of Research and Development	IBM J.Res.Dev.
IBM Systems Journal	IBM Syst.J.
IEEE Spectrum	IEEE Spectrum
IEEE Transactions on Computers	IEEE on Trans.Comput.
IEEE Transactions on Software Engineering	IEEE Trans.Softw.Eng.
Industrial Engineering	Ind. Eng.
Information and Control	Inf.Control
Information Processing and Management	Inf.Process.Manage.
Information Processing Letters	Inf.Process.Lett.
Information Science	Inf.Sci

誌名	略記法
The Information Scientist	The Inf.Sci.
Information Systems	Inf.Syst.
Instrumentation Technology	Instrum.Technol.
International Journal of Bio-Medical Computing	Int.J.Bio-Med.Comput.
International Journal of Computer and Information Sciences	Int.J.Comput.Inf.Sci.
International Journal of Computer and Mathematics	Int.J.Comput.Math.
International Journal of General Systems	Int.J.General Syst.
International Journal of Man-Machine Studies	Int.J.Man-Mach.Stud.
Journal of the ACM	J.ACM
Journal of the American Society for Information Sciences	J.Am.Soc.Inf.Sci.
Journal of the American Statistical Association	J.Am.Stat.Assoc.
Journal of Chemical Information & Computer Sciences	J.Chem.Inf.Comput.Sci.
Journal of Clinical Computing	J.Clin. Comput.
Journal of Computational Physics	J.Comput.Phys.
Journal of Computer and System Sciences	J.Comput.Syst.Sci.
Journal of Cybernetics and Information Sciences	J.Cybern.Inf.Sci.
Journal of the Franklin Institute	J.Franklin Inst.
Journal of Symbolic Logic	J.Symbolic Logic
Journal of Systems Management	J.Syst.Manage.
Law and Computer Technology	Law Comput. Technol.
Management Information Systems Quarterly	Manage.Inf.Syst.Q
Management Science	Manage.Sci.
Mathematical Programming	Math.Program.
Mini-Micro Systems	Mini-Micro Syst.
Nachrichtentechnische Zeitschrift	Nachrichtentech.Z.
Operations Research	Oper.Res.
Pattern Recognition	Pattern Recogn.
Popular Computing	Pop.Comput.
Proceedings of the IEEE	Proc.IEEE
Proceedings of the SID	Proc.SID
Science	Science
Scientific American	Sci.Am.
SIAM Journal on Applied Mathematics	SIAM J.Appl.Math.
SIAM Journal on Computing	SIAM J.Comput.
SIAM Journal on Control	SIAM J.Control
SIAM Journal on Mathematical Analysis	SIAM J.Math.Anal.
SIAM Journal on Numerical Analysis	SIAM J.Num.Anal
SIAM Review	SIAM Rev.
SID Journal	SID J.
Simulation	Simulation
Software-Practice & Experience	Softw.Pract.Exper.
Soviet Cybernetics Review	Sov.Cybern.Rev.
Theoretical Computer Science	Theor.Comput.Sci.

注) 一般的に会議論文集は次のように略記する。 Proc.* * th 会議名 開催年 (例) Proc. 8 th IJCAI 1990

情報処理学会関連の英文表記および略記

誌名	省略記法
情報処理学会 (Information Processing Society of Japan)	IPS Japan
学会誌「情報処理」 (Journal of Information Processing Society of Japan)	J.IPS Japan
論文誌 (Transactions of Information Processing Society of Japan)	Trans.IPS.Japan
旧欧文誌 (Journal of Information Processing)	J.Inf.Process.
旧英文誌 (Information Processing in Japan)	略記しない
全国大会 (The**th Annual Convention IPS Japan)	
全国大会論文集 (Proceedings of the **th Annual Convention IPS Japan)	Proc.**th Annual Convention IPS Japan
功績賞 (IPSJ Contribution Award)	
論文賞 (IPSJ Best Paper Award)	
研究賞, 山下記念賞 (IPSJ SIG Research Award)	
奨励賞 (IPSJ Convention Award)	
情報処理学会30年のあゆみ－活動の軌跡と技術展望 (IPSJ and Its 30years-Review of Its Activities and Technical Perspective)	